

はじめに

この報告書は、2014-5年度 関西学院大学社会学部授業科目社会調査実習(大谷)の研究成果をまとめたものである。

まず、関西学院大学大谷ゼミ16期生のゼミ活動について簡単に整理しておこう。16期生のゼミ活動を語るうえで最も影響を受けたのは、就職活動の日程が改悪されたことであった。前年までは、4年の4月から実施されていた面接・選考が、8月へとずらされてしまったのである。その目的は大学での勉学を重視するということであったが、結局は就職活動期間が長くなっただけに終わったのが現実であった。前年までは6月にはゼミ活動が開始できていた状況が、16期生の場合は、4年の前期だけでなく夏休みも就職活動に振り回され、実質的なゼミ活動が開始できたのは秋学期になってからであった。この事実は、ゼミ生たちの卒業研究にも大きな影響を与え、とてもタイトな日程でこの報告書を仕上げることになってしまったのである。16期生にとってはとても大変な日程であったといえるだろう。

ゼミでは、政府が実施する統計調査や世論調査が抱えている問題点を中心テーマとして、それらを改善するための方策を、関学生を対象とした質問紙調査を実施することによって解明していくという形でゼミ活動が展開された。

大谷が2013-5年の2年間、内閣府大臣官房広報室の「世論調査に関する有識者検討会」の委員を務めていたこともあって、内閣府が実施する「国民生活に関する世論調査」の問題点について、有識者会議の動向も踏まえて、政府統計調査の問題点についてゼミで議論することからゼミ活動が開始された。また、関学生の生活行動を把握する調査を設計するにあたっては、都市社会学の古典である鈴木栄太郎の『都市社会学原理』の調査研究を参考に、それを改善していくことを目標とした。(大谷信介・山下祐介・笹森秀雄編著『グローバル化時代の日本都市理論～鈴木栄太郎「都市社会学原理」を読み直す』ミネルヴァ書房 2015年)(大谷信介「政府・地方自治体の政策立案過程における社会調査」の役割―統計行政を踏まえた社会学からの問題提起『社会学評論』262 2015年を参考とした)

実際の調査は、大谷が担当していた都市社会学と社会調査論の受講生に協力してもらい、3回の質問紙調査を実施した。調査票の作成、調査結果の入力作業、SPSSによるデータ解析にあたっては、家高裕史が中心となってゼミ生全体で作業した。この報告書に掲載されている原稿は、各人の卒業論文をベースとして、特に調査結果をわかりやすく提示することを考えて報告書原稿として再構成したものである。報告書全体の編集作業は、大村和也を編集長として家高裕史・西岡賢亮が担当した。このようにこの報告書は、学部学生が共同してデータ作成・分析・執筆・編集して完成させたものである。内容的には稚拙で不備な点多々あると思われるが、彼等がひたむきに研究に取り組んできたことは確かな事実である。

就職活動の改悪で翻弄された16期生であったが、巻末に整理されている徳島大学との合同ゼミ合宿や「内閣府の景気ウォッチャー調査に関する講演会」を自主的に企画するなど活発なゼミ活動を展開したことは特筆すべき点といえるだろう。

徳島大学矢部拓也教授、鳴門市長、鳴門市企画総務部の皆様、内閣府参事官廣瀬健司様には、学生企画に協力いただき大変お世話になった。この場を借りてお礼を申し上げたい。

学問や研究というものは、必ずしも大学の時だけで終わるものではなく、むしろ学生が社会に出た後にこそ、社会的な問題意識が芽生えてくるのが普通である。

今回の調査分析過程、報告書作成過程、ゼミで交わした活発な議論等が、今後のゼミ生達の人生のなかですこしでも役立つことがあるならば、この実習を指導したものとしてとても幸いなことである。今後のゼミ生達のさらなる飛躍を期待してやまない。

2016年 2月 26日

関西学院大学 社会学部教授 大谷 信介

目次

1章 大学生の生活時間について

生活時間調査の問題点の考察と新たな調査方法の提案	大村和也	……	1
関学生のテレビ視聴行動	川上桃子	……	8

2章 大学生の買い物行動について

関学生の美容院行動モデル	谷瞳		
	田代千賀	……	16
トッパスから見る関学生の買い物行動	上田一誠	……	26
買い物行動～トッパスを購入する場所	藤田朱音	……	30
関学生の生活～読書編～	栄永千琴		
	中村美冴	……	37

3章 大学生の人間関係について

関学生の映画鑑賞行動	半田 咲		
	京極周子	……	43
大学生の旅行行動分析	松永篤史		
	小山源太	……	53

4章 大学生の家族関係について

現代学生の親子関係	遠藤大貴		
	大野孝郎	……	57

現代学生の兄弟関係

	山崎周平	……	62
--	------	----	----

5章 国勢調査・過去調査との比較

関学生の国勢調査回答実態と「従業地・通学地に関する質問」の考察	家高裕史	……	98
大学生の生活行動は17年間でいかに変化したか?	山本航平	……	75

資料編

コーディングマニュアル	西岡賢亮	……	79
単純集計表		……	89

活動記録

徳島ゼミ合宿	……	105
廣瀬内閣府参事官講演会	……	108
香港深セン旅行	……	109

ゼミ生紹介	……	112
-------	----	-----

DVD 目次	……	114
--------	----	-----

編集後記

1章 大学生の生活時間について

生活時間調査の問題点の考察と新たな調査方法の提案

大村和也

はじめに

現在行われている生活時間を把握するための調査として、『NHKの生活時間調査』と総務省の『社会生活基本調査』の2つがあげられる。これらの調査は長年行われてきているが問題点が存在する。それは「とある1日という聞き方」と「24時間の表にすべての項目を手書きで何時何分と聞くこと」の2点である。どちらの調査もともに、調査日の翌日、翌々日の2日間を5ブロックに分けて調査している。さらに後者では趣味などは年当たりで聞き、生活時間は1日当たりで聞くなど質問ごとに単位がバラバラになっている。（調査票は巻末資料参照）

もし、この調査で学生を対象にすると、アルバイトだけの日、授業の日、サークルの日など1日がイレギュラーなので、結果がばらばらになりまとめた測定ができなくなってしまう。現に、NHKの国民生活時間調査においては、大学生というくくりで調査を行うことをあきらめ、小中高校生と同じグループにまとめてしまっているのが現状である。

そこで我々の調査ではとある1日というくくりをやめ、1週間単位で聞くことでこの問題を解決しようと考えている。そのうえで、1週間単位で聞いたものを1日単位に変えていく作業が必要になってくる。これらの作業を通してイレギュラーな大学生の生活時間をモデル化し、主婦や今後増加が予想される高齢者の生活時間モデルを作成するための第一歩にしていきたいと考えている。

1. 学生の生活時間に関する調査結果の分析

まず、2015年11月調査の以下の質問の結果を使って、大学生の1日の生活時間のモデルを作成したいと思う。

学生の1日の生活時間モデル作成に参考となる質問文

項目	質問番号	内容
授業	30	日数
	31	コマ数
	32	出席率
	33	成績
部活・サークル	35	加入していたか否か
	36	部活・サークルの種類
	37	週あたり参加日数
	38	週あたり参加時間
アルバイト	41	アルバイトしているか否か
	42	週あたり勤務日数
	43	週あたり勤務時間

※質問文の詳細は巻末参照

<授業に関する調査結果の特徴>

①授業日

平均 4.5日 最小値 1日 最大値 6日 標準偏差 0.78 (有効ケース数:258)

・全体の65.1%が「5日」、24.4%が「4日」と回答。「6日」と回答したのは一人だけであり、土曜日の特別講義に出席しているものと思われる。

②コマ数

平均 12.4 コマ 最小値 2 コマ 最大値 17 コマ 標準偏差 2.84 (有効ケース数:246)

- ・「教職などの特別講義を受講していない1回生」の最大コマ数である「14コマ」が全体の46.3%で最も多い
- ・学年による差が大きく、学年が上がるごとに減少する

学年ごとの受講コマ数

学年	平均	最小	最大	標準偏差	有効ケース数	備考
1	13.5	3	17	1.86	120	60.8%が「14コマ」と回答
2	13.1	3	15	1.78	68	57.4%が「14コマ」と回答
3	9.8	3	14	2.43	39	人による差が大きくなる
4	8	2	16	4.27	17	サンプル数が少なく、偏差が大きい

③出席率および成績

出席率はおおむね高く「1.よく出席した」「2.ややよく出席した」が合計で90%以上を占める。出席率と成績は相関があり、出席率が高いほど成績も良い。

出席率と成績のクロス表

		成績				合計	
		ほとんどがA以上	A以上が多い	A以上は少ない	ほとんどA以上はない		
出席率	よく出席した	度数	47	80	34	12	173
		出席率の%	27.2%	46.2%	19.7%	6.9%	100.0%
		成績の%	97.9%	73.4%	43.6%	44.4%	66.0%
	ややよく出席した	度数	1	27	32	5	65
		出席率の%	1.5%	41.5%	49.2%	7.7%	100.0%
		成績の%	2.1%	24.8%	41.0%	18.5%	24.8%
	あまり出席していなかった	度数	0	2	12	6	20
		出席率の%	0.0%	10.0%	60.0%	30.0%	100.0%
		成績の%	0.0%	1.8%	15.4%	22.2%	7.6%
	ほとんど出席していなかった	度数	0	0	0	4	4
		出席率の%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
		成績の%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	1.5%
合計		度数	48	109	78	27	262
		出席率の%	18.3%	41.6%	29.8%	10.3%	100.0%
		成績の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

p<0.05

<部活・サークル活動に関する調査結果の特徴>

① 加入状況

加入している 82.9%(218) 加入していない 17.1%(45) (有効数 263)

- ・現在の学生のほとんどがサークルに加入していると言ってもよい数字が出た。

② 参加する部活・サークルの種類 (分母は加入者のみでのもの)

体育会系部活 17.1%(37) 文化系部活 11.5%(25)
 体育会系サークル 52.5%(114) 文化系サークル 15.7%(35)
 学外活動 3.2%(7)

- ・部活動よりもサークル活動に従事する学生の割合の方が高いという特徴がある。

③ 週当たり参加日数

平均 2.3 日 最小値 0.2 日 最大値 7 日 標準偏差 1.70 (有効ケース数:203)

- ・ 体育会系部活は参加日数がずば抜けて多い。体育会系部活とそれ以外で大きな差が生まれ、2 極化している。

部活サークルごとの参加日数

部活・サークル種類	有効ケース	平均	最小	最大	標準偏差	備考
体育会部活動	36	4.9028	1	7	1.77208	75%が週5日以上
文化系部活動	24	2.25	1	5	1.22474	87.5%が週3日以下
体育会サークル	103	1.5966	0.2	6	0.9178	86.2%が週2日以下
文化系サークル	32	1.875	1	5	1.1288	90.6%が週3日以下
学外活動	8	1.9	0.2	4	1.20475	サンプル数が非常に少ない

④ 週当たり参加時間

平均 6.9 時間 最小値 0.3 時間 最大値 60.0 時間 標準偏差 8.35 (有効ケース数:203)

- ・ 体育会部活動が全体平均を押し上げる結果となった。
- ・ 参加日数の差が週当たりの参加時間にそのまま表れていると言える。

部活サークルごとの参加時間

部活・サークル種類	有効ケース	平均	最小	最大	標準偏差	備考
体育会部活動	35	16.5714	2	60	15.0319	40%は15時間以上
文化系部活動	24	4.6667	1	15	3.3708	66.7%は5時間以下
体育会サークル	102	4.7971	0.3	20	3.49595	2時間が24.5%最頻値
文化系サークル	33	4.8939	0.5	20	4.17163	72.7%は5時間以下
学外活動	8	6.625	1	20	6.54517	サンプル数が少ない

<アルバイトに関する調査結果の特徴>

① アルバイト している 79.2%(209) していない 20.8%(55)(有効ケース 264)

- ・ サークルに所属する学生たちの方がアルバイトをしている傾向にある。
→部活が忙しくなるとアルバイトができないという可能性

部活サークル種類とアルバイトをしているか?のクロス集計

部 サークル種類			バイト有無		合計
			はい	いいえ	
体育会部活動	度数		24	13	37
	部 サークル種類の %		64.90%	35.10%	100.00%
文化系部活動	度数		16	9	25
	部 サークル種類の %		64.00%	36.00%	100.00%
体育会サークル	度数		101	12	113
	部 サークル種類の %		88.60%	10.50%	100.00%
文化系サークル	度数		28	7	35
	部 サークル種類の %		80.00%	20.00%	100.00%
学外活動	度数		6	2	8
	部 サークル種類の %		75.00%	25.00%	100.00%
無所属	度数		34	12	46

②勤務日数 平均値 2.9952 日 最小 1 日 最大 6 日 標準偏差 0.95825 (有効ケース 209)

- ・ 無所属の学生はサークルが無い分アルバイト日数が多くなっている
- ・ 生活重点による変化も生じている。特に、アルバイトに打ち込む学生は日数が多くなっている。

部活サークル種類別（無所属込み）日数比較

部活・サークル種類	有効ケース数	平均	最小	最大	標準偏差
体育会部活動	24	2.4583	1	6	1.25036
文化系部活動	16	2.4375	1	4	0.81394
体育会サークル	101	3.1188	1	6	0.86356
文化系サークル	28	2.7857	2	5	0.7868
学外活動	6	3.1667	2	4	0.75277
無所属	34	3.4118	2	6	0.95719

生活重点別 アルバイト日数

生活重点	有効ケース数	平均	最小	最大	標準偏差
ゼミや授業	40	2.75	1	5	0.74248
部活サークル	76	2.8026	1	5	1.02006
自分の趣味	30	3.1	2	4	0.80301
アルバイト	24	3.7083	2	6	0.80645
恋愛関係	9	3.6667	2	6	1.5
その他	8	3.25	2	4	0.88641
特に置いていない	21	2.8571	2	5	0.72703

③週当たり勤務時間

平均 15.68 時間 最小 2.0 時間 最大 50.0 時間 標準偏差 7.325 (有効ケース数:208)

- ・無所属の学生、アルバイトに重点を置く学生は他の学生に比べて長くなっている。
- ・体育会部活動の学生、学外活動の学生が短い。
- ・部活サークルに重点を置く学生は、体育会部活の学生とサークルの学生が混在していると考えられる。
→これらのことから、サークルとアルバイトではどちらかが長くなればどちらかが短くなるという関係性が見られる。

2. 学生生活時間調査における生活時間項目の定義

学生生活を捉えていく上で、学生の行動は部活動・サークル活動のある日、アルバイトのある日、授業に行くだけの日など、日ごとに生活時間がバラバラになっていることが難点である。それを解消するためには1週間など決められた単位で聞き、それを1日単位に直す必要がある。この章では先ほど紹介した調査結果の各行動を1日単位に計算しなおし、生活時間モデルを作るための定義づけをしていく。

<学校にいる時間の定義>

N=268	調査項目	調査結果	調査結果備考	「1日あたり」への換算式	換算結果	換算結果備考
授業	1週間あたりの授業のある日数	平均 4.5日 最小値 1日 最大値 6日 (有効ケース数:258)				
	1週間あたりの授業コマ数	平均 12.4コマ 最小値 2コマ 最大値 17コマ (有効ケース数:246)	学年による差が大きい	$(2 \times \text{コマ数} \times \text{出席係数}) / 5 = 1$ 日あたり学校にいる時間	平均 4.0時間 最小値 0.2時間 最大値 6.8時間 (有効ケース数:241)	
	出席率(よく=75%以上、ややよく=50%~75%、あまり=25%~75%、ほとんど=25%以下)	よく出席した 66.3%(173) ややよく出席した 24.6%(65) あまり出席していなかった 7.6%(20) ほとんど出席していなかった 1.5%(4) NA(4)	17年前と選択肢を合わせたのが、現在では50%以上の講義に出席する学生がほとんど			

大学生にとってなじみの深い「コマ数」を用いて $(2 \times \text{コマ数} \times \text{出席係数}) / 5 = 1$ 日あたり学校にいると時間と定義する。コマ数は1日のコマ数を聞くのではなく、週何日学校に通い、何コマ受講しているのか聞くという形をとった。次に、5で割った理由は5日が65%と最頻値で、平均値も4.5日という数字が出ていて、ほとんどの学生の受講日数が5日であるといえるからだ。これらの数字を用いて、1日当たり何コマ受講しているのかを計算する。もちろん、コマ数だけでは時間が分からない。そこで、本学の調査

では、コマ数に2倍にした。これは休み時間を考慮した結果である。1日3コマの学生が、1限から3限に受講していたと仮定すると9時から15時の6時間になることからこの数字は正しいと考えられる。

ところが、学生はサボることもあるので、この数字は本当に正確なのかという問題が出てくる。そこで、Q32、Q33にて出席率と成績について聞いているので、この回答を用いる。(図1、巻末資料より)前章の図3を見ていただきたい。まず、この質問において出席率を4段階で分類し、それぞれに上から1、0.75、0.5、0.25と設定した。また、成績が下がっていくほど出席率が下がっているとき傾向が見える。ここから、成績でAが50パーセント以下(回答3、4)の学生は出席率から0.25引くという作業を行った。この作業で出た数字を出席率とし、この数字を先ほど出した時間にかけていくことでさらにリアルな数字に近づけることができると考える。

<部活動 サークル時間の定義>

N=268	調査項目	調査結果	調査結果備考	「1日あたり」への換算式	換算結果	換算結果備考
部活・サークル	加入しているか/していないか	加入している 82.9%(218) 加入していない 17.1%(45) NA(5)				
	参加する部活・サークルの種類	体育会系部活 17.1%(37) 文化系部活 11.5%(25) 体育会系サークル 52.5%(114) 文化系サークル 15.7%(35) 学外活動 3.2%(7) NA(1)	分母は部・サークルに加入している218名			
	1週間あたりの参加日数	平均 2.3日 最小値 0.2日 最大値 7日 (有効ケース数:203)	体育会系部活は参加時間が長い			
	1週間あたりの参加時間	平均 6.9時間 最小値 0.3時間 最大値 60.0時間 (有効ケース数:203)		1週間の部活サークル時間/5 = 1日当たりの部活サークル時間	平均 1.4時間 最小値 0.1時間 最大値 12.0時間 (有効ケース数:201)	部活サークル加入者のみ

1週間の部活サークル時間/5=1日当たりの部活サークル時間と定義する。

今回の調査、前回の調査より、学生の8割前後はサークルに所属していることから、部活サークルは生活時間を把握するために重要であると言える。(巻末資料より)まず、部活動とサークルの違いを考慮しなければならない。部活動とサークルの最大の違いは活動日数の違いである。サークルは1週間当たりの活動日が週1日前後、文化系の部活が週2日前後、体育会部活は活動日が週5日前後という差がある。(図)

部活サークル比較 1日当たり参加時間

部 サークル種類	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
1. 体育会系の部活	3.3143	35	3.00638	0.4	12
2. 文化系の部活	0.9333	24	0.67416	0.2	3
3. 体育会系のサークル	0.9594	102	0.69919	0.06	4
4. 文化系のサークル	0.9788	33	0.83433	0.1	4
5. 学外活動(ボランティア等)	1.325	8	1.30903	0.2	4
合計	1.382	202	1.66993	0.06	12
NA		16			

やはり、この日数の差は無視できない。そこで、体育会の部活を基準に考えていくべきだと考える。体育会の部活は8割近くの学生が週5日以上活動していることから、1週間当たりの時間から、5で割ることで、体育会の学生とそれ以外の学生で差をつけることが可能になると考える。それをういた結果、以下のようなになった。(図より)体育会の学生たちは他の学生に比べ、著しく活動時間が長くなっていることがわかる。これによって他の生活時間にも影響を及ぼす可能性が示唆される。この件については後ほど考えていく。

<アルバイト時間の定義>

N=268	調査項目	調査結果	調査結果備考	「1日あたり」への換算式	換算結果	換算結果備考
アルバイト	バイトしているか/していないか	している 79.2%(209) していない 20.8%(55) NA(4)				
	1週間あたりの時間	平均 15.68時間 最小値 2.0時間 最大値 50.0時間 (有効ケース数:208)		1週間のアルバイト時間/7=1日当たりのアルバイト時間		
	1ヶ月あたりバイト代	平均値 48212円 最小値 6000円 最大値 110000円 (有効ケース数:126)			平均 2.2時間 最小値 0.3時間 最大値 7.1時間 (有効ケース数:208)	バイトしている人のみ

1 週間のアルバイト時間/7で1日当たりのアルバイト時間と定義する。

まず、2015年11月調査ではおよそ8割の学生がアルバイトをしていることから、アルバイトは学生生活に欠かせないと言える。(図5より)

次に、講義やサークルと違い7で割った理由を説明する。まず、自らの体験や友人の話から、大学生は、平日は講義があるため、あまりアルバイトができず、休日に固める傾向があると予想される。その予想が正しいかを検証していく。

以上は2014年12月に行った調査において、アルバイト時間を平日と休日に分けて聞いたものである。数値において、授業が無い休日の数字が大きく、休日にアルバイトをしていると言える。(図6より) そのため、アルバイトは平日のみで考えるのではなく、土日も含めた7日間で考えていく必要があるため、7で割るべきと考えた。

通学時間

通学時間は、時間帯や、乗り継ぎなどで毎日正確な時間を聞くのは不可能なので、**居住地から教室までの通学で見込んでいる時間**と定義する。また、往復をまとめて聞くと行きと帰りで違うから答えづらい可能性もあり、回答者の負担を減らすため、片道聞き、それを2倍して往復の通学時間と定義することにした。

テレビの時間

2014年12月、2015年7月調査において、テレビの視聴時間はリアルタイム視聴と定義づけて調査を行ってきた。しかし、テレビ局では見逃し配信を行うことや学生は録画によるタイムシフト視聴の割合が高くなっていることが無視できないと考えた。(2012年10月『放送研究と調査』より) よって、2015年11月調査においてはテレビ視聴時間を「**リアルタイム視聴+タイムシフト視聴**」と定義した。

自由時間

自由時間の定義は、NHKの生活時間調査の基準を参考として用いる。今回の学生生活時間調査においては、学校にいる時間、部活・サークル活動の時間、通学時間、睡眠時間以外とする。よって、インターネットの利用時間や、テレビの視聴時間は調査項目で聞いているが、これらの時間に関しては自由時間に含むこととする。

3. 大学生の1日当たりの生活時間モデルの全体像

定義の全体像=生活時間モデル

これらの定義によって、学生の生活時間を明らかにすることが可能であると考え。また、サークルの定義は高齢者の通院や、主婦のパートに、通学や学校にいる時間の定義は社会人の通勤や仕事に応用できると考える。

これまで、学生の生活時間を項目ごとに定義してきた。ここからは全体としての生活重点と所属ごとに生活時間の違いを見ていく。ただし、分析は268名の内、全項目に答え、24時間の生活時間モデルを組める214名分のもので行う。

全体平均の1日当たりの生活時間（単位は時間）

	度数	授業一日	部活サークル	アルバイト	通学時間	睡眠時間	自由時間	合計
全体	214	4.37	1.09	1.75	1.97	6.23	8.61	24.00

部活サークル種類毎の1日当たりの生活時間

部サークル種類	度数	授業一日	部活サークル	アルバイト	通学時間	睡眠時間	自由時間	合計
体育会部活動	33	4.09	3.07	0.98	1.66	6.00	8.19	24.00
文化系部活動	23	4.40	0.92	1.21	2.12	6.26	9.09	24.00
体育会サークル	83	4.31	0.92	2.07	1.69	6.32	8.68	24.00
文化系サークル	28	4.77	0.96	1.45	1.98	6.04	8.80	24.00
学外活動	7	4.47	0.94	1.67	1.98	6.29	8.65	24.00
無所属	40	4.39	0.00	2.23	2.69	6.31	8.38	24.00

生活重点毎の1日当たりの生活時間

生活重点	度数	授業一日	部活サークル	アルバイト	通学時間	睡眠時間	自由時間	合計
ゼミや授業	42	5.35	0.69	1.54	2.06	6.35	8.02	24.00
部活サークル	81	4.15	1.91	1.60	1.72	6.17	8.43	24.00
自分の趣味	34	4.00	0.59	1.48	1.93	6.21	9.79	24.00
アルバイト	21	4.32	0.28	3.08	2.68	5.90	7.73	24.00
恋愛関係	8	4.51	1.08	2.21	1.60	5.94	8.65	24.00
その他	6	3.28	0.11	2.17	1.47	6.67	10.30	24.00
特に置いていない	22	4.09	0.67	1.47	2.30	6.57	8.91	24.00

- ・ 体育会の部活動の学生は部活に時間を割いているため自由時間が短い。
- ・ 無所属の学生はサークルが無くなる分をアルバイト、通学時間に割いている。
- ・ 授業は誤差程度の差しかない。
- ・ ゼミや授業に重点を置く学生は、授業が長く、アルバイトや部活サークルの時間が減っている。
- ・ 自分の趣味に重点を置く学生は自由時間が長い。
- ・ アルバイトに重点を置く学生はアルバイトに打ち込んだ結果、部活サークルが短い。加えて、睡眠時間も短くなっている。
- ・ 特に重点を置かない学生はどれも平均的である。

→部活サークルをしているか、入っている場合はそのカテゴリーによって生活時間には大きな変化が生じていると考えられる。また、生活重点の違いによっても部活サークルほどではないが変化が生じた。

なお、自由時間の項目ごとの分析は、テレビについては川上、本については栄永、中村、旅行については松永、小山の論文に詳しいものがあるので、そちらを見ていただきたい。

まとめ

これまでの先行研究において、とある1日について聞くことで生活時間調査を行ってきた。しかし、学生の生活時間を聞くうえでこのやり方では全く分からなかった。そこで我々は、とある1日ではなく、平日もしくは1週間当たりの時間という単位に固定し、それを基に1日の時間を聞くという形をとり、イレギュラーな1日が極力出ないように質問文を作成した。しかし、今回の調査において、平均帰宅時間的な要素を含めた質問を入れることと、アルバイトに関して、時間、月収だけでなく時給を聞くことができなかった点が反省点として挙げられる。それでも、平日や1週間という以前より長い期間を単位にすることは、今後につながっていくだろう。この論文が日本人の生活時間を知る調査を変えるきっかけになることを願い締めさせていただきます。

序

今の大学生はどれくらいの時間テレビを見るのだろうか。そしてどのような番組を見ているのだろうか。視聴時間とおすすめの番組や録画行動についての調査をまとめた。

1, 先行研究について

社会生活基本調査（総務統計局）と国民生活時間調査（NHK放送文化研究所）ではテレビ視聴時間について集計・分類が異なっており、社会生活基本調査は調査票AとBの間でも違いがある。

表1 調査について

		社会生活基本調査		国民生活時間調査
		調査票A	調査票B	
方式		プリコード	アフターコード	プリコード
行動分類	大分類	12テレビ・ラジオ・新聞・雑誌 (行動分類は全20分類)	5自由行動	自由行動
	中分類		55マスメディア利用	マスメディア接触
	小分類		553テレビ	テレビ
内容例		テレビ・ラジオの視聴、新聞・雑誌の購読、テレビから録画したビデオを見る、インターネットで新聞を読む	テレビで映画を見る、子供とテレビを見る、パソコンでテレビを見る、ワンセグ視聴	BS、CS、CATV、ワンセグの視聴を含める

【テレビ視聴時間の集計について】

◆ 社会生活基本調査・調査票A

テレビ視聴は行動分類（全20分類）の内、「12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」として分類されている。録画視聴は備考欄において、「テレビ（録画を含む）・ラジオ（録音を含む）・新聞・雑誌による学習は「14 学習・自己啓発・訓練（学業以外）」とする」とあるので、録画した番組を学習目的で見る以外は12 テレビ・ラジオ・新聞・雑誌として集計されていると考えられる。

◆ 社会生活基本調査・調査票B

テレビ視聴は大分類「自由時間」の中分類「55マスメディア利用」の内、小分類「553テレビ」として分類されている。録画視聴は、小分類「554 ビデオ・DVD」として分類されており、調査票Aとは違い、リアルタイム視聴と録画視聴は別々に集計されている。

◆ 国民生活基本調査

テレビ視聴は大分類「自由行動」の中行動「マスメディア接触」の内、小分類「テレビ」として分類されている。録画視聴は小分類「ビデオ・HDD・DVD」として分類されているため、リアルタイム視聴と録画視聴は別々に集計されている。

【同時行動について】

同時行動に関する質問は、社会生活基本調査の調査票Aでは設けられていないが、調査票Bでは主行動を記入する欄の隣に同時行動を記入する欄が設けてある。統計局ホームページに掲載されている「調査の概要」に同時行動の結果に関する記述がある。国民生活時間調査では調査票に同時行動も線を引いてよいことになっている。「テレビ」は、ながらと専念別と自宅内・自宅外別の結果も公表されている。

2, ゼミの学生生活調査の結果 - テレビの平均視聴時間について

ゼミでこれまで行った3回の調査では共通して「平日のテレビ平均視聴時間」について質問した。2015年7月調査では授業のある日、授業のない日に分けて質問した。

表2-1 平均視聴時間

質問文	2014年12月		2015年7月				2015年11月	
	時間	人数	時間	人数	時間	人数	時間	人数
質問6 あなたは1日のうちどれくらいテレビを視聴していますか？1週間の平日の平均視聴時間をお答えください。	1時間45分	220	1.9636時間	330	3.0288時間	351	2.0921時間	247
質問58 あなたは一日平均何時間テレビを見ていますか？授業のある日の平均視聴時間をお答えください。(半角数字のみ・小数点可)	14時間	220	15.00時間	330	12.00時間	351	7.00時間	247
質問59 同じく、授業のない日(休日など)の平均視聴時間をお答えください。(半角数字のみ・小数点可)	2分	19	0.30時間	47	0.30時間	25	0.25時間	11
質問82 全員にうかがいます。平日の平均テレビ視聴時間は何時間ですか。録画したものを見る時間も含まれます。(半角数字のみ・小数点可)								
回答欄	()時間 ()分		()時間		()時間		()時間	
平均時間	1時間45分	220	1.9636時間	330	3.0288時間	351	2.0921時間	247
最大値	14時間	220	15.00時間	330	12.00時間	351	7.00時間	247
最小値	2分	19	0.30時間	47	0.30時間	25	0.25時間	11
視聴せず		19		47		25		11

平均視聴時間は2014年12月調査では**1時間45分**、2015年7月調査・授業のある日は**1.9636時間**、ない日は**3.0636時間**、11月調査では**2.0921時間**であった。(「視聴せず」とは「視聴時間0時間」と回答した人数であり、無回答は含んでいない。)

以下は大学生を分ける5つの属性別の平均視聴時間を表にしたものである。

表2-2 平均視聴時間 男女別・学年・居住形態別

性別	2014年12月		2015年7月				2015年11月	
	時間	人数	時間	人数	時間	人数	時間	人数
男性	1時間45分	90	2.02時間	143	2.92時間	148	1.93時間	104
女性	1時間45分	127	1.92時間	186	3.11時間	202	2.20時間	143
学年								
1年	1時間47分	79	1.95時間	190	3.00時間	201	1.99時間	114
2年	1時間43分	76	2.02時間	84	3.13時間	90	2.02時間	72
3年	1時間31分	45	1.96時間	38	3.14時間	41	2.44時間	39
4年	2時間19分	14	1.89時間	14	2.40時間	15	2.27時間	19
その他	3時間00分	1	1.62時間	4	2.75時間	4	1.50時間	2
居住形態								
実家	1時間42分	148	1.83時間	241	2.92時間	257	2.01時間	163
下宿	1時間51分	71	2.32時間	88	3.30時間	93	2.25時間	81

表2-2より、男女別と学年別の結果は調査ごとに異なる傾向が見られた。学年別では調査ごとに平均視聴時間が最も長い学年と最も短い学年が異なる。居住形態別では下宿している学生のほうが実家暮らしの学生よりもテレビを見ていることが4つの結果の共通した傾向が見られた。

表2-3 部活サークル加入状況・アルバイト参加状況別

	2014年12月		2015年7月		2015年11月			
部活								
している	1時間45分	169	1.94時間	263	3.02時間	280	2.10時間	202
体育会系部活	1時間56分	39	質問なし	質問なし			1.92時間	34
文化系部活	1時間31分	23					2.25時間	22
体育会系サークル	1時間35分	74					2.11時間	107
文化系サークル	2時間14分	23					2.09時間	32
学外活動	1時間39分	9					1.87時間	8
してない	1時間42分	49	2.03時間	65	3.08時間	69	2.05時間	43
バイト								
している	1時間42分	187	1.93時間	246	2.97時間	260	2.06時間	194
してない	2時間1分	33	2.03時間	84	3.17時間	91	2.19時間	52

部活・サークル加入状況別では平均視聴時間が長いのは2014年調査と2015年11月調査では加入している人、2015年7月調査では加入していない人と調査によって結果が異なった。種類別では体育会系部活と文化系サークルが2014年の調査では加入している人の平均視聴時間よりも長かったが、2015年11月調査では平均視聴時間よりも短く、調査によって異なる傾向が見られた。共通していることは学外活動をしている人は加入している人の平均視聴時間よりも短いということであった。

アルバイトの参加状況別では共通して、していない人のほうが平均視聴時間は長いということであった。

表2-2と表2-3の結果からよくテレビを見ているのは、

下宿をしていて、かつアルバイトをしていない学生と考えられる。

▲ 回答の様式について

回答の様式が2014年の調査では（ ）時間（ ）分、2015年の2調査では（ ）時間と異なる形で質問をした。結果の分析を行うに従い、2014年調査の様式のほうが比較をしやすいと思った。その理由として、「分」を明確に把握できるからである。2015年の2調査の様式では小数点以下の数字を「分」単位に変換することが難しいと感じた。時間について質問するときは回答の様式を（ ）時間（ ）分とすることで集計後の分析が簡単になると思う。

【「自由時間」とテレビ視聴時間の関係】

表3は2015年11月調査の、生活時間に関する質問の結果を用いて自由時間を算出し、忙しさごとに4分割したもの別の平均視聴時間を出したものである。

表3 自由時間4区分別の平均視聴時間

	平均視聴時間	人数
とても忙しい	2.1389時間	36
どちらかと言えば忙しい	2.2761時間	67
どちらかと言えば忙しくない	1.9815時間	54
忙しくない	2.1307時間	44
合計	2.1405時間	201

表3の結果より、関学生の平均視聴時間は忙しさ（自由時間の少なさ）には影響されていないと考えられる。

3, どのようなテレビ番組を見ているのか

1. 2014年12月調査

質問6 おすすめのテレビ番組を1つお答えください。

2014年12月調査ではテレビ番組のほかに、映画・アーティスト・単行本・漫画もおすすめのものを質問している。

表4 おすすめのテレビ番組

回答数	番組名
23	月曜から夜ふかし
13	アメトーク！！
11	しゃべくり007
5	報道ステーション
4	ドラマ
3	Nのために
	ディア・シスター
	世界の日本人妻は見た！
	世界の果てまでイッテQ！
	めざましテレビ
すぼると	
2	11番組(詳細は単純集計表に記述)
1	41番組(詳細は単純集計表に記述)

回答数 137 番組数 63

上位3番組だけで全回答数の34.3%を占めている。

2. 2015年7月調査

質問60 あなたはどのような番組を見ていますか。多い順に2つお答えください。

表5 質問で用いた番組のジャンル分け

1 ドラマ	2 映画	3 スポーツ	4 音楽	5 バラエティ
6 アニメ・特撮	7 ニュース・報道	8 ワイドショー	9 ドキュメンタリー	10 その他

この10つのジャンルは、Yahoo!テレビのジャンル一覧などを参考に設定した。この質問では10の番組のジャンルの中から、よく見るジャンルを2つ選択して回答してもらった。表5は10人以上から回答を得た上位8通りの組み合わせである。

表6 10人以上から回答を得た組み合わせ

一番目	二番目	回答数	割合
バラエティ	ドラマ	52	14.2
ドラマ	バラエティ	43	11.8
バラエティ	ニュース・報道	40	11
ニュース・報道	バラエティ	20	5.5
バラエティ	音楽	19	5.2
バラエティ	スポーツ	17	4.7
スポーツ	バラエティ	14	3.8
バラエティ	映画	13	3.6
以下42通りの組み合わせ(詳細は単純集計表に記述)			

回答数 365 組み合わせ 50通り

表6の結果で注目すべきは上位の回答にはすべて「バラエティ」が選択されていることであろう。全組み合わせ（50通り）のうち14通りでバラエティが選択されていた。

質問61から質問78まで

あなたは以下のテレビドラマを今年の4月から6月までの間に見ましたか？

質問79から質問85まで

あなたは以下のバラエティ番組を今年の4月から6月までの間に見ましたか？

この質問ではテレビドラマ18番組、バラエティ番組7番組についてみ見たかどうかをはい・いいえで回答してもらった。

表7 各番組の見た人の数と割合、4月から6月までの平均視聴率

	番組名	見た人	平均	最高		番組名	見た人	平均	最高
ドラマ	ようこそ、わが家へ	28.3%	12.5%	15.0%	バラエティ	世界の果てまでイッテQ!	62.4%	19.4%	20.9%
	Mother game	21.1%	8.8%	10.5%		ザ!世界仰天ニュース	51.1%	13.9%	14.1%
	アルジャーノンに花束を	21.0%	8.6%	11.5%		行列のできる法律相談所	44.0%	16.1%	18.4%
	まれ(※)	16.4%	20.6%	22.7%		ザ!鉄腕!DASH!	40.3%	17.8%	20.3%
	Dr.倫太郎	16.3%	12.7%	13.9%		天才!志村どうぶつ園	23.7%	13.8%	14.4%
	天皇の料理番	14.9%	14.9%	17.7%		笑点	12.9%	15.9%	17.6%
	アトムホーム	14.4%	14.8%	19.0%		爆報THEフライデー	7.5%	13.7%	14.9%
	どS刑事	13.1%	9.3%	12.7%					
	ワイルド・ヒーローズ	13.2%	8.7%	10.2%					
	心がポキッとね	11.3%	6.6%	10.4%					
	戦う書店ガール	9.6%	4.8%	6.4%					
	医師たちの恋愛事情	8.5%	8.5%	10.3%					
	花燃ゆ(※)	7.7%	10.6%	12.6%					
	ヤメゴク	6.9%	6.5%	9.1%					
	三匹のおっさん3	3.2%	8.6%	11.0%					
	美女と男子(※)	2.4%	5.3%	6.8%					
	警視庁捜査一課9係	2.4%	11.9%	13.9%					
	天使と悪魔	1.3%	6.1%	6.8%					

ドラマは4月から6月にかけて放送された番組から18番組を抜粋、バラエティ番組はビデオリサーチ社の週間高世帯視聴率番組10(関東地区)の「その他の娯楽番組」部門の、4月6日(月)～4月12日(日)分から6月15日(月)～6月21日(日)分までの11週分に登場した回数が5回以上の番組について質問した。
(注)ドラマのうち、(※)がついている番組は4月から6月までの平均視聴率と最高視聴率である。(視聴率はすべてビデオリサーチ社調べ)

ドラマで最も関学生に見られていたのは「ようこそ、わが家へ」で**28.3%**、バラエティでは「世界の果てまでイッテQ!」で**62.4%**だった。バラエティ番組の上位4番組は「ようこそ、わが家へ」よりも見た人が多く、ドラマとバラエティの間の比較では、バラエティ番組のほうが関学生にはよく見られていると考えられる。

視聴率との比較では、ドラマの場合は見た人の割合と視聴率の高さはあまり関係がないと考えられる。バラエティの場合は平均視聴率が最も高い「世界の果てまでイッテQ!」が最も関学生に見られた番組であったが、それ以外の6番組は視聴率と見た人の割合はドラマと同様に関係がないと考えられる。

質問86 あなたは家族や同居している人と一緒にテレビを見ることがありますか？

表8 居住形態別、実家生の学年別・男女別

	はい	いいえ	計
全体	312人 (83.6%)	61人 (16.4%)	373人
居住形態別			
実家	247人 (95%)	13人 (5%)	260人
下宿	64人 (57.1%)	48人 (42.9%)	112人
実家生			
学年			
1年	144人 (96%)	6人 (4%)	150人
2年	64人 (94.1%)	4人 (5.9%)	68人
3年	27人 (90%)	3人 (10%)	30人
4年	8人 (100%)	0人 (0%)	8人
その他	4人 (100%)	0人 (0%)	4人
計	247人	13人	260人
男女別			
男	96人 (88.9%)	12人 (11.1%)	108人
女	150人 (99.3%)	1人 (0.7%)	151人
計	246人	13人	159人

全体では83.6%の人が家族や同居している人と一緒にテレビを見ることがあると答えた。居住形態別では実家生では95%の人が、下宿生では57.1%の人が一緒にテレビを見ていた。実家生に限定した場合、学年別では4年生とその他の人が全員一緒にテレビを見ると回答し、男女別では女性のほうが一緒にテレビを見る人が多かった。

この質問は調査に回答したすべての学生を対象にした質問であるが、下宿生の場合、「寮暮らし」あるいは「シェアハウスなどの共同生活住宅」などで生活している学生を除けばほとんどが一人暮らしだと推測される。それゆえ下宿生の「一緒に見た人：64人」と結果は信ぴょう性に欠ける部分があると考えられる。今後同様の質問をする際は「質問時点で誰かと同居している学生」を対象に質問するべきだと思った。

3、2015年11月調査

この調査では録画行動について質問した。NHK放送文化研究所の調査によれば、テレビの視聴時間は以前の調査に比べて短時間化、つまりは減少している。しかし、デジタル録画再生機の所有率や録画したテレビ番組への接触（再生して見ること）は増加している。この調査結果をうけて、大学生の録画行動について知りたいと思い質問した。

質問83 11月9日から15日の一週間でテレビ番組を録画しましたか。

質問84 一週間でテレビ番組を何本録画しましたか。

質問85 録画したテレビ番組をすべてお答えください。帯番組は録画回数を番組名の後に付けて回答してください。

(例・あさが来た6、すぼると1、ヒルナンデス2)

質問86 録画した時間は合計何時間ですか。(半角数字のみ・小数点可)

表9 質問83・84・85の結果

	はい	いいえ	計
	120人 (46.5%)	138人 (53.5%)	258人
録画した人			
録画本数	平均値 4.21本	最小値 1.00本	最大値 29.00本
録画時間	平均値 5.62時間	最小値 0.50時間	最大値 50.00時間

調査期間中に録画をした人は258人中120人と半分以下であった。録画をした人の平均録画本数は4.21本という結果だったが、平均本数以下つまりは録画本数4本以下の人が120人中85人と、70%以上を占めている。平均本数の値を引き上げたのは20本以上録画した3人の本数（20本、26本、29本）だと考えられる。録画時間の結果についても、平均時間以下つまりは5時間以下の人が120人中85人とであり、同じく70%以上を占めていて、最大値の50時間録画した人をはじめとした長時間録画をした人が平均録画時間を引き上げたと考えられる。

【「自由時間」と録画行動の関係】

表10 自由時間4区分と質問83のクロス表

	はい	いいえ	計
とても忙しい	21人 (53.8%)	18人 (46.2%)	39人
どちらかと言えば忙しい	34人 (50.0%)	34人 (50.0%)	68人
どちらかと言えば忙しくない	26人 (44.8%)	32人 (55.2%)	58人
忙しくない	18人 (38.3%)	29人 (61.2%)	47人
合計	99人 (46.7%)	113人 (53.3%)	212人

関学生の自由時間4区分と録画行動の関係は、忙しくなるほど（自由時間が少なくなるほど）録画をした学生の割合が増加している、といったことが分かった。表2のテレビ平均視聴時間は忙しくなるほどに短くなる、などといった傾向は見られなかったが、録画行動に関しては見られた。

下の表11は、質問85の回答のうち5人以上に録画された20番組と、調査対象期間の関西地区の視聴率ランキング上位20番組を一覧にしている。

表11 左：質問85の結果 右：視聴率ランキング

録画人数	番組名	ジャンル		番組名	録画人数	視聴率
27	5→9～私に恋したお坊さん～	ドラマ	1	あさが来た	10人	23.5
26	アメトーク!	バラエティ	2	報道ステーション	1人	19.3
21	サイレン	ドラマ	3	世界野球プレミア12 対アメリカ戦		19.1
20	月曜から夜ふかし	バラエティ	4	世界野球プレミア12 対ベネズエラ戦		18.6
12	ハイキュー! セカンドシーズン	アニメ	5	下町ロケット	10人	17.6
11	オトナ女子	ドラマ	6	サンデーモーニング		17.5
10	ミュージックステーション	音楽	7	秘密のケンミンSHOW		15.8
	あさが来た	ドラマ	8	プレミア12 対ドミニカ戦		15.6
	下町ロケット	ドラマ	9	天才! 志村どうぶつ園		15.6
8	コウノドリ	ドラマ	10	NHKニュース7		15.3
	しゃべくり007	バラエティ	11	ザ! 鉄腕! DASH!	2人	15.3
	世界の果てまでイッテQ!	バラエティ	12	ten.		15.2
7	銀魂	アニメ	13	世界の果てまでイッテQ!	8人	15.2
	無痛一診える目ー	ドラマ	14	世界野球プレミア12 対メキシコ戦		14.9
6	おそ松さん	アニメ	15	ニュースキャスター		14.8
	掟上今日子の備忘録	ドラマ	16	得する人損する人		14.7
5	ONE PIECE	アニメ	17	サザエさん		14.7
	ワンパンマン	アニメ	18	THEレジェンド2015		14.6
	偽装の夫婦	ドラマ	19	大相撲九州場所七日目		14.6
	マツコ&有吉の怒り新党	バラエティ	20	探偵ナイトスクープ	3人	14.1
4	4番組(詳細は単純集計表に記述)					
3	12番組(詳細は単純集計表に記述)					
2	22番組(詳細は単純集計表に記述)					
1	67番組(詳細は単純集計表に記述)					

上の視聴率ランキングは朝日新聞大阪本社版
11月19日朝刊31頁に掲載されたものから引用

回答数 380 番組数 125

一番録画された番組は「5→9～私に恋したお坊さん～」で27人、2位は「アメトーーク！」で26人、3位は「サイレン」で21人であった。ジャンル別では、これまでの具体的に視聴している番組に関する質問はバラエティ番組が人気という結果だったが、表の20番組の内9番組（227人中105人）がドラマであり、これまでの調査に比べてドラマが良く見られているといった結果になった。また、表の20番組の内5番組（227人中44人）がアニメであり、2015年7月調査の質問60の結果では熱心に見ている人が少ないように思えたアニメであったが、この質問の結果からはアニメもよく見られていると考えられる。調査対象週は野球の世界大会プレミア12やサッカー日本代表戦、フィギュアスケートグランプリシリーズなど、スポーツの国際大会が多く生中継されたが録画した人は0人であった。スポーツの生中継は録画してみるのではなく、リアルタイムで見る人が多いと考えられる。

視聴率との関係は、10人が録画したと回答した「あさが来た」や「下町ロケット」は視聴率ランキングでも上位であるが、リアルタイムでテレビ視聴している人の数を測定して算出している視聴率とよく録画された番組のランキングは、関係性がないと考えられる。

4, まとめ

関学生のテレビ視聴行動にはどのような傾向があるのか。第二章では属性別に平均視聴時間を分析し、下宿生でアルバイトをしていない学生の平均視聴時間が短いという傾向が見られた。第三章では関学生はバラエティ番組をよく好んでみていることが分かった。しかし、録画した番組ではドラマやバラエティが上位の回答に見られ、リアルタイム視聴と録画視聴では異なる傾向が見られた。

テレビ番組の視聴率低下や若者のテレビ離れなど、人々の生活の中でテレビの比重は昔よりも下がっているとされているが、それはリアルタイム視聴の時間、またはそれを前提とした調査の数値をもとに言われていると推測する。テレビ視聴のスタイルはリアルタイム視聴だけでなく、録画視聴またはインターネットの配信サービスなどさまざまである。それらの視聴行動を調査することで、新たなテレビ視聴行動の把握できる範囲が広がると考えた。

参考・引用文献

総務省統計局ホームページ - 平成23年度社会生活基本調査

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/>

NHK ONLINE - NHK放送文化研究所 - 2010年国民生活時間調査報告書

<http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/yoron/lifetime/pdf/110223.pdf>

NHK放送文化研究所編（2011）データブック・国民生活時間調査2010 NHK出版

Yahoo! テレビ - ジャンル一覧

<http://tv.yahoo.co.jp/category/>

ビデオリサーチ社WEBサイト - 視聴率データ

<https://www.videor.co.jp/data/ratedata/index.htm>

朝日新聞大阪本社版 11月19日朝刊

2章 大学生の消費行動について

関学生の美容院利用行動モデル

谷瞳・田代千賀

1. はじめに

私達は本研究において、関西学院大学の学生（以下：関学生）のリアルな生活行動を示すために、年齢・性別・職業に関係なく生活行動の**普遍的な要素である「美容院」**に焦点を当てた。美容院に関する公的な先行調査は、総務省統計局の家計調査があげられるが、問題点が多数存在する。本稿では、まず家計調査の問題点を指摘する。

美容院に行くという行動は『カット代の安い美容院に行く』『店員と仲がいいから行く』など、**数多くパターンが混在した形**でできていると考えられる。私達は、値段や場所などに関する様々なリアリティ要素をもつ美容院行動をタイプ分けするために、量的な調査に加えて、聞き取り調査の質的な調査で補った。その聞き取り調査で得た事例の中から関学生の美容院行動パターンを編み出し、ゼミで2回行った調査を分析した上で、**総合的な美容院行動のモデル化を試みた**。

2. 家計調査（総務省統計局）

家計調査とは、家計支出を通じて個人消費を捉えることを目的としている。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/index.htm>（家計調査）

<1 問題点>

ここで家計調査の問題点として3つ挙げるができる。

1. 家計調査には美容院の「散髪にかかる料金」や「散髪行動」が調べられていない。
2. 家計調査には職業別に分類されておらず、大学生の実態がわからない。
3. <2 参考>より “理美容サービスの定義” には、分類項目が多数混在している。

<2 参考>

家計調査収支項目分類表より（平成27年1月改定）

理美容サービス…温泉・銭湯入浴料／理髪料／パーマ代／カット代／他理美容代※

※上記項目に分類されない理美容衛生に関するもの。

美顔術料／エステティック／衣装着付け及び化粧品代／セット代／毛染め代(ヘアマニキュア・ヘアカラー)／なでつけ代／美容院の洗髪代／大規模な温泉施設の入場料／タオルレンタル料／個室使用料

3. 質問作成の過程と分析結果表

<調査作成の過程>

この第3章では、以下に提示した表1が得られるまでの、2調査の作成過程についてまとめた。

1. ワーディング

7月・11月調査では、「直近」利用した美容院に限定し、質問文を作成・調査した。

(理由)・最新利用した美容院についての回答結果を得るため。

- ・2調査間で、大きく意識差をつけないため。

(結果)・直近の美容院の場所やカット料金の比較ができた。

- ・1回生が大学生になってから利用した美容院について調査できた。(第6章)

2. 共通点

次に、11月調査を作成する上で7月調査と共通して作成した点について述べると、

1. カット料金に限定（染髪やトリートメントなどを含めない）
(理由)・カットは老若男女を問わず、誰もが行う美容院行動であるため。
・各々の学生が、様々な美容院メニューを回答することを避けるため。
(結果)・調査対象者すべてに質問可能な定義になった。
2. 「美容院に重視するもの」について調査
(理由)・美容院に求める基準・利用きっかけを調査するため。
(結果)・学生の美容院行動の現状が把握できた。(第6・7章)
3. 「美容院の場所」について調査
(理由)・美容院の場所と、トップス購入や映画館、繁華街との関係を把握するため。
(結果)・学生が美容院の場所に関してどのように意識しているか発見できた。
・トップス購入や映画館の場所との違いを把握できた。(第7章)

3. 変更点

次に、7月調査から11月調査への変更・追加点について述べると、

1. 「美容院に重視するもの」を4パターンに分類 (参照：章末の参考)
(理由)・7月調査の分類5パターンでは、美容院の雰囲気には店員の人の人柄と店の外観が混在した形で回答されていたため。
(結果)・美容院の内側（店員の人の人柄）・外側（外観）を明確に区別して調査できた。
2. 【意識調査】「同じ美容院に通いたい／違う美容院に変えることを厭わないか」
(理由)・学生の美容院に対する意識を調査することで、現状把握するため。
(結果)・大多数の学生は同じ美容院に通いたいことがわかった。(第7章)
3. 「カット頻度」の回答方法を変更（※記述方式→選択方式）
(理由)・「〇か月に1回」と定期的に決めて通うのかを把握するため。(第5章)
(結果)・7月調査のカット頻度と比較することができた。(第6章)
・学生は定期的に通うことに加え、カット頻度を把握することができた。

(表1) 7月調査・11月調査における美容院行動の比較表

	2015年7月調査	2015年11月調査	
質問	【直近の美容院について】		
	Q49. 直近利用した美容院はどこ？	Q58. 美容院に重視するものは？	
	Q50. 美容院に重視するものは？	Q59. 何か月に1回髪を切る？(選択方式)	
	Q51. 美容院の利用日時は？	Q60. A.同じ美容院に通いたい/B.違う美容院に変える	
	Q52. 直近のカットのみの値段は？	Q61. 直近利用した美容院はどこ？	
	Q53. 美容院の予約形態は？	Q62. 直近のカットのみの値段は？	
	Q54. 直近利用した美容院への交通手段は？		
	Q55. 居住地から美容院への所有時間(分)		
	Q56. 何か月に1回髪を切る？(記述式)		
	Q57. 髪の長さは？		
集計	全体387人中		
	全体268人中		
	カット料金【直近利用した美容院について】		
	平均	最小	最大
	3727.8円	1000円	40000円
	有効ケース数362		有効ケース数250
	美容院に重視するもの		
	値段	123人(33.0%)	95人(35.4%)
	技術力	67人(18.0%)	79人(29.5%)
	立地	82人(22.0%)	店員の人柄 62人(23.1%)
	居心地	58人(15.5%)	雰囲気(外観) 25人(9.3%)
	美容院の雰囲気	43人(11.5%)	
	カット頻度		
	(※記述方式)		(※選択式)
	平均	最小	最大
	2.7か月	0.3か月	12か月
	有効ケース数372		1か月に1回 40人(15.3%)
			2か月に1回 111人(42.4%)
			3か月に1回 64人(24.4%)
			4か月に1回 11人(4.2%)
			5か月に1回 9人(3.4%)
			6か月に1回 4人(4.5%)
			不定期 19人(7.3%)
	美容院の場所【直近利用した美容院について】		
	梅田	26人(7.5%)	大阪キタ 18人(6.9%)
	三宮	21人(6.1%)	大阪ミナミ 9人(3.5%)
	西宮北口	27人(7.8%)	神戸市中心部 12人(4.6%)
	甲東園	19人(5.5%)	京都 3人(1.2%)
	有効ケース数346		西宮北口 33人(12.7%)
			その他 188人(71%)
美容院の利用日時		A.同じ美容院に通いたい/B.違う美容院に変える	
平日の午前	49人(13.2%)	Aに近い 158人(60.3%)	
平日の午後	163人(43.9%)	どちらかといえばAに近い 34人(13.0%)	
休日の午前	78人(21.0%)	どちらかといえばBに近い 37人(14.1%)	
休日の午後	81人(21.8%)	Bに近い 33人(12.6%)	
美容院の予約形態			
飛び込み	60人(16.1%)		
電話	171人(45.8%)		
ネット	130人(34.9%)		
次回の予約	12人(3.2%)		
直近利用した美容院への交通手段			
電車	125人(33.4%)		
自動車	38人(10.2%)		
自転車	106人(28.3%)		
原付	22人(5.9%)		
徒歩	73人(19.5%)		
バス	10人(2.7%)		
居住地から美容院への所有時間(分)			
平均	最小	最大	
19.2分	150.0分	1.0分	
有効ケース数370			
髪の長さ			
女性ショート	32人(8.4%)		
女性ミディアム	77人(20.4%)		
女性セミロング	78人(20.6%)		
女性ロング	26人(6.9%)		
男性ボウズ	418(4.7%)		
男性ショート	99人(23.1%)		
男性ミディアム	44人(11.6%)		
男性ロング	5人(1.3%)		

4. 美容院利用行動を調査するということ

この章では、「学生の美容院利用行動を調査する」という事について考察した。

<1. 調査の回答数からみた美容院行動>

まず、7月・11月調査の調査結果の回答数に関して述べる。美容院に関する質問について、回答した人数は調査の対象者全体と比較すると、

- ・7月調査では、平均97%が美容院に関する質問を回答している。(質問番号49～57)
- ・11月調査では、平均98%が美容院に関する質問を回答している。(質問番号58～62)



つまり、美容院に行くという行動はほぼ100%の回答率、全員が回答できる調査項目である。

(NA：7月調査＝平均14/11月調査＝平均6)

<2. トップス購入や映画館利用との回答率比較>

上記より、美容院行動の調査をするということはほぼ全員が回答できるという大きな特徴を持っていることが明らかになった。

この2調査での他の質問項目であるトップス購入や映画館利用では、回答率がおおよそ5割～7割であり、美容院行動とは大きく違うことがわかった。

つまり回答率がほぼ100%の美容院利用行動を調査することは他と比べてもメリットであることを示している。

<3. 美容院利用行動の調査意義>

回答率が最も高く、普遍的な行動である美容院利用行動を調査することは大変重要である。

それゆえ、現在まで美容院利用行動調査されてこなかったことは問題である。

また、それに加え、第2章で挙げた公的調査である家計調査を含め、美容院に関する調査がずさんであることがさらに問題である。

この問題点を踏まえて、本報告書では、公的調査よりも具体性をもち学生の美容院行動の現状を提示した高回答率の美容院行動調査を行い分析した。その結果、学生の現状が明示されたこの美容院行動調査は価値あるものになると考えられる。

5. 関学生の美容院利用行動の実態把握

この章では、表1に従って、7月・11月調査の2調査比較が出来る項目の『1. カット料金』、『2. 美容院に重視するもの』、『3. カット頻度』の分析結果および関学生の美容院行動の実態について考察してまとめた。まず、7月調査、11月調査を通して、関学生の美容院行動には、以下の傾向が見えた。

① 値段重視型

値段の安さやお得さを最も重視するタイプ

⇒美容院を変えることを厭わない傾向

② 店員の人の人柄・対応重視型

これらのタイプは店員のトーク力や人柄、店員との親しみやすさを最も重視するタイプ

⇒決まった美容院に通う傾向

③ 技術力重視型

高い技術力を最も重視するタイプ

⇒決まった美容院に通う傾向

④ 店の雰囲気・外観重視型

店の雰囲気やおしゃれさ、外観を重視するタイプ

⇒美容院を変えることを厭わない傾向
これらの傾向が見えているということを裏付けていくため、各項目を見ていく。

<1. カット料金>

まず、表1より、関学生は美容院で約3500円支払って髪を切っていることがわかった。
次に性別・居住別に分析するため以下の表2、3を作成した。

(表2)7月調査・カット料金

7月調査		カット料金 記述統計量 q52				
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
関学生(全体)		362	1000.0	8500.0	3583.3	1373.1
性別	男子	158	1000.0	7000.0	3036.3	1062.6
	女子	203	1000.0	9500.0	3736.8	1312.4
居住	実家生	259	1000.0	9500.0	3433.4	1288.9
	下宿生	102	1500.0	8000.0	3421.3	1178.2

(表3)11月調査・カット料金

11月調査		カット料金 記述統計量 q62				
		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
関学生(全体)		250	1000.0	9500.0	3430.4	1255.2
性別	男子	106	1000.0	7000.0	2966.6	972.0
	女子	144	1000.0	8500.0	4037.3	1449.1
居住	実家生	168	1000.0	8000.0	3707.0	1362.0
	下宿生	81	1000.0	8500.0	3328.0	1377.7

特徴

表を比較して分かったことについて述べると、7月調査から11月調査にかけて、
カット平均料金が・下がったのは、『関学生全体』、『男子』、『下宿生』である。
・上がったのは、『女子』、『実家生』である。

<2. 美容院に重視するもの>

次に、美容院に重視するものを2調査に分けて、性別・居住別に表4、5を作成した。

(表4)7月調査・美容院に重視するもの

7月調査		美容院に重視するもの q50					合計
		値段	技術	居心地	美容院の雰囲気	立地	
関学生(全体)		123 (33.0%)	67 (18.0%)	58 (15.5%)	43 (11.5%)	82 (22.0%)	373 (100%)
性別	男子	46 (28.6%)	30 (18.6%)	27 (16.8%)	16 (9.9%)	42 (26.1%)	161 (100%)
	女子	77 (36.5%)	36 (17.1%)	31 (14.7%)	27 (12.8%)	40 (18.9%)	211 (100%)
居住	実家生	42 (38.2%)	20 (18.2%)	12 (10.9%)	13 (11.8%)	23 (20.9%)	110 (100%)
	下宿生	81 (30.9%)	47 (17.9%)	46 (17.6%)	29 (11.1%)	59 (22.5%)	262 (100%)

(表5)11月調査・美容院に重視するもの

11月調査		美容院に重視するもの q58				合計
		値段	技術	店員の人の人柄	雰囲気(外観)	
関学生(全体)		95 (36.4%)	79 (30.3%)	62 (23.8%)	25 (9.6%)	261 (100%)
性別	男子	48 (44.0%)	23 (21.1%)	25 (22.9%)	13 (11.9%)	109 (100%)
	女子	47 (30.9%)	56 (36.8%)	37 (24.3%)	12 (7.9%)	152 (100%)
居住	実家生	53 (31.2%)	58 (34.1%)	45 (26.5%)	14 (8.2%)	170 (100%)
	下宿生	42 (47.7%)	21 (23.9%)	15 (17.0%)	10 (11.4%)	88 (100%)

特徴

表を比較して分かったことについて述べると、7月調査から11月調査にかけて、

- ・『男子』、『下宿生』は値段重視型が増えている。
- ・『女子』、『実家生』は値段重視型が減り、さらに女子は技術重視型が増えた。

<3. カット頻度>

3つめに、カット頻度について性別比較できる表6を作成し、特徴を述べる。

(※) 表1より、カット頻度に関しては2調査間で回答方法に違いがある。

- ・7月調査では「〇ヵ月に1回」と記述回答
- ・11月調査では定期的に美容院に行く「頻度」を選択

(結果) 11月調査では、7月調査と同様にカット頻度がわかったうえで比較ができて、さらに関学生が定期的もしくは不定期に美容院に行くかを導き出せた。

(表6)関学生・カット頻度

カット頻度		7月調査 q56	11月調査 q59
関学生(全体)		2.7ヵ月に1回	2.9ヵ月に1回
性別	男子	1.9ヵ月に1回	2.8ヵ月に1回
	女子	3.2ヵ月に1回	3.0ヵ月に1回

特徴

表を比較して分かったことについて述べると、7月調査から11月調査にかけて、

カット頻度が・広くなったのは『関学生全体』、『男子』である。

- ・狭くなったのは『女子』である。

<4. 第5章のまとめ>

以上3項目の特徴より、男女別の美容院利用行動について、以下の疑問ができた。

(疑問1) なぜ女子は7月から11月にかけてカット料金が上がり、間隔が狭くなったのか?

(疑問2) なぜ男子は7月から11月にかけてカット料金が下がり、間隔が広くなったのか?

この2つの疑問点を明らかにするために、次の第5章で考察・立証して、美容院利用行動を明らかにしていきたい。

6. 美容院利用行動モデル① ～7月から11月にかけて男女の違い～

この章では、第5章で提示した疑問点を解決するために考察・立証して結論をまとめた。

<1. 女子について>

考察1

疑問1より「女子はなぜカット料金が上がったのか？」を考察した。

①1回生の回答者が多かった

- ・7月調査の全回答者の中で、1回生女子の割合は32.2%であり、最も多い

②7月から11月で見た目やおしゃれ意識が変わってきた

- ・3か月前まで高校生だった1回生女子は、まだおしゃれのために美容院にお金をかけていない人たちが多かった。
- ・入学して半年たった11月では、先輩などを真似し、おしゃれになる意識が変化し、きれいになっていった。

立証 1

考察 1 の①、②を立証するために、以下の表を作成した。

(表 7) 【1 回生女子】カット料金

1回生女子	カット料金 記述統計量				
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
7月調査	60	1000.0	7000.0	2963.2	991.5
11月調査	56	1000.0	8500.0	3922.3	1485.8

(表 8) 【1 回生女子】美容院に重視するもの

7月調査		美容院に重視するもの		
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	値段	49	37.1	38.3
	技術	15	11.4	11.7
	居心地	20	15.2	15.6
	美容院の雰囲気	18	13.6	14.1
	立地	26	19.7	20.3
	合計	128	97.0	100.0
欠損値	NA	4	3.0	
合計		132	100.0	
11月調査		美容院に重視するもの		
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	値段	20	32.8	33.9
	技術	22	36.1	37.3
	店員の人柄	11	18.0	18.6
	雰囲気（外観）	6	9.8	10.2
	合計	59	96.7	100.0
欠損値	NA	2	3.3	
合計		61	100.0	

1 回生女子は、7 月調査から 11 月調査にかけて、

- ・カット平均料金が約 1000 円高くなっている。(表 7)
- ・7 月では値段重視が 37.1% で一番を占めていたが、11 月では技術力重視が一番を占めるようになった。(表 8)
- ・カットの間隔が狭まった。(表 6)

↓

つまり、カット料金が高くなり、カット頻度も増え、仕上がりを求めるようになった。

結論 1

以上より、関学生の女子は、『良い仕上がりを求めて美容院の利用回数を重ね、よりおしゃれになっていった』ということが考えられる。

<2. 男子について>

考察 2

疑問 2 より「男子はなぜカット料金が下がったのか？」を考察した。

①カット料金の変化がほとんどなかった

- ・7 月から 11 月にかけて、1 回生男子のカット代は約 100 円の増加だけであった。(比較：1 回生女子のカット代は約 1000 円増加した。)

②1 回生男子は、「安くて技術のある美容院」をみつけはじめた

- ・値段重視と技術重視の割合が増え、技術よりも値段を重視しだした。
- ・大学生になり校則がなくなり、髪を伸ばす人が増え、髪型を変えながらうまくおしゃれをするようになった。

立証 2

考察 2 の①、②を立証するために、以下の表を作成した。

(表 9) 【1 回生男子】カット料金

1回生男子	カット料金 記述統計量				
	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
7月調査	77	1000.0	5600.0	2851.3	1000.8
11月調査	60	1000.0	7000.0	2963.2	991.5

(表 10) 【1 回生男子】美容院に重視するもの

7月調査		美容院に重視するもの		
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	値段	12	14.6	15.2
	技術	12	14.6	15.2
	居心地	25	30.5	31.6
	美容院の雰囲気	8	9.8	10.1
	立地	22	26.8	27.8
合計		79	96.3	100.0
欠損値 NA		3	3.7	
合計		82	100.0	

11月調査		美容院に重視するもの		
		度数	パーセント	有効パーセント
有効	値段	31	48.4	50.0
	技術	16	25.0	25.8
	店員の人柄	9	14.1	14.5
	雰囲気(外観)	6	9.4	9.7
	合計	62	96.9	100.0
欠損値 NA		2	3.1	
合計		64	100.0	

男子は、7月調査から11月調査にかけて、

- ・1回生のカット平均料金が約100円増加した。(表9)
- ・1回生は、7月では値段重視が14.6%だったが、11月では48.4%に増え、一番を占めるようになった。また、技術力重視も増えた。(表10)
- ・カットの間隔が広がった。(表6)

↓

つまり、仕上がりを求めつつ、カット料金を高く支払い、カット頻度が減った。

(事例：【1回生・男子・下宿生(阪急小林駅)】阪急小林駅の美容院に、1500円と安くて近いから利用している。値段を重視していて、店員の人柄などにはこだわりのない。もしカット料金が上がるならば他の美容院に行くしかないと考えている。カットの頻度は、髪が邪魔になったら切ると決めている。)

結論② 以上より、関学生の男子は、『上手に節約しながら、良い美容院に行き、よりおしゃれになっていった』ということが考えられる。

7. 美容院利用行動モデル② ～美容院は固定的・地域的～

この章では、分析結果から、現在の美容院のあり方について問題点・改善点を述べる。

<1. 美容院は固定的>

表 1 より、11 月調査に付け加えた質問 60 の回答結果を分析し、以下の表にまとめた。

(表 11) q 60 と性別・居住のクロス表

		A 同じ美容院に通いたいと思う／B 違う美容院に通うことを厭わない				
		11月調査 q60				
		Aに近い	どちらかと言うとAに近い	どちらかと言うとBに近い	Bに近い	合計
関学生(全体)		158 (60.3%)	34 (13.0%)	37 (14.1%)	33 (12.6%)	262 (100%)
性別	男性	75 (68.2%)	15 (13.6%)	10 (9.1%)	10 (30.1%)	110 (100%)
	女性	83 (54.6%)	19 (12.5%)	27 (17.8%)	23 (15.1%)	152 (100%)
居住	実家生	106 (61.9%)	24 (14.1%)	24 (14.1%)	17 (9.9%)	171 (100%)
	下宿生	50 (56.8%)	9 (10.2%)	13 (14.8%)	16 (18.2%)	88 (100%)

表よりわかることは、

- ・「同じ美容院に通いたい」という人は 60.3%
- ・「できれば同じ美容院に通いたい」という人は 13.0%

合わせて 73.3%の人が同じ美容院に通いたい傾向にあることがわかった。



結論 1

学生の 7 割以上が、同じ美容院に固定して通いたいという強い意志を示していることが分かった。 (固定的な美容院)

<2 美容院は地域的>

(表 12)美容院の所在地

		美容院がどの繁華街に属するか (11月調査 q61b)						
		大阪キタ	大阪ミナミ	神戸市中心部	京都市中心部	西宮北口	どこにも属さない	合計
居住	実家生	17 (9.9%)	8 (4.7%)	8 (4.7%)	3 (1.8%)	10 (5.8%)	125 (73.1%)	171 (100%)
	下宿生	1 (1.2%)	1 (1.2%)	4 (4.7%)	0 (0.0%)	23 (26.7%)	57 (66.3%)	86 (100%)

実家生

1. 表 11 から、・同じ美容院に通いたい人は 68.8%と高い割合である。
2. 表 12 から、
 - ・繁華街や、関学生がよく利用する西宮北口ではない「どこにも属さない」回答が、73.1%と最も多かった。
 - ・自宅の最寄り駅(地元)の美容院に通う人が多い。
 (事例：【4 回生・女子・実家生 (阪急甲東園駅)】家から自転車で 5 分の美容院は、中学生のときに親の紹介で行くようになった。店員が親しみやすく、慣れた場所である。違う美容院に変えたくなくて、もし値段が上がってもそこに通い続けたいと考えている。)

下宿生

1. 表 11 から、
 - ・同じ美容院に通いたい人は、下宿生が 31.2%と実家生の半数以下である。
2. 表 12 から、
 - ・関学生がよく利用する西宮北口が 26.7%と実家生より高かった。
 - ・どこにも属さないが 66.3%と最も高い。

結論 2

多くの学生が、繁華街ではなく自宅の近くの美容院に通っているという現状



学生は慣れ親しんだ地域の美容院に通いたいということが分かった。(地域的な美容院)

<3. 第7章のまとめ>

この7章で導いた結論1・2より、つまり学生は『固定的・地域的な美容院を求めている』のである。

<4. 現在の美容院について>

第7章では、買い物や映画とは違い、繁華街での需要は極めて少なく、学生が美容院に近所で行ける同じ美容院を求めていることが明らかになった。しかし現在、美容院は大阪梅田などに大量に作っては閉店するくり返しであることのナンセンスさを、私たちは指摘する。

ここで言えることは繁華街に美容院をつくることの無意味さ、そして繁華街ではない市町村に、その地区の人口構成を考えたり、ニーズをくみ取ったりして美容院をつくるほうがよっぽど需要あるものになると考えることができた。

8. 反省点

まず、私たちに決定的に足りなかったのは、調査を行うときや仮説をつくる際に、同じ美容院に行く行動について読み取ることができなかったことである。

また、本稿末に提示した【参考】の4つの重視パターンについて分類していくうえで、

- ・「昔から(幼いころから)通っている」という1パターンも入れるべきであった。
- ・人柄重視というよりも、「顔なじみ」・「お世話になっている」という理由から別の区分にするべきであった。

9. 報告書まとめ

これまで本稿では、美容院の値段や意識など様々な観点から分析し関学生の美容院行動モデルを把握しようと努めてきた。ここで、明らかになったのは、第6、7章で提言した関学男女の美容院行動の明確な違いと、現在の美容院の存在のナンセンスさである。

本稿では関学生限定で調査・分析してきた。しかしこの調査で行った調査票は普遍的に作るように努めてきたため『社会人』に通用できると考える。反省点を生かし改善すれば『関学生(学生)』と『社会人』の比較をすることは可能であると考えられる。『社会人』の美容院行動を把握できるならば総務省家計調査よりも良い調査になると思う。

参考文献 総務省統計局「家計調査」<http://www.stat.go.jp/data/kakei/>

はじめに

「鈴木栄太郎の『都市社会学原理』は「都市の本質」を実証的に解明した著作というだけでなく、「社会学という学問とはどのような学問であり、社会学者はどのような研究をつみかさねていかなければならないか」を再認識させてくれる著作である」（大谷信介 2015:1）

日本でも有数の社会学者である大谷信介にこのように評される鈴木栄太郎が立論した「正常人口の正常生活の理論」に焦点を当てることで論を展開していこうと考えた。

1. 再考・鈴木栄太郎の都市理論

1.1 正常人口の正常生活の理論

鈴木栄太郎は、アメリカ都市社会学が社会病理学的な視点に多くの関心を払ってきたことを批判し、普通の人間の日常生活行動の実態を把握するという手法で正常生活からのアプローチを展開した。

<正常人口の正常生活の理論の発想>

- ① 都市の社会生活は錯雑混乱を極めている
- ② 都市の現象にある規律制や秩序は錯雑混乱の中に隠れているのでは？
- ③ 身近な人の単調な生活とそれを破る人の存在のどこに都市生活の混乱を思わせるものがあるかを確かめる

<正常人口・正常生活の定義>

- ① 正常＝そのままの状態において生活の再生産が順調に行われ得る状態
- ② 異常＝その状態を仮に大多数又は全人口が持続すれば社会生活の存続はあり得ないと思われる状態
- ③ 異常人口＝学校を卒業しても職を求めず職に就かず遊惰放浪の生活をしているもの、近親の財力によって気儘に生活している者、病人、白痴、不具者等、すべて生業によって生活の資を得ていない者

<都市の社会集団の5分類と世帯・職域（学校）の重視>

- ① 世帯 ② 職域集団 ③ 学校 ④ 生活拡充集団 ⑤ 地区集団

このようにして異常人口と正常人口の異常生活を除くことで、都市生活の一定の規則性を見出したのが「正常人口の正常生活の理論である」

1.2 正常人口の正常生活の理論の評価

鈴木栄太郎は、都市住民の生活行動を調査研究によって把握することによって、都市の構造を明らかにしようとした点が評価できる点として挙げられる。この研究以前はアーバニズム論など都市の分析は行われていたが、都市住民の生活行動まで研究が及んでいなかった。

そのなかで、特に鈴木が注目したのは、日常的な蔬菜の購入行動や薬局での買い物行動等であり、都市住民の買い物行動の実態把握から都市理論を構築しようとした点である。買い物という日常生活に欠かせない行動から都市住民の生活行動の範囲を明らかにしようとした狙いが見える。

2. 大学生の買い物行動を把握すること

鈴木栄太郎の正常人口の正常行動において買い物行動は薬局、野菜など主に主婦が買うものを中心に構成されてきた。しかし、大学生は普段の生活で惣菜を買うことがほとんどない。その影響によって大学生たちは重視される社会集団の学校に所属しているにもかかわらず、正常人口から除外されてしまった。その状況を打開するために、本研究では大学生の生活圏を明らかにするために買い物行動に着目した。上述の通り正常人口の正常生活の理論に当てはまらない大学生の買い物行動を把握することで、その行動範

圏（＝生活圏）を明らかにできると考えたからである。

大学生の買い物行動を調べるにあたって注意しなければならなかったのが、品目の選定である。従来、主婦層の買い物行動を把握するために用いられてきた「食品」や「雑貨類」という品目は、親と同居している大学生にとっては直接購入する機会が限定されるものであるため適切とは言えない。従って「購入頻度が高く」「実家生と下宿生問わず購入し」「社会人などにも応用できる」品目を選定すべきであると考えた。

大学生の買い物行動において上述の条件を満たす品目として衣服が挙げられる。衣服の購入であれば、「購入頻度が高く」「実家生と下宿生で大差がなく」「社会人にも応用できる」からである。衣服の品目の選定に際して参考にしようと試みたのが家計調査である。しかし分類があまりにも雑多であったため新たに「トップス」という概念を作成することにした。

家計調査の分類

「被服及び履物」という分類の下に「和服」「洋服」「シャツ・セーター類」「下着類」「生地・糸類」「他の被服」「履物類」「被服関連サービス」というカテゴリが存在し、さらにそこから「男性用下着」「女性用ソックス」など細かく聞いている。

2.1 トップスの定義

今回の調査において大学生の買い物行動を測定するために生み出したのが「トップス」という定義である。「トップス」とは上半身に着る洋服のうち、スーツ、インナー（下着）を除いたものと定義した。

下半身に着用するパンツ類、スカート類は購入頻度が低いと考え項目から除外した。また、スーツやインナー（下着）も同様の理由で購入頻度が低いということに加えて、価格帯が大きく異なることから項目から除外した。

2.2 よく行くファッション街という質問

トップスを購入するときに、学生は必ず出かけるが、その行動を掴むためにはどこへ行っているのかを知る必要がある。そこで、我々の調査では、トップスをどこの駅で買っているかを調査し、駅コードを用いて統計を取った。そこからさらに発展させて、ファッション街という定義を作成し、どのファッション街に行っているのかを分類した。

2.3 調査の概要

① トップス購入行動に関する質問文

トップス購入行動に関する質問文の概要

	2015年7月調査	2015年11月調査
定義	上半身(スーツ・インナー×)	上半身(スーツ・インナー・コート×)
期間	期間4月～6月	期間4月～7月
質問	購入の有無	購入の有無
	金額	金額
	購入場所	購入場所
	よく行くファッション街	よく行くファッション街

質問の違い

7月調査と11月調査では、トップスの定義と場所の聞き方が変わった。
その違いは以下のとおりである。

7月調査 【期間】4月から6月のトップス購入

【トップスの定義】上半身に着る洋服のうち、スーツ、インナー（下着）を除いたもの

【場所】駅で質問

11月調査 【期間】4月1日から9月30日のトップス購入

【トップスの定義】上半身に着る洋服のうち、コート・スーツ・インナー(下着)を除いたもの

【場所】ファッション街で質問

3. 7月11月調査の特徴

3.1 大学生の買い物行動の実態把握～直近のトップス購入手動

【7月調査】

あなたは、4月から6月に「トップス」を購入しましたか？なお、ここでの「トップス」とは「上半身に着る洋服のうち、スーツ・インナー（下着）を除いたもの」とします
はい **64.0%(240)** いいえ **36.0%(135)** NA(12)

「トップス」はおいくらでしたか？直近（一番最近）購入したものの金額をお答えください。
最大値: **50,000 円** 最小値: **500 円** 平均値: **4,492 円** (有効ケース数: **235**)

【11月調査】

あなたは、4月1日から9月30日の間に「トップス」を購入しましたか？なお、ここでの「トップス」とは「上半身に着る洋服のうち、コート・スーツ・インナー（下着）を除いたもの」とします。
はい **73.4%(193)** いいえ **26.6%(70)** NA(5)

4月1日から9月30日の間に購入した「トップス」のなかで直近（一番最近）購入したものの金額をお答えください。(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

最小値 **580 円** 最大値 **97200 円** 平均値 **6070 円**

【全体】

・購入→7月調査、11月調査共に購入している割合が高い。しかし、11月調査は6ヶ月間と期間が長いにも関わらず約3割が購入していない。その3割の内74.2%が体育会系の部活・サークルに加入しており、ジャージなどを着ていることが多く、服を購入しないと考えられる。

・値段→7月調査より11月調査の方が高い。11月調査は期間が延びたことにより、夏服より高い冬服を購入している人が含まれている可能性がある。また、11月調査の際に購入金額が上がっていることは1年生が入学時よりファッションに関心を持つようになったことも影響している可能性がある。

【性別】

7月調査	購入の有無		値段		
	はい	いいえ	最大値	最小値	平均値
男性	44.1%	55.9%	50000	580	6675
女性	79.3%	20.7%	13000	500	3565

11月調査	購入の有無		値段		
	はい	いいえ	最大値	最小値	平均値
男性	58.2%	41.8%	97200	600	8167
女性	84.3%	15.7%	53000	580	5030

・購入→男性より女性の方が購入している割合が高い。男性は期間が6ヶ月と延びても、約4割が購入していない。

・値段→平均金額を比較すると、7月調査、11月調査共に、男性は高く、女性は安い。男性のトップスは高いものが多く、購入頻度が下がる。それに比べて、女性のトップスは安く、購入頻度が上がると予想される。また、男性は量より質、女性は質より量と言えるかもしれない。

【居住形態】

7月調査	購入の有無		値段		
	はい	いいえ	最大値	最小値	平均値
自宅生	64.0%	36.0%	50000	500	4080
下宿生	63.6%	36.4%	40000	1080	5510

11月調査	購入の有無		値段		
	はい	いいえ	最大値	最小値	平均値
自宅生	76.2%	23.8%	97200	580	6439
下宿生	68.2%	31.8%	20000	600	5010

・購入→7月調査では、実家生と下宿生との差は見受けられないが、11月調査では、実家生の方が下宿生より購入している割合が高い。これは、アルバイトで稼いだお金を使う実家生と生活費の中からお金を使う下宿生との違いといえるかもしれない。

・値段→7月調査では、実家生が安く、下宿生が高い。11月調査では、実家生が高く、下宿生が安い。これは、実家生、下宿生共に新学期はトップスが必要であり、購入する。しかし、期間が長くなった11月調査では、ある程度トップスの量が増え、「必要であるから購入する」という行動がなくなる。

3.2 まとめ

【直近のトップスの購入手動】

今回の調査によって直近のトップスの購入手動では、性別による違いがあると明らかにすることができた。しかし、居住形態という観点から見た場合は平均値が7月調査では下宿生の方が高かったのに対して、11月調査では自宅生が下宿生の平均値を上回るという結果が出た。

今後、調査を続けていくにあたって居住形態によるトップス購入手動の違いを測定する方法、性別や居住形態とは異なる枠組みを作ること調査の精度を向上させていくことが求められている。

※直近のトップスの購入手動において性別による違いはあるが、居住形態による違いは定かではない。

買物行動～「トップス」を購入する場所～

藤田朱音

1. トップスの購入場所

1.1 よく行くファッション街

7月調査と11月調査は同じ質問文であるが、選択項目を変えている。7月では関学周辺（西宮北口）を入れているが、11月調査では西宮北口を入れていない。その理由は、7月調査を経て、その他のファッション街に比べて西宮北口は下位の都市であると判断し、西宮北口を除けば、その他のファッション街に分散されると考えたためである。

表 1. 7月調査、11月調査でのよく行くファッション街

		よく行くファッション街						合計
		大阪キタ	大阪ミナミ	関学周辺	神戸市中 心部	京都市中 心部	その他	
学生調査	7月調査	158	39	75	65	2	38	377
		41.9%	10.3%	19.9%	17.2%	0.5%	10.1%	100%
	11月調査	145	23		50	5	38	261
		55.6%	8.8%		19.2%	1.9%	14.6%	100%

表 1 の 7 月調査と 11 月調査の結果から、西宮北口を選択項目から消去すると、その他のファッション街に分散されるとわかった。西宮北口を選択項目から消去することで「その他」の項目の割合が極端に増えることもなく、綺麗に分散されている。

したがって、よく行くファッション街を聞くにあたって、関学周辺（西宮北口）を入れる必要はないと判断する。

1.2 直近の購入場所

7月調査は繁華街などのコーディングをしていないので、以後は11月調査のみ分析をしていく。まず、直近の購入場所に関して、居住形態で分けて見てみる。

表 2. 居住形態と直近の購入場所

		直近の購入場所						合計
		大阪キタ	大阪ミナミ	神戸市中 心部	京都市中 心部	西宮北口	どこにも属 さない	
居住 形態	実家生	42	9	16	1	12	51	131
		32.1%	6.9%	12.2%	0.8%	9.2%	38.9%	100%
	下宿生	19	2	4	0	21	15	61
		31.1%	3.3%	6.6%	0.0%	34.4%	24.6%	100%
合計		61	11	20	1	33	66	192
		31.8%	5.7%	10.4%	0.5%	17.2%	34.4%	100%

実家生も下宿生も大阪キタは3割ほどであり、同じである。しかし、西宮北口は明らかに下宿生の割合が高い。これは、関西学院大学の学生が下宿する場所はほとんどが兵庫県西宮市であるからだと考える。西宮市は、大都市とは言えないが、必要な物はある程度揃えることができ、洋服を購入する場所も整っている中核都市であると言える。したがって、下宿生は西宮市での買物が増える。

下宿生を含めて分析をすると西宮北口に偏りが出てしまうので、下宿生を含めた分析は難しい。この理由から、これ以降は実家生に絞った分析をしていく。

表 2 において、実家生の直近の購入場所は全ての繁華街に分散しているとわかった。そこで、通学路と何か関係しているのではないかと考えた。11月調査においての直近の購入場所と通学路の関係を表してみる。

表 3.直近の購入場所と通学路

		直近の購入			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
直近の購入場所	大阪キタ	0 0%	14 33.3%	28 66.7%	42 100%
	大阪ミナミ	1 11.1%	7 77.8%	1 11.1%	9 100%
	神戸市中心部	1 6.3%	10 62.5%	4 26.7%	15 95.5%
	京都市中心部	0 0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100%
	西宮北口	0 0%	10 83.3%	2 16.7%	12 100%
	どこにも属さない	15 29.4%	16 31.4%	20 39.2%	51 100%
	合計	17 13.0%	58 44.3%	56 42.7%	131 100%

※自宅最寄駅→自宅近くの駅、通学路上→自宅から関西学院大学へ通うために通る、通学路外→自宅から関西学院大学へ通うために通っている経路とは別

- ・ 大阪キタは通学路外でもトップスを購入した人が 66.7%と多い
- ・ 大阪キタ以外は、通学路上で購入している人が多い

次に、通学路外について分析してみる。

<大阪キタ>

28名のうち、大阪キタと西宮北口の間で下車や乗り換えをする学生は16名であり、そのうち7名が大阪キタでアルバイトをしている。全く別の方面に住んでいる学生は12名であり、そのうち1名が大阪キタでアルバイトをしている。また、26名がよく行くファッション街も大阪キタであり、他2名は大阪ミナミに1名、神戸市中心部に1名であった。なお、神戸市中心部のみ、通学路上であった。

<大阪ミナミ>

1名は、自宅やアルバイト先が大阪ミナミに近いというわけではない。この1名はよく行くファッション街も大阪ミナミであった。

<神戸市中心部>

4名のうち、神戸市中心部と西宮北口の間で下車や乗り換えをする学生は2名である。全く別の方面に住んでいる学生は2名である。4名とも、神戸市中心部でアルバイトをしていない。また、2名がよく行くファッション街も神戸市中心部であり、他2名は大阪キタに1名、京都市中心部に1名であった。なお、京都市中心部のみ、通学路上であった。

<京都市中心部>

1名は、最寄駅ではないが、自宅が近いようである。

<西宮北口>

2名は、共に自宅が西宮北口に近い。そのうち1名は西宮北口でアルバイトをしている。

<どこにも属さない>

20名のうち、アウトレットへ行っている人は7名である。イオンモールも2名いる。最近では、イオンモールなどの大型ショッピング施設で何でも揃えられるようになってきており、ファッション街へ行かない人も増えているようだ。

次に、通学路と直近の購入場所に関して分析していく。通学路パターンは関西学院大学に通う学生が通ると考えられる通学路を全てパターン分けした。また、合計数130名となっているのは、1名通学路のパターンに当てはまらなかった、もしくは、最寄駅を記入していなかったと考えられる。

表 4.通学路パターンと直近の購入場所

		直近の購入場所					どこにも属さない	合計
		大阪キタ	大阪ミナミ	神戸市中心部	京都市中心部	西宮北口		
通学路パターン	関学近隣住民	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	1 20.0%	5 100.0%
	宝塚乗り換え民	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 60.0%	10 100.0%
	阪神間（大阪寄り）民	5 62.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 37.5%	8 100.0%
	阪神間（神戸寄り）民	3 18.8%	0 0.0%	3 18.8%	0 0.0%	5 31.3%	5 31.3%	16 100.0%
	十三乗り換え民	11 50.0%	1 4.5%	2 9.1%	1 4.5%	1 4.5%	6 27.3%	22 100.0%
	三宮乗り換え民	2 7.1%	0 0.0%	11 39.3%	0 0.0%	3 10.7%	12 42.9%	28 100.0%
	JR京都線・滋賀方面民	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%
	（ほぼ）大阪市内完結民	6 50.0%	3 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 25.0%	12 100.0%
	大阪市内経由で大阪東部・南部へ	7 25.9%	5 18.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%	14 51.9%	27 100.0%
	合計	41 31.5%	9 6.9%	16 12.3%	1 .8%	12 9.2%	51 39.2%	130 100.0%

- ・ 十三で乗り換える人は大阪キタが多い→表 3 の通学路外の人が多くが十三で乗り換える人である
- ・ どこにも属さない人が多い→最近では、イオンモールなどの大型ショッピング施設で何でも揃えられるようになってきており、ファッション街へ行かない人も増えていると予想される

1.3<よく行くファッション街>と<トップス購入場所>は、どのように異なるか

よく行くファッション街と直近の購入場所に違いがあるのかを分析する。

表 5.よく行くファッション街と直近の購入場所

		直近の購入場所					どこにも属さない	合計
		大阪キタ	大阪ミナミ	神戸市中心部	京都市中心部	西宮北口		
よく行くファッション街	大阪キタ（梅田）	38 51.4%	1 1.4%	3 4.1%	0 0.0%	5 6.8%	27 36.5%	74 100.0%
	大阪ミナミ（なんば・心斎橋）	3 23.1%	8 61.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	13 100.0%
	神戸市中心部（三宮・元町）	1 3.7%	0 0.0%	11 40.7%	0 0.0%	4 14.8%	11 40.7%	27 100.0%
	京都市中心部（四条河原町）	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%
	その他	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	0 0.0%	3 21.4%	10 71.4%	14 100.0%
	合計	42 32.1%	9 6.9%	16 12.2%	1 .8%	12 9.2%	51 38.9%	131 100.0%

- ・ 大阪キタはよく行かれているファッション街であり、購入する人数が多いが、約半数が大阪キタ別の場所で購入している
- ・ よく行くファッション街と直近の購入場所が一致している人は少ない→直近の購入場所とよく行くファッション街は一定ではない

- ・ 直近の購入場所が<どこにも属さない>が多くなるということは、自宅近くのショッピングモールまたは、アウトレットで購入していると予想される

次に通学路パターンとよく行くファッション街に関して分析していく。

ファッション街に関しては、直近でトップスを購入していない人も答えているので、168名と直近の購入場所と比較して多くなる。

表 6.通学路パターンとよく行くファッション街

		よく行くファッション街					合計
		1.大阪キタ (梅田周辺)	2.大阪ミナ ミ(なん ば・心斎橋 周辺)	3.神戸市中 心部(三 宮・元町周 辺)	4.京都市中 心部(四 条河原町周 辺)	5.その他	
通学路パ ターン	関学近隣住 民	5 62.5%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	1 12.5%	8 100.0%
	宝塚乗り換 え民	9 64.3%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	3 21.4%	14 100.0%
	阪神間(大 阪寄り)民	9 90.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 100.0%
	阪神間(神 戸寄り)民	8 42.1%	0 0.0%	7 36.8%	0 0.0%	4 21.1%	19 100.0%
	十三乗り換 え民	20 74.1%	3 11.1%	0 0.0%	4 14.8%	0 0.0%	27 100.0%
	三宮乗り換 え民	4 12.1%	1 3.0%	25 75.8%	0 0.0%	3 9.1%	33 100.0%
	JR京都線・ 滋賀方面民	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	4 100.0%
	(ほぼ)大 阪市内完結 民	10 66.7%	5 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 100.0%
	大阪市内経 由で大阪東 部・南部へ	23 60.5%	10 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	5 13.2%	38 100.0%
	合計	91 54.2%	20 11.9%	36 21.4%	4 2.4%	17 10.1%	168 100.0%

表 4 の直近の購入場所と比較して考える。

<直近の購入場所と同じ傾向>

- ・ 十三で乗り換える人は大阪キタへ行く人が多い
- ・ 三宮で乗換える人は神戸市中心部を中心に行動している

<直近の購入場所と異なる>

- ・ 関西学院大学周辺に住んでいる学生はよく行くファッション街の選択肢に西宮北口がなくなると大阪キタと答えている
- ・ 全体的に関西学院大学の学生は大阪キタへよく行っている

ファッション街に関して通学路とどう関係しているのか、表 3 と比較しながら分析していく。

表 7.ファッション街と通学路

		通学路			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
ファッション街	大阪キタ	1 1.1%	36 39.1%	55 59.8%	92 100.0%
	大阪ミナミ	2 10.0%	13 65.0%	5 25.0%	20 100.0%
	神戸市中心部	0 0.0%	25 69.4%	11 30.6%	36 100.0%
	京都市中心部	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	4 100.0%
	合計	5 3.3%	75 49.3%	72 47.4%	152 100.0%

※その他が含まれていないので表 6 の合計と数値が異なる

<直近の購入と同じ傾向>

- ・ 大阪キタは通学路上より通学路外の方が多く、半数以上いる
- ・ 大阪キタ以外は通学路上のファッション街へ行っている人が多い
- ・ 通学路外であるが、大阪キタへ行っている人の約半分が十三で乗り換え、または大阪キタが最も近いファッション街である

以上の分析より、十三で乗り換える人は通学路外である大阪キタへ行く人が多く、その結果、大阪キタが最も行っている人が多くなっている。その一方で、神戸市中心部は通学路上の人の割合が多いことがわかった。

都市によって違いが生じる。大阪キタが都市各位説的に他のファッション街と比べて上位に位置すると考えられる。

1.4 トップスを購入するという行動

直近の購入場所について分析した結果、次のことが言える。

表 8.直近の購入場所とよく行くファッション街について言えること

		よく行くファッション街	
		通学路上	通学路外
直近の購入場所	通学路上	ハレ/ついで	ついで
	通学路外	ついで	ハレ

「ハレとケ」

民俗学や文化人類学において用いられる日本人の時間論をともなう世界観のこと

「ハレ」→非日常 「ケ」→日常 を表す

- ・ 直近の購入場所は通学路上、よく行くファッション街も通学路上の場合、「ついで」の行動とは言い切れない。よく行くファッション街も通学路上であるので、わざわざトップスを購入しに行っているのかもしれない。
- ・ 直近の購入場所は通学路上、よく行くファッション街も通学路上の場合、「ついで」の行動と言える。「トップスを購入する」という目的があれば、通学路外に行くので、通学路上で購入している直近の購入は、ついででの行動である。
- ・ 直近の購入場所は通学路外、よく行くファッション街は通学路上の場合、遊びに行った「ついで」、たまたまその場所に行った「ついで」であると考えられる。
- ・ 直近の購入場所は通学路外、よく行くファッション街も通学路外の場合、「ハレ」の行動であると言える。実際に、調査結果を見てみる。

表 9.直近の購入場所とよく行くファッション街の通学路

		よく行くファッション街			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
直近の購入場所	自宅最寄駅	1 6.7%	7 46.7%	7 46.7%	15 100%
	通学路上	1 1.9%	43 82.7%	8 15.4%	52 100%
	通学路外	1 2.0%	6 12.0%	43 86.0%	50 100%
合計		3 2.6%	56 47.9%	58 49.6%	117 100%

表の中の太枠を見てみると、86名がトップスを購入が「ハレ」の行動であると推測できる。したがって、買物行動を把握するにあたって、「トップス」を用いることは適切であるといえるだろう。

2.百貨店

百貨店について、7月と11月の二度調査している。

表.10 百貨店

	7月調査	11月調査
あべのハルカス近鉄本店	6.1	3.4
あまがさき阪神	.7	.6
そごう神戸店	3.9	5.7
ヤマトヤシキ 加古川店	.7	2.3
ヤマトヤシキ 姫路店	3.2	2.9
京阪百貨店モール京橋店	.4	.6
近鉄百貨店上本町店	1.1	2.9
高島屋京都店	1.1	1.7
高島屋大阪店	5.0	1.7
阪急うめだ本店	23.7	26.4
阪急メンズ大阪	.4	1.1
阪神・にしのみや	1.1	0.0
阪神・御影	1.1	.6
阪神梅田本店	3.6	2.3
三田阪急	1.4	1.7
西宮阪急	5.7	8.6
千里阪急	1.4	2.3
川西阪急	3.2	4.0
大丸京都店	1.4	2.3
大丸心齋橋店	1.8	1.1
大丸神戸店	10.0	8.6
大丸梅田店	1.8	1.7
宝塚阪急	3.2	1.7
その他	17.9	15.5
合計	100.0	100.0

関西学院大学に通う実家生の親御さんがよく行く百貨店を調査したところ、上の表の結果となった。阪急うめだ本店が最も多いようである。

学生がよく行くファッション街と親がよく行く百貨店は同じ場所であるのかを確かめたところ、データは出なかった。したがって、学生と親に共通点があるとは言えない。

3.まとめ

【直近の購入場所】

よく行くファッション街とは別の繁華街や、繁華街に属さない場所で購入していることから、「遊びに行ったついで」と考えられるものもある。

【よく行くファッション街】

大阪キタだけは、学校・自宅・アルバイト先が関係していなくても行っている人が多い。「ファッション街」としてあげていた神戸市中心部を通過して大阪キタへ行っている学生もあり、大阪キタは、他のファッション街に比べてひとつ上の位に位置する都市であると考えられる。

※直近の購入場所とよく行くファッション街は一定ではない。

【トップスの適切さ】

- ・ 学生の約 6.7 割が一定期間内にトップスを購入している。

実家生と下宿生に分けてみる。

表 11.実家生の買物行動

		買物行動			
		トップス	美容院	本屋	映画館
繁華街	大阪キタ	42 32.1%	17 9.9%	30 17.6%	32 26.7%
	大阪ミナミ	9 6.9%	8 4.7%	6 3.5%	7 5.8%
	神戸市中 心部	16 12.2%	8 4.7%	12 7.1%	13 10.8%
	京都市中 心部	1 0.8%	3 1.8%	0 0.0%	3 2.5%
	西宮北口	12 9.2%	10 5.8%	19 11.2%	43 35.8%
	どこにも属 さない	51 38.9%	125 73.1%	103 60.6%	22 18.3%
	合計	131 100%	171 100%	170 100%	173 100%

表 12.下宿生の買物行動

		買物行動			
		トップス	美容院	本屋	映画館
繁華街	大阪キタ	19 31.1%	1 1.2%	10 11.8%	10 16.7%
	大阪ミナミ	2 3.3%	1 1.2%	0 0.0%	1 1.7%
	神戸市中 心部	4 6.6%	4 4.7%	2 2.4%	1 1.7%
	京都市中 心部	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	西宮北口	21 34.4%	23 26.7%	54 63.5%	41 68.3%
	どこにも属 さない	15 24.6%	57 66.3%	19 22.4%	7 11.7%
	合計	61 100%	86 100%	85 100%	60 100%

- ・ 関西学院大学の下宿生は西宮北口での買物が増えるため、調査対象からは外したが、下宿生も実家生と同様にトップスを購入する行動は、他の買物行動に比べて繁華街へ行っている。したがって、トップスは買物行動を知ることには適しているといえるのではないかな。
- ・ 直近の購入場所とよく行くファッション街が一定でないことから、直近の購入場所とよく行くファッション街の両方を尋ねる必要がある。また、よく行くファッション街に西宮北口を含める必要はない。
- ・ 直近の購入場所とよく行くファッション街の通学路の関係から、トップスは「ハレ」の行動であり、買物行動を把握するのに適している。

関学生の生活～読書編～

栄永千琴・中村美涛

近年、読書離れが囁かれている一方で、今年は芸人の又吉直樹さんの『火花』が芥川賞を受賞したことで多くのメディアに注目されていたことが記憶に新しい。読書とは年代・性別問わず行うことのできる汎用性のある行動である。そんな読書行動について、私たちは現在の学生を対象に調査分析をしていくこととする。

1, 先行研究

家計調査 総務省

一定上の抽出方法に基づき選定された全国約9千世帯の方々を対象として、家計の収入・支出、貯蓄・負債などを毎月調査している。<http://www.stat.go.jp/data/kakei/index.htm>

問題点：家計簿のように何にいくら使ったかを記入するスタイルの調査票で、細かく聞きすぎており、回答者の負担が大きく、把握しづらい。結果は3か月単位で掲載しており、年齢別に34歳まで、35から59歳まで、60歳以上という分け方でわかりづらい。

社会生活基本調査 総務省

指定する調査区（全国で約6,900調査区）内に居住する世帯のうちから、選定した約8万3千世帯の10歳以上の世帯員約20万人を対象としている。調査事項は「1日の生活行動別平均時間や生活行動の平均時刻に関する事項」と「学習・研究活動、ボランティア活動、趣味・娯楽活動などの余暇の状況に関する事項」についてである。

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index2.htm#gaiyou>

問題点：質問項目ごとに、年単位 週単位などがバラバラで数字が正確に出ているのかが分からない。活動頻度を年に1～4日・5～9日・10～19日(月に1日)・20～39日(月に2～3日)・40～99日(週に1日)・100～199日(週に2～3日)・200日以上(週に4日以上)という選択式で質問しているが、日数区分の分け方が謎である。

2, 調査集計

	2014年12月調査	2015年7月調査	2015年11月調査
質問	期間：4～9月 Q. 単行本を読みましたか （何冊+おすすすめ本） Q. 漫画を読みましたか （何冊+おすすすめ漫画） Q. 最もよく利用する本屋（生協×）	期間：4～6月（雑誌○、教科書×） Q. 本を購入しましたか Q. 何冊購入しましたか Q. いくら使いましたか Q. 直近購入本タイトル・ジャンル・購入方法 Q. 最もよく行く本屋（生協×）	期間：4～9月（小説のみ） Q. 小説を購入/読みましたか Q. 何冊購入/読みましたか Q. いくら使いましたか Q. 印象に残っている小説 Q. 「火花・スクラップアンドビルド」を読みましたか Q. 最もよく行く本屋（生協×）
購入	よく利用する本屋（最寄駅） 西宮北口 48人（25.5%） 梅田 45人（24%） 三ノ宮 13人（7%） 甲東園 8人（4.3%）	よく利用する本屋（最寄駅） 西宮北口 78人（23.2%） 梅田 53人（15.3%） 三ノ宮 20人（8%） 甲東園 11人（3.3%） 購入 80.1% / 非購入 39.9%	よく利用する本屋（最寄駅） 西宮北口 73人（28.8%） 梅田 40人（15.7%） 三ノ宮 14人（5.5%） 甲東園 10人（3.9%） 購入 34.8% / 非購入 65.4%
		平均 5.79冊 1冊 120冊 冊数 費用 4,721円 300円 50,000円	平均 4.0冊 1冊 30冊 冊数 費用 3,108円 800円 35,000円
		<ジャンル> 小説28.7% 雑誌25.9% 漫画14.9% 参考書13.8% エッセイ5.8% その他10.9%	
		<購入方法> 本屋92.3% 電子書籍0.3% インターネット7.4%	
	全体182人中		全体254人中
読書	単行本を読んだ： 95人（52.2%） 平均 6.8冊 1冊 80冊 冊数		小説を読んだ： 113人（44.5%） 平均 5.9冊 1冊 80冊 冊数 少し（1～4冊）： 64人（23.9%） 読書家（5冊以上）： 49人（20.8%） 読んでいない： 141人（55.5%）
	漫画を読んだ人： 100人（54.9%） 平均 30.4冊 1冊 200冊 冊数		「火花」 はい 9% いいえ 44% 「スクラップアンドビルド」 はい 1.5% いいえ 51.9%

前頁の表から読み取れることは、本の購入場所が主要駅に固まっているということである。西宮北口、梅田、三ノ宮などが上位に挙がっており、大型書店のある駅を中心に学校周辺にも広がっているということがいえる。

また、読む本のジャンルは小説が多いということが分かる。ついで、雑誌・漫画が多く読まれており、普段から継続して読まれているということがうかがえる。

3, 質問の変遷

大谷ゼミでは2014年12月・2015年7月・11月の計3回、大谷教授が開講する授業の受講生(約250～350名)を対象に調査を行ってきた。それぞれの長所短所について述べていく。

2014年12月調査

長所 ・単行本と漫画で分けている→別々に質問することで1冊読む労力が違うため単行本と漫画では読んだ冊数が大きく変わるという特徴を見つけることができた

短所 ・単行本の定義が「漫画・雑誌以外」と幅広い

2015年7月調査

長所 ・本の定義を漫画・雑誌を含み教科書のみ除いたため当てはまる学生(有効ケース)が増加
・本の購入金額を質問したことで支出という面からも本について分析できた

短所 ・有効ケースは増加したが、本の定義を12月よりも更に広げたため学生が本のどのジャンルを好むのかが分からない

- ・自由記述が直近で購入した本であるため好んで購入したのか必要不可欠で購入したのかが分からない点からも学生の好みを測ることが難しい
- ・漫画を読んでいるケースが多くでてしまった

2015年11月調査

長所 ・「読む」行動と「購入」行動を質問したことで小説を買わずに読む学生がいることを裏付けることが出来た

短所 ・本の定義を小説に絞ったことで読書行動について分析する対象が減少した
・芥川賞を受賞した2作品について読んだか質問したがNaが多く分析できない

(考察)

以上が3回の調査の長所と短所である。3回の調査を通して分かったことは、質問文の言い回しである。特に本の定義づけは難しかった。広範囲にすると有効ケースが多くなるが、実態がつかみにくく、範囲を狭めるとよりリアルな実態をつかめるが、その一方で有効ケースが少ないため分析の正確性が低くなる。この定義づけの難しさを我々は3回の調査で実感した。そしてこれから調査するときにはまだまだ改善しなければならないだろう。

4, 考察

第4章では7月調査、11月調査の本に関する分析について述べていく。

4-1 読書状況

11月調査より、小説を読んだと回答した学生の特徴について述べていく。

男(31.7%)	女(53.3%)
1回生(38.5%)	2回生(47.3%)
3回生(50%)	4回生(52.6%)

女性、上回生の方が読書する傾向にあることが分かる。

次に読書平均冊数の特徴について11月調査の結果を中心に12月調査・7月調査と比較しながら見ていく。

① 12月調査

『単行本』の平均読書冊数：6.51冊（有効ケース98）
『漫画』の平均読書冊数：60.51冊（有効ケース181）

② 7月調査

本(雑誌・漫画含む)の平均購入冊数：5.79冊（有効ケース231）

③ 11月調査

※この分析では読書冊数50冊・60冊の学生は大きく平均を上げる可能性があるので分析対象から除いた。

学年	平均(冊)	最小(冊)	最大(冊)	標準偏差	有効ケース(人)	備考
1	4.83	1	15	3.23	43	25.5%の学生が3冊読んだ
2	4.88	1	25	5.09	35	22.8%の学生が2冊読んだ
3	4.6	1	10	3.06	20	10冊以上の学生いない
4	6.75	2	15	4.26	12	41.6%の学生が10冊以上読んだ
性別						
男性	4.71	1	15	3.54	32	
女性	5.1	1	25	4.17	79	
全体	4.99	1	25	3.99	111	

4回生の平均読書冊数が高いことが良く分かる。

また、平均読書冊数は質問の言い回しによって変化することが分かった。

芥川賞を受賞した2作品に関する質問についても分析してみる。

① 又吉直樹さん『火花』読みましたか

はい9%(24) いいえ44%(118) NA(126)

② 羽田圭介さん『スクラップアンドビルド』読みましたか

はい1.5%(4) いいえ51.9%(139) NA(125)

③ 購買状況

7月調査・11月調査より、本を買ったと回答した学生の特徴について述べていく。

男性：エッセイ (6.5%) 漫画 (25.8%) 雑誌 (14.2%) 参考書 (12.9%) 小説 (9.7%) 女性：エッセイ (5.0%) 漫画 (6.5%) 雑誌 (35.2%) 参考書 (14.6%) 小説 (27.1%)
--

購入した本のジャンルは男性は漫画、女性は雑誌が多い。

購入：ゼミ (28.9%) 部 (25.6%) 趣味 (24.4%) アルバイト (5.6%) 恋愛 (1.1%) 非購入：ゼミ (14.2%) 部 (42.6%) 趣味 (11.2%) アルバイト (11.2%) 恋愛 (5.3%)
--

購入：ゼミを重視した生活 非購入：部・サークルを購入した生活

部活やサークルに精を出す人は購入しない傾向にある。

④ 関学生はどんな小説を読んでいるのか

芥川賞を受賞した2作品に関する質問についても分析してみる。

又吉直樹さんの『火花』

はい9%(24) いいえ44%(118) NA(126)

羽田圭介さんの『スクラップアンドビルド』
はい1.5%(4) いいえ51.9%(139) NA(125)

あらゆるメディアで注目された又吉直樹さんの『火花』の方が羽田圭介さんの『スクラップアンドビルド』よりも読んだ学生は多いが、それでも1割に満たないという結果から学生にはあまり読まれていないことが分かる。またNAが多いため分析結果の正確性は低いと思える。

4-4 印象に残った小説に関する分析

ここからは12月・7月・11月調査の時にそれぞれ自由記述でお勧めの本や購入した本について学生に回答してもらったものを分析していきたい。

12月調査 お勧めの単行本ランキング (77人中)

乾くるみ『イニシエーションラブ』	4
湊かなえ『Nのために』	3
百田尚樹『永遠の0』	2
有川浩『阪急電車』	2

・湊かなえさんの『Nのために』はこの年の10-12月クールでドラマ化しており、また百田尚樹さんの『永遠の0』はちょうど映画『永遠の0』が日本アカデミー賞を受賞し話題になっていたことが影響していると考えられる。

7月調査 直近で購入したランキング(小説) (342人中)

(小説以外)

乾くるみ『イニシエーションラブ』	7	NON-NO	13
七月隆文『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』	6	ワンピース	13
百田尚樹『永遠の0』	3	VIVI	7
水野敬也『夢をかなえるゾウ』	2	JJ	5
宮部みゆき『ソロモンの偽証』	2	mer	5
上橋菜穂子『鹿の王』	2	週間ジャンプ	4
有川浩『阪急電車』	2	FINEBOYS	3
東野圭吾『眠りの森』	2	Safari	3
三浦しをん『舟を編む』	2	girls style	3
村上由佳『星々の舟』	2	月間 EXILE	3
伊坂幸太郎『グラスホッパー』	2	アオハライド	3
ダニエル・キイス『アルジャーノンに花束を』	2	暗殺教室	2
坪田信貴『ビリギャル』	2	popteen	2
		camcan	2
		mini	2
		ar	2

(直近で購入した本の種類)

エッセイ	漫画	雑誌	参考書	小説	その他
20	53	92	49	102	39

- ・直近で購入した本についてであったが、小説が1番多い結果となった。
- ・小説で1位の乾くるみさんの『イニシエーションラブ』は映画が2015年5月23日公開しており、また坪田信貴さんの『ビリギャル』は映画が2015年5月1日に公開していることが影響したと考えられる。
- ・漫画ではシリーズものが多いため、小説に比べて1つの作品にたくさんの票が集まったと考えられる。
- ・雑誌は女性雑誌が多く、また直近で購入した本の種類で雑誌と答えたのが女性が多かった。大学生になり毎日私服で登校することからオシャレに敏感になり、その参考として女性ファッション誌を購入する学生が多いと考えられる。

11月調査 小説を読んだ学生全体の印象に残った小説ランキング (113人中)

又吉直樹『火花』	13
伊坂幸太郎『グラスホッパー』	4
七月隆文『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』	4
有川浩『植物図鑑』	3
有川浩『阪急電車』	3
東野圭吾『禁断の魔術』	3
有川浩『図書館戦争』	2
有川浩『海の底』	2
乾くるみ『イニシエーションラブ』	2
笹岡治次『未来が見えて僕はちょっと困ってる』	2
伊坂幸太郎『夜の国クーパー』	2
百田尚樹『海賊と呼ばれた男』	2
歌野晶午『世界が終わり、あるいは始まり』	2

- ・芥川賞を受賞した又吉直樹さんの『火花』が学生に人気であることが分かる。
- ・有川浩さんが4作品、伊坂幸太郎さんが2作品と複数ランクインしていることから人気作家であることが分かる。

(12月調査・7月調査・11月調査を通しての考察)

- ・どのランキングにも有川浩さんの『阪急電車』がランクインしている。これは関学生の主な交通手段である阪急電車が舞台の物語であることと、また映画『阪急電車』では関学の上ヶ原キャンパスが劇中で何度か登場しており、関学生にとって親近感のわく作品だからではないと考えられる。
- ・調査した時期に映画化・ドラマ化されて話題になったり、受賞作品としてメディアで話題になることは学生の読書行動、購買行動に影響することが分かった。

ここで 11 月調査の結果で平均読書冊数 4.99 冊であったので、5 冊以上読んだ学生を読書家学生と定義し、読書家学生がどんな本をおすすめとしているのか述べていく。

読書家学生(5 冊以上)の印象に残った小説ランキング (49 人中)

又吉直樹『火花』	3
有川浩『海の底』	2
有川浩『植物図鑑』	2
有川浩『図書館戦争』	2
伊坂幸太郎『グラスホッパー』	2
百田尚樹『海賊と呼ばれた男』	2

- ・又吉直樹さんの『火花』は小説を読んだ学生全体でのランキングでは圧倒的に多い票であったが、読書家ランキングでは大きく票を落としていることから読書家よりも一般学生(読書冊数 1~4 冊)に支持されていることが分かる
- ・有川浩さんの作品が学生全体ランキングにも 4 作品、読書家ランキングでも 3 作品ランクインしていることから読書家にも支持されていることが分かる。

5. 結論

今回、学生の読書行動について分析してきたが、読書をしない学生が半数近くいるという現代の読書離れを表す結果が出た。この半数近い学生の特徴について分析することで読書離れを食い止めるヒントがあるのではないだろうか。

また読書をしない学生が多い一方で、読書をする学生についても分析してみたところテレビや映画で話題になったから読書をした学生・普段からたくさん読書をする学生とこの 2 パターンの学生が存在しており、それぞれ、特徴や印象に残った小説で違いが出た。自分が読書においてどのタイプなのかを考えて本を選ぶとより読書行動に楽しさを持てるのではないだろうかと我々は考える。

本の購買に関しては、西宮北口や梅田、三ノ宮で買う人が多く、大型書店のある主要駅に集まっていることがうかがえる。西宮北口で購入する人が 1 番多かったのは、大学からほど近い駅であるためと予想され、関学生ならではの特徴といえるだろう。

また、小説を購入する割合が読んでいる割合よりも少なくなっており、本を読むにしても購入しない傾向にあるということがうかがえる。近年は、借りて読んだり、スマートフォンやタブレット端末でダウンロードして手軽に読めるようになっているということも購入率が低い要因だといえるのではないだろうか。

3章 大学生の生活行動と人間関係の関連

関学生の映画鑑賞行動について

京極周子・半田咲

1. はじめに

学生の生活行動を明らかにするために我々大谷研究室の学生は2014年12月調査、2015年7月調査2回の余暇調査を行ってきた。その調査では映画館に映画を見に行ったかという質問に対し2回とも60%以上が、はいと回答していた。アルバイトや買い物など必須の行動と比べると映画鑑賞は趣味的な行動ではあるが、十分な母数がとれる行動であることがわかった。私たち自身も学生生活の中で何度も映画館に足を運んだ。そこで関学生の映画に関する行動について調査、分析したいと考え、考察するに至った。

2. 映画についての質問文と結果

12月調査と7月調査の段階では映画に関する質問文はあまり深く考えられたものではなかったの2015年11月調査は一回目、二回目の調査の良し悪しを踏まえ、質問文の作成を検討した。分かりやすく比較するため、以下の表にまとめ、結果と質問文作成の過程、メリットを述べていく。

	2014年12月調査(N=191)	2015年7月調査(N=381)	2015年11月調査(N=259)
質問	期間:4月~9月	期間:4月~6月	期間:4月~9月
	Q.映画館に映画を見に行きましたか (回数)	Q.映画を見に行きましたか Q.何本見に行きましたか	Q.映画館に映画を観に行きましたか (自宅鑑賞×)
	Q.最も多く行った映画館はどこですか (映画館名・最寄駅)	Q.直近(一番最近)見に行った 映画のタイトル	Q.何回観に行きましたか Q.最も印象に残った映画のタイトル
	Q.見た映画のタイトルすべて Q.おすすめの映画のタイトル (期間外に見た映画も可)	Q.最もよく行く映画館の最寄駅	Q.その映画は誰と見ましたか (選択肢より) Q.その映画を見た映画館の最寄駅
結果	見に行った:61.4%(113) 見ていない:38.6%(71) NA:(7)	見に行った:60.1%(227) 見ていない:39.9%(151) NA:(7)	見に行った:68%(176) 見ていない:32%(83) NA=(0)
	平均鑑賞回数:2.6 最大鑑賞回数:10 最小鑑賞回数:1	平均鑑賞回数:2.4 最大鑑賞回数:30 最小鑑賞回数:1	平均鑑賞回数:3.5 最大鑑賞回数:60 最小鑑賞回数:1
	東宝シネマズ(阪急西宮ガーデンズ):38.7%(41)	梅田(阪急/阪神/地下鉄/JR大阪/ 北新地を含む):20.6%(72)	一人:10.2%(18)
	東宝シネマズ(梅田):17.0%(18)	三宮(阪急/阪神/JR):4.9%(17)	学内の友人・知人:47.2%(83)
	OSシネマズ(ミント神戸):13.2%(14)	難波(南海/近鉄/阪神/地下鉄):5.4%(19)	学外の友人・知人:23.3%(41)
	大阪ステーションシティシネマ:11.3%(12)	西宮北口:43.1%(151) (有効ケース数:350)	家族・親戚:6.3%(11)
	以下割愛(有効ケース数:108)		恋人:12.5%(22) (NA=1)
			大阪キタ:23.4%(41)
			大阪ミナミ:4.6%(8)
			神戸市中心部:7.4%(13)
		京都:1.7%(3)	
		西宮北口:46.3%(81)	
		その他:16.6%(29)	
		NA=1	

12月調査は観た映画のタイトルをすべて記述させていた。映画を観に行った学生113人に対し回答数106の回答数。すべてのというのは回答者にかなりの負担でもあり分析もしづらい。

おすすめの映画は全体191人のうち113人の回答しか得られなかった且つ、こちらもまた分析しにくいためどちらも効率の悪い質問文だということが分かった。

次に7月調査である。期間が3か月間と短いため「直近見に行った映画のタイトル」に変更。前回よりも回答率は上がり227人のうち222人の回答数。しかしNAであった5人のうち2人は10本、5本と多く観ていたのにも関わらずNAだったので、本数が多く直近見た映画がどれだったのかタイトルを思い出せな

かったのではないかと考えた。また、自宅鑑賞だと思われるトイストーリーや崖の上のポニョといった明らかに公開が期間外のタイトルの回答が見受けられた。

今回の調査である11月調査は、多く見ているでも思い出しやすい「最も印象に残った映画のタイトル」に変更。その結果、映画を観た176人中176人全員がタイトルを回答。なお、7月調査では期間が3か月間だったのでそれほどタイトルに偏りはなかったが、今回は期間が半年なので直近見た映画で聞くと9月公開のものに偏ってしまうのではないかと考えたことも印象に残ったタイトルを選んだ理由である。また“映画館で”の文を強調(赤字)し、「自宅鑑賞を含まない」という文の付け加えたことで自宅鑑賞と思われる回答も無くなった。以上から私たちはこの質問文がベストだと考える。

調査期間については12月調査と11月調査は4月から9月の6ヶ月間を対象としたもので、7月調査4月から6月の3ヶ月間であったにもかかわらず、関学生6割以上が映画を観に行くという結果がでた。期間に関係なく過半数の学生が映画を観に行くことが分かった。

◎映画を観ていない人の特徴

何に重点を置いた生活をしているか(N=259)

		ゼミ・授業	部・サークル	自分の趣味	アルバイト	恋愛
12月調査	観てない人	17.0%	29.5%	20.0%	17.0%	0.0%
	観た人	19.5%	40.3%	15.4%	10.1%	0.7%
11月調査	観てない人	18.1%	36.1%	15.7%	8.4%	2.4%
	観た人	19.9%	36.4%	16.5%	9.7%	4.5%

※7月調査では重点に関する質問文が無かったため割愛

- ・上図の通り観ている人も観ていない人も何に重点を置いた生活をしているかにほとんど差はない
- ・収入が少ない人ほど観ていないのかと予想したが、関連性はほとんど見られない
- ・映画を見ていないかつ、テレビ録画をしていた学生はテレビ録画時間が長いと予想したが、過半数が録画時間を1~2時間と回答し、長いとはいえない。

以上より、映画を見ていない人の特徴は、そもそも観るという行為への執着が薄く、単に映画に興味を持たなかった人たちなのではないか。

●映画本数の調査別度数分布

映画を観た人の観た本数の散布

	1本	2本	3本	4本	5本	6本	7本	8本	9本	10本	15本	30本	60本
12月調査	26.9%	26.1%	23.9%	12.7%	5.2%	1.5%	0.7%	0.7%	1.5%				
7月調査	44.6%	22.8%	15.6%	5.7%	4.0%	2.6%	0.9%	0.9%	1.3%			0.4%	
11月調査	21.6%	19.9%	29.0%	6.8%	11.4%	4.5%	0.6%	0.9%	0.6%	1.7%	1.1%		0.6%

12月調査：1本のみ鑑賞が一番多く、1~3本に集中。映画を観た113人のうち104人が回答

7月調査：**1本のみ鑑賞が44.6%**を占めていた。これは3か月間対象という期間の短さが影響したのだと言える。映画を観た227人中224人が回答

11月調査：3本鑑賞29.0%と最も多く、1~3本に集中。176人中176人全員が回答

12月調査では映画を見に行ったかどうか、はい、の隣に小さく()回、と記入欄を設けていたが、7月調査と11月調査では質問を次の文にして、「映画を何本見に行きましたか」に変えたことで見落としが減り、回答率が良くなっている。

●平均本数

12月調査：平均**2.6本** 最小値1本 最大値 10本 評準偏差1.7 (有効ケース数：134)

7月調査：平均**2.4本** 最小値1本 最大値 30本 標準偏差2.6 (有効ケース数：224)

11月調査：平均**3.5本** 最小値1本 最大値 60本 標準偏差4.8 (有効ケース数：177)

◎学生が期間中に平均2本以上は映画をみているということも注目すべき点である。

※※11月調査では最大値60本が1ケースあり、映画通であるのか、ふざけた回答なのか悩んだがこのケースは一人で映画を観に行っていた。半年で60本も見るとなると、他人と時間を合わせるのも難しいので一人で観に行く可能性が高いと考えた。また、映画タイトルは「Mommy」という今回の全体の上位ランキングには入らないものであり、60本見た中からこの映画を印象に残った映画に選んでいることから映画通であると捉えることにし、分析対象にすることとした。しかし、これが今回の平均本数が3.5本と増えたことには少なからず影響している。

●友人ネットワークの検証「誰と観るのか」

学生の友人ネットワークを検証したいと思い、「誰と見るか」は11月調査にて初めて追加した質問である。

過半数近くの47.2%が学内の友人・知人と観ることが分かった。学内・学外に分けたのは学内と学外では行動範囲が変わるはずだと考えたからであり、案の定、西宮北口では学内の友人と見るパターンが大半であるという結果が出た。また、知人をプラスしたのは“その他”という逃げの選択肢を入れたくなかったので、友人という言葉におさまらないであろう先輩、後輩、近所の人、先生、インターネット上の友人なども含められるようにし、できるだけ全ての人を網羅できるようにした。後述の分析のところでも大いに役立ったので今後の調査でも是非使ってほしい質問項目だ。

ちなみに・・・

友人・知人を選んだ場合その人が下宿生なのか自宅生なのか、自宅生の場合どこに住んでいるのかという質問文を加えて入れれば、下宿生は下宿生、自宅生は自宅生と遊ぶ確率が高いというような分析や自宅生同士の場合大阪方面の人は大阪方面の友人と兵庫方面の人は兵庫方面の人と遊ぶ傾向があるなど、友人ネットワークに関する一歩踏み入れた分析ができたのではないかと思う。

●映画館場所

12月調査

西宮北口:38.7%(41) 大阪(梅田):28.3%(30) 神戸(三宮):13.2%(14) その他

7月調査

西宮北口:43.1%(151) 大阪(梅田):20.6%(72) 大阪(難波):5.4%(19) 神戸(三宮):4.9%(17) その他

11月調査

西宮北口:46.3%(81) 大阪(梅田):23.4%(41) 神戸(三宮):7.4%(13) その他

3回の調査全てで約4割が西宮北口と回答

◎関学生が映画を観ることに西宮北口が大きく影響していることがわかった。

12月調査のみ具体的な映画館名を聞いていたのだが、

- ① 東宝シネマズ（梅田）と大阪ステーションシネマはどちらも大阪キタ地域であることから場所としてとらえるためには双方を足さなければならない
- ② 知りたいのはどの映画館が人気かということではなく、学生の生活圏である
- ③ 映画館名を聞いた12月調査と駅名を聞いた7月調査にそれほどの差はない

以上より11月調査も駅名のみを答えてもらうことにした。これによって他の買い物行動などと比較がしやすくなった。

3. 大学生はどんな映画を見ているのか

●調査別人気ランキング

	2014年12月調査	2015年7月調査	2015年11月調査
1位	アと雪の女王(36):259.2億円(1位)	シンデレラ(35)	ジュラシックワールド(18)
2位	マフイェント(31):66.5億円(3位)	仁傑シオン・ラブ(25)	バケノの子(13)
3位	るろうに剣心シリーズ(18):98.9億円(4.5位)	ワイルドスピード SKY MISSION(15)	マイ・インターン(11)
4位	思い出のマーニー(13):36億円(8位) ホットロード(13):25.2億円(15位)	名探偵コナン業火の向日葵(14)	ヒロイン失格(9)
5位	名探偵コナン異次元の狙撃手(11):40.2億円(7位)	ピリギヤル(12)	図書館戦争(8)

3つのランキングから考察すると、基本的に大学生は世間と変わらない映画を観ているようである。そして、宣伝に力を入れている映画を観ている学生が多いことから、時代の流れに乗った、流行りの映画を好むという傾向も顕著であった。調査ごとのランキングの解説は以下の通りである。

12月調査: このランキングの時期のみ公式で興行収入が既に発表されているので、参考に興行収入、興行収入ランキングでの順位を記載した。7月調査以降の興行収入はまだ発表されておらず世間のランキングと比べようと考えていたのだが、それができず調査後に困ったので、事前に必要な資料があるかどうかを確かめることをお勧めする。

アニメに関して、興行収入のランキングでは『STAND BY ME ドラえもん』に差を付けられていた『名探偵コナン異次元の狙撃手』が学生には多く見られており、このランキングでは上位となった。

7月調査: 宣伝に力を入れていた『シンデレラ』が1位。そして今回の調査でも『名探偵コナン業火の向日葵』がランクインしており、名探偵コナンシリーズは学生に人気であるようだ。意外にアニメを見ている学生も非常に多い。

11月調査: 7年ぶりの洋高邦低を象徴するかのようになり、洋画『ジュラシックワールド』がトップとなった。

※※11月調査のランキングを見て分かるように、4月1日から9月30日に見た映画に10月10日公開の映画である『マイ・インターン』と回答した学生が多くいた。そもそも11月調査は10月に実施する予定で作成していたものが、11月にずれ込んでしまいこの結果となってしまった。質問文が悪かったというより

は、実施時期がずれていなければ本来なら回答はされなかったはずだ。票が集まった事は事実であるので、参考記録としてランキングにはそのまま入れておくこととした。

●11月調査 タイプ別ランキング

	友人編(124)	映画好き(4本以上鑑賞)(52)	1本のみ鑑賞した人(39)
1位	ジュラシックワールド(13)	ジュラシックワールド(8)	バケノの子(5)
2位	ヒロイン失格(7) マイ・インターン(7)	マイ・インターン(6)	名探偵コナン 業火の向日葵、 ヒロイン失格(4)
3位		バケノの子、図書館戦争、ワイルドスピード -ト SKY MISSION(3)	
4位	シンデレラ、バケノの子、バクマン。(6)		BORUTO、シンデレラ(2)
7位	図書館戦争、ミッションインポッシブル ロード・ネーション、 名探偵コナン 業火の向日葵(5)		

2015年の映画界で「洋高邦低」という言葉が出たように、これらのランキングにもその事実が如実に反映されており、洋画が上位を占めるという結果になった。(家族親戚と恋人偏は回答数が少ないのでラインナップは割愛)

●ランキングの特徴

友人編 (124人)	全体のランキングともあまり変化のない結果となった。
映画好き(4本以上鑑賞)(52人)	他より洋画が多くランクインしている。
1本のみ鑑賞した人(39人)	他のランキングにはすべてランクインしていた『ジュラシックワールド』が入らなかった。
家族・親戚 (12人)	ほとんどが恋愛映画ではなかったので身内の人と恋愛モノを見ない傾向
恋人 (24人)	恋愛系の映画は意外に少なく、『図書館戦争』、『ヒロイン失格』、『脳内ポイズンベリー』など宣伝に力を入れていた映画が多い。

以上から映画好きでないと洋画を見る人は少ないという可能性があることと、恋人同士では逆に恋愛ものはあまりみないことがわかった。

・友人と映画を見ている人の特徴 129人

90名が実家生で、授業によく出席している、ややよく出席していると過半数(112名)が回答している。110名がアルバイトをしており、過半数を占めた。

・恋人と映画を観ている人の特徴 24人

実家生と下宿生の比率はほぼ半々で、他の学生よりも恋愛に生活の重点を置いている学生が多い。部、サークルに生活の重点を置いている学生が8名で、半数以上が授業によく出席していると回答。1名(4年生)を除き全員がアルバイトをしており、家族と映画を見ている学生とは大きく違う点である。旅行も恋人と行っている学生が11人と半数近くまでのぼった。半数以上が本を読まず、テレビ録画もしていない。

・映画を見ているが本数が少ない(3本以下)の人の特徴 129人

実家生が65%と半数以上を占める。70%近くが授業によく出席している。アルバイトも約83%がしている

と回答。ゼミや部活・サークルに生活の重点を置いている人が63%となった。小説も読んでいる人と読んでいない人が半々で、彼らの特徴は良くも悪くもふつう

・映画好き(4本以上鑑賞)の人の特徴

女性が37人と70%近くで、実家生も70%を占める。85%がアルバイトをしており、自分の趣味に生活の重点を置いている人が20%と他の学生よりも多くいた。多くの学生が授業にほとんど出ていると回答していたが、半数近くの学生が成績がA以上が少ない、ほぼないと回答しており、授業よりも自分の趣味に没頭している学生が多いのではないかと予測した。

4. 分析と考察

映画に関わる関学生の行動について以下の仮説の検証をしていく。

考察1:何をするかによって誰と行動するかが変わる

	一人で	学内の友人・知人	学外の友人・知人	家族・親戚	恋人
映画	10.2%(18人)	47.2%(83人)	23.3%(41人)	6.3%(11人)	12.5%(22人)
旅行	8.2%(13人)	46.8%(74人)	20.9%(33人)	14.6%(23人)	9.5%(15人)

誰と行ったかについて同じ選択肢を使用していた旅行と比較してみた。映画、旅行ともに半数近くの学生が学内の友人と行っている。学外の友人・知人も合わせると約70%もの学生が、友人または知人と映画館へ行くことがわかる。旅行も同等である。一人で行くこと、恋人と行くことに関しては映画が少し旅行を上回るが、家族親戚に関しては旅行の方が倍近くであることがわかった。

(課題)

今回誰と行くかについては旅行班と映画班だけであったが、このように他の行動と比較してみると分かることもあったので他の買い物行動、読書行動などについても誰と行くかという項目を入れていれば誰と何をしているのか比較できたのではないかと。

考察2:映画を家族、親戚と見に行っている人の場合、家族(兄妹)仲が良い人が多い

映画を誰と見に行ったかときょうだいとの仲、父親との仲、母親との仲それぞれクロス集計した結果、家族と映画を見に行くと回答した12名中、きょうだいと仲が悪い(どちらかといえば仲が悪い、非常に仲が悪い)と回答した学生は0名、父親と仲が悪い(どちらかといえば仲が悪い、非常に仲が悪い)と回答した学生は2名、母親と仲が悪い(どちらかといえば仲が悪い、非常に仲が悪い)と回答した学生が0名であった。このクロス集計からわかるように、家族仲が良いとやはり家族と一緒に掛ける機会も多くなるのであろう。家族・親戚の中でも誰と映画を見に行ったのかを聞いていけばさらに分かりやすい結果になったのではないかと、そこは反省点として次回の調査に生かしたい。

考察3:一人で映画を観に行く学生の特徴

一人が非常に多いわけではないが家族・親戚が11人、恋人が22人と同数程度票が得られたので一人で映画に行くパターンというものがあることが分かる。一人で映画を見たと答えた18名は比較的1年生の男子に多く33.3%(6人)1年生女子が(4人)であった。母数が少ないためこれだけでは特徴はあまりみられないが、他の角度から探してみた。

- ・一人映画で映画に行った人が見たタイトルは、感動系が多かった。感動して泣く姿を見せたくない人や、感情を邪魔されたくない人が多いのかもしれない。また誰かが選んだわけではないので、本人が本当に観たかった映画を見た結果のラインナップだと言える。
- ・映画を5本以上観た人の割合は、全体21.0%に対して一人で観た人は39.1%と高くなっていた。このことから、友人と遊びに行くという感覚ではなく映画を観に行くことをメインにしていると考えられるので、映画通が多いのではないだろうか。
- ・一人で映画を観た18人のうち2つのケースは旅行にも一人で行っていた。一人行動が好きなパターンもあると言えそうだ。

以上のことから言える一人で映画を見に行く人のパターンは、感動系の映画を観に行っている、映画をメインに何本も見に行く映画通である一人行動が好きである、の3つにわけられる。

考察4：学年や住居形態による誰と見るのかの特徴

	一人	学内の友人・知人	学外の友人・知人	家族・親戚	恋人	合計
1年生	10	39	22	5	6	82
	12.2%	47.6%	26.8%	6.1%	7.3%	100.0%
2年生	3	25	12	4	10	54
	5.6%	46.3%	22.2%	7.4%	18.5%	100.0%
3年生	3	13	6	1	5	28
	10.7%	46.4%	21.4%	3.6%	17.9%	100.0%
4年生	2	6	0	1	1	10
	20.0%	60.0%	0.0%	10.0%	10.0%	100.0%

p>0.05

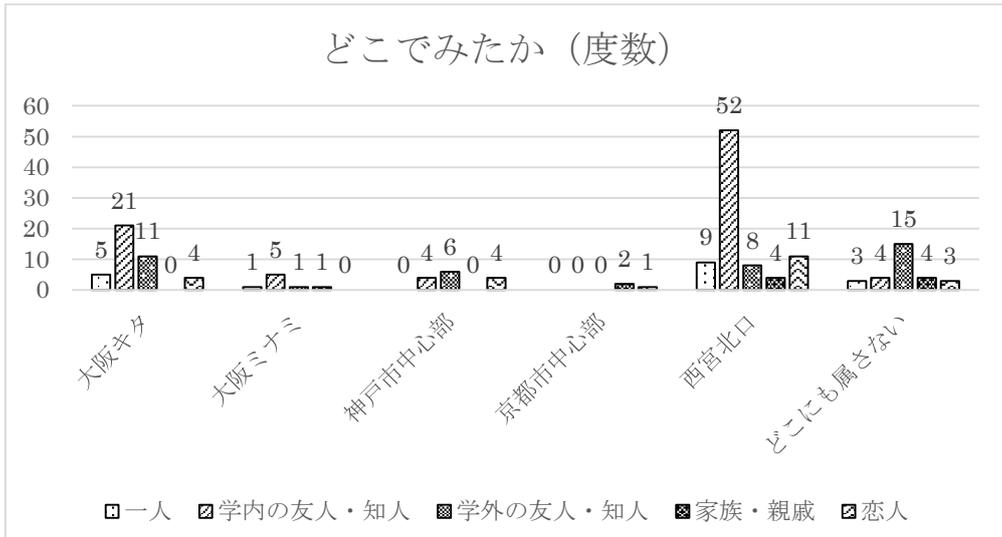
1年生はまだ学外の友人のつながりが強いのかと思っていたが、意外と学内の友人・知人が一番多く学内の友人と仲が良くなっていると言えそうだ。3、4年生は学外の友人・知人は少なくなっている。学年が上がるにつれ学内の友人ネットワークに依存する傾向があるのかもしれない。

	一人	学内の友人・知人	学外の友人・知人	家族・親戚	恋人	合計
実家生	8	56	33	7	12	116
	6.9%	48.3%	28.4%	6.0%	10.3%	100.0%
下宿生	10	27	8	4	10	59
	16.9%	45.8%	13.6%	6.8%	16.9%	100.0%

P>0.05

実家生が33人、学外の友人・知人と観にいったのに対して下宿生は8人とかなり少ない。下宿生は学内の友人とのネットワークの方が強いと考えられそうだ。また、下宿生が家族・親戚と観にしているケースもあり、下宿生の1回生女子「実家が長崎で映画館の最寄駅も長崎」、「実家が福井県で映画館の最寄駅も福井県」のケースがあったことから帰省した際に家族・親戚と映画館に行くパターンもあることがわかった。

考察5：学内の友人・知人と映画を観にいった人は西宮北口でみている場合が多い



P<0.05

グラフの通り圧倒的に学内の友人・知人と西宮北口で映画を観ていることがわかった仮説通り、友人と映画館を観に行くという行為を西宮北口にて多くの学生がしていることがわかった。次に実家生か下宿生によって見る場所に違いが出るのか分析してみた。

	大阪キタ	大阪ミナミ	神戸市中心部	京都市中心部	西宮北口	どこにも属さない	合計
実家生	31 26.7%	7 6.0%	12 10.3%	3 2.6%	41 35.3%	22 19.0%	116 100.0%
下宿生	10 16.9%	1 1.7%	1 1.7%	0 0.0%	40 67.8%	7 11.9%	59 100.0%

P<0.05

《実家生の場合》大きく分けると西宮北口で観た人 (35.3%) と大阪キタで観た人 (26.7%) に分けられることが分かった。西宮北口で観た場合これは実家生が下宿生もしくは西宮北口までが定期圏内である実家生と観たパターンであると考えられる。大阪キタで観ている場合は実家生同士で通学路上である場合が多いのではないだろうか。

《下宿生の場合》、67.8%が西宮北口で観ていることから、下宿生同士で観る場合も実家生と見る場合も下宿生にとって大阪キタなどに行くよりも負担が少ない西宮北口が一番身近な映画館であると言えるだろう。

ここで下宿生を2パターンに分けてみた。

門戸厄神、甲東園、仁川を最寄り駅とする下宿生を徒歩圏内の下宿生とし、その他の駅を最寄りとする下宿生をと徒歩圏外の下宿生とする。始めは通学手段で徒歩圏か否かのクロスをしようと思っていたが、バイク通学で甲東園に住んでいるケースもあったので今回は住む場所で判断することとした。

《徒歩圏内の下宿生》 (39人) の66.7% (26人) が西宮北口、次いで23.1% (9人) が大阪キタで映画を観ていた。その他大阪ミナミ2.6% (1人)、神戸中心部2.6% (1人)、どこにも属さない5.1% (2人) であった。

《徒歩圏外の下宿生》 (19人) の73.7% (14人) が西宮北口、次いで5.3% (1人) が大阪キタで映画をみていた。その他はどこにも属さない21.1% (4人) のみであり西宮北口と大阪キタに偏っている。

どちらの学生も西宮北口か大阪キタで観るパターンが多い。予想では徒歩圏外の下宿生は徒歩圏内の下宿生よりも定期券を持っている学生も増えるため、遠出するのではないかと考えていたが意外と徒歩圏内

の下宿生の方が西宮北口以外で観ていることが分かった。

考察6：映画は他の買い物行動に比べ、通学路上で見ている人が多い

*映画鑑賞場所

		映画館通学路			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
居住形態	実家生	13 (10.9%)	63 (52.9%)	43 (36.1%)	119 (100%)
	下宿生	7 (11.9%)	3 (5.1%)	49 (83.1%)	59 (100%)
合計		20 (11.2%)	66 (37.1%)	92 (51.7%)	178 (100%)

*小説購入場所

		本屋通学路			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
居住形態	実家生	69 (40.6%)	69 (40.6%)	32 (18.8%)	170 (100%)
	下宿生	23 (27.1%)	9 (10.6%)	53 (62.4%)	85 (100%)
合計		92 (36.1%)	78 (30.6%)	85 (33.3%)	255 (100%)

*トップス購入場所

		トップス通学路			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
居住形態	実家生	17 (13.0%)	58 (44.3%)	56 (42.7%)	131 (100%)
	下宿生	5 (8.2%)	2 (3.3%)	54 (88.5%)	61 (100%)
合計		22 (11.5%)	60 (31.3%)	110 (57.3%)	192 (100%)

*美容院場所

		美容院通学路			合計
		自宅最寄駅	通学路上	通学路外	
居住形態	実家生	75 (43.9%)	59 (34.5%)	37 (21.6%)	171 (100%)
	下宿生	31 (36.5%)	13 (15.3%)	41 (48.2%)	85 (100%)
合計		106 (41.4%)	72 (28.1%)	78 (30.5%)	256 (100%)

p<0.05

映画鑑賞場所は実家生の52.9%が通学路上で見ている、つまり西宮北口や大阪梅田で鑑賞している学生が多いためこのような結果となった。そして下宿生はそもそも通学路という概念がない学生も多いためか、通学路外で鑑賞している学生が全体の83.1%を占めた。上ヶ原周辺や仁川、甲東園、門戸厄神に住んでいる学生も多く、その場合西宮北口で鑑賞していても通学路外というパターンになるので、このように通学路外に多くの票が集まっているのであると考えられる。

考察7：アルバイト収入によって映画に行くかどうかが変わってくるのではないかな

収入3万円以下で映画を観た人は27人、観ていない人は6人であり、収入4万以上で観た人は67人、観ていない人は24人であった。収入が少なくとも映画に行っている人は行かなかった人を大きく上回っているため収入が低い人は映画に行かないとは一概には言い切れない。収入が4万以上の人も多く映画を見に行っているが、当然ながら映画に行かなかった人もいる。

収入と映画を観た本数と収入の関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	10	60
3万円以下	12	5	6	2	3	0	0	0	0	0
4万円以上	12	14	20	3	9	4	3	1	1	1

収入が3万円以下の人は1本のみ鑑賞が一番多く6本以上観た人はいないという結果が出た。一方収入が4万円以上の人は1本から60本までと幅広い広がりが見られる。このことから本数に関しては収入と映画の関係性があると言える。映画は生活行動において趣味・娯楽の範囲であるので、収入が低い人にとって後回しになる分野であるのだろう。

(課題) アルバイトの収入について自由記述にしていたことから千円単位での回答が多くあった。そのまま分析するとかなりばらつきがでてしまうので今回は一万円単位で数えなおし、集計に苦労したので次回からは自由記述ではなく一万円単位の選択肢制にするなどした方が良いのではないだろうか。

5. 結論

今回学生を映画という角度から調査していく中で我々が獲得した情報の中で最も有意義であった情報はやはり映画に関しての学生の行動範囲の中心は西宮北口であるということである。他の買い物行動と比較してもその結果は一目瞭然であるように、関学生は西宮北口で学内の友人と映画を見ているケースが非常に多い。関学生にとって西宮北口の阪急西宮ガーデンズが大きく関与していると言える。これだけ多くの関学生が映画館へいっているが、ガーデンズが無かった場合また違った結果になるであろう。他大学生であればまた場所と映画の行動の関係性が変わってくるのではないだろうか。そして、学生も世間との“ズレ”はあまりないように感じた。学生の人気ランキングでも、2015年の洋高邦低という世間での現象もよく反映されていた。そして一人で映画を見る人は映画好き、恋人と映画を見る人は旅行も恋人と行ったり、生活の重点を恋愛に置いていたり、家族と映画を見る人はあまりアルバイトをしていなかったり、実家生であったり、アルバイトの収入が映画を見に行くかどうかに影響していたりと、学生それぞれの特徴を映画の観点から縮図として表せているように感じた。次回の調査では友人ネットワークについてより詳しく深く掘り下げていきたい。

《参考サイト》

・映画ランキングドットコム 「日本国内2014年年間総合ランキング」

<http://www.eiga-ranking.com/boxoffice/japan/yearly/total/2014.html>

(1月3日最終アクセス)

大学生の旅行行動分析

小山源太 松永篤史

1. はじめに

旅行は、お金と時間さえあれば誰にでもできるということから、余暇時間の生活行動を調べていくにはとても面白いのではないかと思ひ、2014年12月調査と2015年11月調査の二回に分け、大学生の旅行実態の調査・分析を進めてきた。

2. <2014年12月調査>

2014年12月に関西学院大学の学生191名を対象に調査をしたことについて述べる。
調査対象期間は2014年7月25日～9月25日の夏季休暇期間。

2.1 質問設定

旅行自体の定義は深く定めなかったが、大学生の旅行の全体像を出したいと考え、国内旅行・海外旅行だけでなく、帰省や部活・サークル・ゼミなどのグループでの合宿も質問項目に加えた。調査対象期間は最も休暇期間の長い夏季休暇期間に限定し、質問をすることにした。

2.2 結果の概要

2014年調査 (N191)	(1)国内旅行	(2)海外旅行	(3)帰省	(4)部活/サークル合宿	(5)ゼミ合宿
行った%(人数)	56.8(104)	10.6(19)	36.0(59)	55.6(100)	13.4(23)
行かなかった%(人数)	43.2(79)	89.4(160)	64.0(105)	44.4(80)	86.6(149)
平均回数	1.71回	1.11回	1.85回	1.53回	1.13回
回数最大値	6回	3回	6回	18回	2回
回数最小値	1回	1回	1回	1回	1回
平均泊数	2.95泊	9.50泊	7.62泊	5.26泊	2.31泊
泊数最大値	12泊	32泊	60泊	31泊	7泊
泊数最小値	0泊	2泊	0泊	1泊	1泊
主な行き先(人数)	東京(32) 三重(14) 千葉(11) 兵庫(10) 沖縄(9)	台湾(5) アメリカ(4) カナダ(4) グアム(2) フランス(2) インドネシア(2)			

(1) 国内旅行

- ・約6割の大学生が国内旅行へ行っているという結果になった。
- ・行き先は主にアミューズメント施設がある地域が圧倒的に他の地域に差をつけた。
- ＊旅行の定義自体が曖昧なため、宿泊を伴わない行楽まで含まれてしまった。

(2) 海外旅行

- ・約1割の大学生しか海外旅行をしていなかった。
- ＊留学も含めたため、目的が勉強なのか観光なのかバラバラになってしまい、泊数に大きな開きが出てしまった。旅行と留学は分けて質問するべきであったかもしれない。
- ・海外旅行を行った人は比較的上級生に多く、女性のほうが若干多かった。
- ＊調査の時期と4年生の就職活動の時期が被ってしまったこともあり、調査対象者が1.2年生に偏ってしまったため、割合が大きく離されてしまった。卒業旅行シーズンで調査を改めて行えば、また異なった結果になったかもしれない。

1年男	カナダ			
2年女	台湾			
2年女	アメリカ			
2年女	アメリカ			
2年女	グアム			
2年女	フランス			
2年女	インドネシア			
2年女	フィリピン			
2年女	香港			
3年男	台湾	タイ	中国	カンボジア
3年男	台湾			
3年男	カナダ			
3年男	フランス	ドイツ	スイス	
3年女	台湾			
3年女	カナダ	アメリカ		
4年男	グアム			
4年女	台湾	インドネシア		
4年女	アメリカ			
NA	カナダ			

(3) 帰省

・右の表は下宿生・実家生別にみた数値である。下宿生の帰省率は91.4%でほとんどの下宿大学生が夏季休暇期間に帰省していることが伺える。

帰省	はい%(人数)	いいえ%(人数)
下宿生	91.4(53)	8.6(5)
実家生	4.8(5)	95.2(100)

*実家生のほうにも帰省している人がいるのは、帰省の定義がしっかりとなされていないためである。下宿生の方にお聞きしますと冒頭につけるべきであった。

(4) 部活/サークル合宿

・右の表は部活/サークル種別にみた数値である。
体育会系どちらも約75%、文化系も6割台の加入者が夏季休暇中に合宿に行っていた。

部活/サークル合宿	はい%(人数)	いいえ%(人数)
体育会系の部活	75.8(25)	24.2(8)
文化系の部活	68.2(15)	31.8(7)
体育会系のサークル	75.9(44)	24.1(14)
文化系のサークル	63.2(12)	36.8(7)
学外の活動	33.3(3)	66.7(6)

*調査方法を直接部活/サークルの人に聞きに行き、場所や日程などがそれぞれの部・サークルごとに分かればもっとリアルなデータとなり、大学生に人気の観光地を絞り込むことができたかもしれない。

(5) ゼミ合宿

・右の表は学年別にみた数値である。ゼミは基本3年生以上であるため、1,2年生はゼミ合宿に参加していない。

ゼミ合宿	はい%(人数)	いいえ%(人数)
1年生	0(0)	100(62)
2年生	0(0)	100(60)
3年生	63.6(21)	36.4(12)
4年生	25.0(2)	75.0(6)

2.3 まとめ

*大学生の旅行実態を調べるにあたって、調査対象にばらつきがあったことと、旅行についてのそれぞれ定義がしっかりとなされていないことで、興味深いデータに仕上げることができなかった。

→旅行の定義を定めることに着手。

→より詳細な結果にしたい

3. <2015年11月調査>

2015年11月に関西学院大学の学生、279名を対象に調査をしたことについて述べる。

調査対象期間は2015年4月1日～9月30日

3.1 調査方法の主な変更点

2014年調査の反省から、より詳細な結果を求めたいと考え、質問内容を一新することにした。割合の高かった国内旅行に焦点を絞り、「誰と旅行に行ったか」をメインで質問することにした。以下が主な変更点である。

① 旅行自体の定義づけ

〔前回〕非実施→〔今回〕日帰り・集団旅行・帰省を省く定義づけ（質問77参照）

② 調査対象期間の変更

〔前回〕7月25日～9月25日の夏季休暇期間→〔今回〕4月1日～9月30日(他の質問と比較しやすくするため)

③ 国内旅行のみに限定（前回調査で国内以外の母数が少なかったため）

〔前回〕国内&海外&部活サークル&ゼミ→〔今回〕国内のみを詳細に

④ 「旅行相手」の質問項目追加
 [前回] 非実施→ [今回] 「誰と旅行に行ったか」という質問項目を追加

⑤ フリーアンサーで詳細な地名・施設名を問うた
 [前回] 都道府県のみ→ [今回] 詳細な地名・施設名

3.2 結果の概要

2015年調査 (N279)					
旅行割合(人数)	はい61.2%(158)	いいえ38.8%(100)			
旅行平均回数	2.3789回				
回数最大値	10回				
回数最小値	1回				
直近主な行き先	東京(29)	沖縄(16)	兵庫(13)	三重(12)	千葉(11)
直近主な施設名	TDR(23)	伊勢志摩(5)	兼六園(5)	美ら海水族館(5)	なばなの里(3)
直近誰と行ったか	学内友人46.7%(78)	学外友人21.6%(36)	家族親戚13.8%(23)	恋人9.6%(16)	一人8.4%(14)

(1)国内旅行

- ・調査対象期間は異なるが、2014年調査と同様に国内旅行へ行った人の割合は約6割という結果になった。
- ・同様に主な行き先も2014年調査と同じ地域がtop5になった。
- ・詳しい施設名の質問では圧倒的にTDRへ行った人数が多かった。

変更点と反省

変更点①

- ・実際には質問文に定義の全文が反映されていないため、集団旅行や就職活動が含まれた可能性が高く、あいまいになってしまった。
- 旅行の定義の全文を別紙に用意すべきであった？

変更点②

- ・行った人の割合が4.4%増加。
 - ・2015年調査では授業期間も含まれているため、旅行の期間として捉える上では2014年調査の「夏季休暇中」の方が適していた。
- 期間設定を旅行のみ独立させるべきであった？

変更点③

- ・データとして残すには海外旅行や合宿も聞くべきであった。
 - ・変更①での定義づけがあいまいになったため、2014年調査の方が旅行の区別ができていた。
- 旅行の定義の全文を別紙に用意すべきであった？

変更点④

- ・フリーアンサーで具体的な施設名を聞くというのは、アイデアとしては良かったが、良い結果が得られなかったため、もっと質問文の作り方の工夫が必要であった。
- 旅行の移動手段を質問項目として付け加えるべきであった？

変更点⑤

- ・回答のまとまりがなかったため、選択式にすべきであった。
- 選択肢は旅行の目的別につくる？（テーマパーク、温泉、etc）

(2) 誰と行ったのか

- ・友人・知人との旅行が最も多いパターンであった。

属性別 誰と旅行同伴者の比率

	学内の友人知人	学外の友人知人	家族親戚	恋人と	一人で
男性	50.8%(30)	16.9%(10)	10.2%(6)	13.6%(8)	8.5%(5)
女性	44.4%(48)	24.1%(26)	15.7%(17)	7.4%(8)	8.3%(9)
1年生	43.5%(30)	27.5%(19)	15.9%(11)	1.4%(1)	11.6%(8)
2年生	53.1%(26)	16.3%(8)	10.2%(5)	18.4%(9)	2.0%(1)
3年生	51.4%(18)	22.9%(8)	14.3%(5)	8.6%(3)	2.9%(1)
4年生	33.3%(4)	0%(0)	16.7%(2)	16.7%(2)	33.3%(4)
その他	0%(0)	0%(0)	0%(0)	100%(1)	0%(0)
実家生	47.7%(51)	24.3%(26)	15.0%(16)	7.5%(8)	5.6%(6)
下宿生	43.1%(25)	17.2%(10)	12.1%(7)	13.8%(8)	13.8%(8)
体育会系の部活	52.9%(9)	29.4%(5)	5.9%(1)	5.9%(1)	5.9%(1)
文化系の部活	47.1%(8)	11.8%(2)	5.9%(1)	11.8%(2)	23.5%(4)
体育会系のサークル	47.9%(35)	17.8%(13)	15.1%(11)	12.3%(9)	6.8%(5)
文化系のサークル	48.1%(13)	22.2%(6)	18.5%(5)	7.4%(2)	3.7%(1)
学外の活動	80%(4)	0%(0)	20.0%(1)	0%(0)	0%(0)

- ・この表を見る限り、友人ばかりでなく家族親戚と出かけているのも多く存在している。
- ・大学生の一人旅はそんなに多くなかった。4年生はおそらく就職活動が含まれてしまっているため、すこし割合が高くなっている。

3.3 まとめ

二つの調査を比較すると、大学生の旅行実態を追求するとすれば 2014 年調査のやり方のほうが多岐にわたって調査しているため、興味深いデータが出てきた。定義さえしっかりと整えておけばマシだったのかもしれない。2015 年調査では、海外旅行を質問からはずしてしまったため、国内旅行に関してだけになってしまった。調査期間も定義についてももう少し詰めて考える必要性があったと思う。

4章 大学生の家族関係

現代学生の親子関係

遠藤大貴・大野孝郎

1. はじめに

我々は本研究において、「両親との連絡」に着目した。新規にテーマを考える上で、「普遍性」を重要視した。「両親との連絡」であれば、一部を除く多くの人には親がおり、親の規模は多くても二人であり例外が少ない。同じ質問を学生と社会人に行えば、学生から見た両親との連絡、社会人から見た両親との連絡というデータを得ることもでき、「両親との連絡」は汎用性が高いと考えた。また、「両親仲」についても同じように普遍性があると考え、「両親仲」についても分析していく。

先行研究として、内閣府（経済企画庁）国民生活局が行う「国民生活選好度調査」を扱った。しかし、問題点が数多く存在した。そこで、我々は、これらの問題点を改善しつつ、大谷ゼミ 2015 年 11 月調査を行った。

2. 先行研究とその課題

国民生活選好度調査とは、国民の意識・ニーズを把握するため、日々の暮らしの中で生活の安定と向上を実現するための基盤となる家族と生活意識について焦点を当てた調査である(平成 13 年度 18 年度) <http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html> 参照

問題点

平成 13 年度の第 1 章 親子の意識 と平成 18 年度の第 3 章 生活の中の満足感や意識 の質問文において、いくつかの問題点を挙げる。

1. 回答者の主観に任せるような意識を問う問題が多く、曖昧な結果になっている。
2. 家族と友人との連絡を同じにして質問をしている。

3. 11 月調査-質問内容の概要-

2015年11月調査			
<仲について>			
Q.17	あなたは父親と仲が良いですか。		
Q.18	あなたは母親と仲が良いですか。		
Q.19	あなたのご両親の夫婦仲は良いですか。		
<連絡について>			
あなたは、今年の10月1日～31日の間に以下のツールを用いて父親と連絡を取りましたか。			
Q.20	電話		
Q.21	メール		
Q.22	アプリケーション(LINE等)		
あなたは、今年の10月1日～31日の間に以下のツールを用いて母親と連絡を取りましたか。			
Q.23	電話		
Q.24	メール		
Q.25	アプリケーション(LINE等)		
<連絡ツールについて>			
Q.26	あなたの父親はスマートフォンもしくはガラケーを持っていますか。		
Q.27	あなたの母親はスマートフォンもしくはガラケーを持っていますか。		

4. 11月調査-各テーマのパターン化

<連絡ツールについて>

1. 【両親の通信ツール所有実態】

連絡機器		%の基数(実数)	
スマホ	ガラケー	父親の場合	母親の場合
○	○	13.1(35)	4.1(11)
○	×	58.6(157)	71.6(192)
×	○	20.1(54)	21.6(58)
非該当・無回答		8.2(22)	2.6(7)
合計		100(268)	100(268)

→この表からは、父親も母親もスマホの所持が最も多いことがわかる。父親は母親と比べ両方所持が多い。これは、会社用携帯電話も合わせての利用だと考えられる。反省点として、両親の年齢に関する質問をしていれば、両親の年齢が何歳以上だとガラケーが多いなども分析できたかもしれない。

<連絡について>

1. 【両親との連絡実態】

	%の基数(実数)	
	父親の場合	母親の場合
電話した	55.2(148)	83.2(223)
メールした	34.7(93)	42.9(115)
アプリした	50.4(135)	73.1(196)

→この表からは、やはり父親よりも母親の方が多く連絡を取っていることがわかる。また、アプリ（LINE等）での連絡よりも電話での連絡の方が多くなることがわかる。

2. 【両親との連絡実態をパターン化】

巻末の単純集計表から両親の連絡手段をパターン化してみた。

連絡手段			%の基数(実数)	
電話	メール	アプリ	父親の場合	母親の場合
○	○	○	27.2(73)	19(51)
○	○	×	0(0)	17.9(48)
○	×	○	0(0)	43.2(116)
○	×	×	27.9(75)	2.2(6)
×	○	○	7.4(20)	1.4(4)
×	○	×	0(0)	4.4(12)
×	×	○	0(0)	8.5(23)
×	×	×	36.1(97)	1.4(3)
非該当・無回答			1.4(3)	2(5)
合計			100(268)	100(268)

→父親と母親では連絡手段のパターンが全く異なる分析結果となった。父親の場合最も多かった“連絡をとらない(×××)”が母親の場合最も少ない結果となっている。電話を利用して両親と連絡を取るケー

ス数は、父親の場合 55.1%（連絡を取らないケースを除くと 98%）、母親の場合 82.3%であった。すなわち、**両親との連絡に関して電話は欠かせないとわかる。**

3. 【実家生と下宿生の両親との連絡実態】

実家生と下宿生で違いはあるのか分析してみた。

実家生/ 下宿生	%の基数	
	父親の場合	母親の場合
電話した	53.2/60.0	83.8/83.3
メールした	32.9/38.9	44.5/40.0
アプリした	52.6/47.8	74.6/71.1

→下宿生は、実家生よりも父親と多く電話とメールをすることがわかる。

<仲について>

1. 【両親仲の実態】

両親との仲	%の基数(実数)	
	父親の場合	母親の場合
非常に仲が良い	27.2(73)	49.3(132)
どちらかと言えば仲が良い	51.5(138)	44.4(119)
どちらかと言えば仲が悪い	10.4(28)	3.7(10)
非常に仲が悪い	3.0(8)	4.0(1)

→この表から、学生は父親よりも母親の方が仲の良いことがわかる。

さらに、父親との仲・母親との仲における「非常に仲が良い」「どちらかと言えば仲が良い」「どちらかと言えば仲が悪い」「非常に仲が悪い」に特徴、違いがあるかどうかを下記の項目から分析したが、**夫婦仲を除いて大きな特徴はなかった。**夫婦仲と両親との仲の分析は後述する。

Q.19 夫婦仲 Q.20-25 両親との連絡 Q.32 出席 Q.33 成績
Q.75 誰と映画 Q.81 誰と旅行

2. 【男女における両親仲の比較】

男子学生と女子学生で違いはあるのかを分析してみた。

両親との仲	%の基数(実数)	
	男子学生の場合	女子学生の場合
父親と非常に仲が良い	31.9(36)	23.9(37)
父親とどちらかと言えば仲が良い	48.7(55)	53.5(83)
父親と仲が悪い	9.8(11)	26.2(25)
母親と非常に仲が良い	38.9(44)	56.8(88)
母親とどちらかと言えば仲が良い	51.3(58)	39.4(61)
母親と仲が悪い	5.3(6)	3.2(5)

※「どちらかと言えば仲が悪い」「非常に仲が悪い」を「仲が悪い」とする。

→同性同士の仲（男性-父親・女性-母親）の方が異性同士の仲（男性-母親・女性-父親）よりも数値が高くなっていることがわかる。

3. 【夫婦仲と父親仲・母親仲の関係のパターン】

巻末の単純集計表から夫婦仲が父親仲・母親仲にどのように影響を与えるのかをパターン化してみた。

- ※ 以下の表では、無回答・非該当のパターンは除いており、該当数がゼロの場合も同様である。
- ※ 「どちらかと言えば仲が悪い」「非常に仲が悪い」を「仲が悪い」とする。
- ※ ◎…非常に仲が良い ○…どちらかと言えば仲が良い ×…仲が悪い

表 1

パターン			該当数 (%の基数)
夫婦仲	父親仲	母親仲	
◎	◎	◎	48(63.1)
◎	◎	○	2(2.6)
◎	○	◎	7(9.2)
◎	○	○	17(22.3)
◎	×	○	1(1.3)
◎	×	×	1(1.3)
非該当・無回答			0(0)
合計			76(100)

→夫婦仲の仲が非常に良いと父親仲や母親仲も非常に仲が良いと答える人が多い。また、総じて夫婦関係が良好であると両親との仲も良くなること分かる。

表 2

パターン			該当数 (%の基数)
夫婦仲	父親仲	母親仲	
○	◎	◎	17(13.8)
○	◎	○	1(0.8)
○	○	◎	29(23.5)
○	○	○	59(47.9)
○	○	×	3(2.4)
○	×	◎	5(4.0)
○	×	○	8(6.5)
○	×	×	1(0.8)
非該当・無回答			0(0)
合計			123(100)

→どの仲もどちらかと言えば仲が良いと答えたケースがかなり多いということである。今回の質問では、「どちらとも言えない」などの中間選択肢を設けなかった結果と考えられる。

表 3

パターン			該当数 (%の基数)
夫婦仲	父親仲	母親仲	
×	◎	◎	3(7.6)
×	◎	○	1(2.5)
×	○	◎	8(20.5)
×	○	○	9(23.0)
×	○	×	1(2.5)
×	×	◎	4(10.2)
×	×	○	11(28.2)
×	×	×	2(5.1)
非該当・無回答			0(0)
合計			39(100)

→夫婦仲が悪くても両親と仲が良い（特に母親と仲が良い）と答えた人は多い。夫婦仲は悪いが両親との仲は非常に良いと答えた3ケースは、「兄弟仲」も非常に良いと答えている。また、夫婦仲・父親仲・母親仲どれも悪いと答えた2ケースは、1年生・男性・学生時代に重点を置いたものは特になしと答えている。

【その他の分析結果】

- ・両親との連絡の有無は、両親仲の良し悪しに影響されない

5. 反省点、

反省点

- ・両親の年齢に関する質問をしていない
→両親の年齢とスマホ所持の有無の相関関係を分析することができた。
- ・「両親とよく話すかどうか（コミュニケーションをとっているかどうか）」の質問を加えた方がよかった
→「両親との仲」において、「非常に仲が良い」と「どちらかと言えば仲が良い」の違いは、連絡の有無ではなく、よく話すかどうかにあるのではないかと考えられる。しかし、この質問も意識調査になってしまいデータが歪む可能性あり。
- ・連絡について検討が足りなかった
→連絡の内容に「迎えに来て」「お誕生日おめでとう」等の記述があってもよかった。

6. まとめ

我々は、両親との連絡や仲など最終的に「親子関係」をテーマに研究を行った。11月調査では、結論として、現代の学生は両親と仲が良く、それは両親の夫婦仲に影響されているとわかった。

我々の作成した質問文は、社会人にも未来にも対応できるものであり、普遍性があり汎用性のあるものである。今後、大谷研究室で10年後20年後、同じ質問をしたとき、どのような回答が返ってくるのか楽しみである。

現代学生のきょうだい関係

山崎周平

1. はじめに

現代の学生を知るうえで、本当に知りたい情報とは何か…。皆が同じように持つもの、普遍的で汎用性の高いものとは何か…。この2点を徹底的に考え、行き着いたテーマが「きょうだい関係」であった。誰もが同じように持ち、性格や人格の形成にも深く関わるものでありながら、現状きょうだい関係に着目した調査はほとんど無い。本稿では、新たな視点から関学生のきょうだい関係を調査し、その特徴について考察していく。

2. きょうだいパターンと年齢差

まず、本調査で行った質問の内容として、

- ・きょうだいパターンの分析
- ・直近きょうだい年齢差の分析

大きく分けるとこの2つである。なお今回の調査では年齢差を分析する手段として、対象者に一番近い年齢のきょうだいとの差を割り出した「直近きょうだい年齢差」を扱った。そこに、きょうだい関係を分析するための新たな視点として

- ・きょうだい間の仲の良さ

を回答してもらい、大学生のリアルな声を聞き出すことにも成功した。この「仲の良さ」という要素を、様々な条件に当てはめてきょうだい関係の真実に迫る分析を行った。

表1 きょうだいパターン

関学生きょうだいパターン(267人)	
2人きょうだい 162人 (60.7%)	男2女0 33人 (12.4%)
	男1女1 81人 (30.3%)
	男0女2 48人 (18.0%)
3人きょうだい 51人 (19.1%)	男3女0 4人 (1.5%)
	男2女1 20人 (7.5%)
	男1女2 21人 (7.9%)
4人きょうだい 5人 (1.9%)	男0女3 6人 (2.2%)
	男3女1 1人 (0.4%) (順番 男男男女)
	男2女2 1人 (0.4%) (順番 男女女男)
一人っ子 49人 (18.4%)	男1女3 3人 (1.1%) (順番 男女女女 2組)(女男男男 1組)
	男女構成 男のみ 37組 (17.0%) 女のみ 54組 (24.8%) 男女混合 127組 (58.3%)

これが、きょうだいパターンについての調査結果表である。分析結果としては、

- ・60%以上が二人きょうだいであり、半分以上を占めている
- ・三人きょうだい以上の割合は20%程度に留まり、一人っ子の数と近い割合である
- ・きょうだいの人数に関わらず、男女混合きょうだいが圧倒的に多いとなる。

表2 直近きょうだい年齢差

直近きょうだい年齢差	
年子 59人 (37.1%)	0歳差 3人 (1.9%)
	1歳差 6人 (3.8%)
	2歳差 50人 (31.4%)
3歳差 42人 (26.4%)	
4歳差以上 58人 (36.5%)	4歳差 35人 (22.0%)
	5歳差 10人 (6.3%)
	6歳差 6人 (3.8%)
	7歳差 2人 (1.3%)
	8歳差 2人 (1.3%)
	9歳差 3人 (1.9%)

これが、直近きょうだい年齢差についての調査結果表である。なお、直近きょうだいを分析するに当たり、独自に「年子」という変数をつくった。今回は、年子の可能性がある一歳差と二歳差のきょうだいをまとめ、ケース数は少なかったが双子のきょうだいも加え、これらを「年子」として扱うことにした。他に、中学生時代や高校生時代に同じカテゴリーを過ごした可能性のある三歳差のきょうだいも、独立した「三歳差」という変数に分けるなど、単純な年齢差に加え成長過程でのカテゴリーのかぶりも考慮した分類となった。

この結果をみると、二歳差から四歳差の間に全体の約80%が集中しており、やはり直近のきょうだいでみると年齢差はさほど離れないことが分かった。これらを、仲の良さと合わせ、どんなパターンのきょうだいが仲良しなのかを分析してみる。

表3 きょうだい男女構成 と きょうだい仲 のクロス表 (二人きょうだい)

			きょうだい仲				合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	4 非常に仲が悪い	
きょうだい男女構成	男のみ	該当者 (人)	17	13	3	0	33
		きょうだい男女構成の%	51.5%	39.4%	9.1%	0.0%	100.0%
	男女混合	該当者 (人)	21	49	10	1	81
		きょうだい男女構成の%	25.9%	60.5%	12.3%	1.2%	100.0%
	女のみ	該当者 (人)	22	20	4	2	48
		きょうだい男女構成の%	45.8%	41.7%	8.3%	4.2%	100.0%
合計		該当者 (人)	60	82	17	3	162
		きょうだい男女構成の%	37.0%	50.6%	10.5%	1.9%	100.0%

p>0.05

まずは二人きょうだいの分析である。気になったのは同性同士のきょうだいの「非常に仲が良い」と回答した比率の高さ。男女混合きょうだいが「どちらかと言えば仲が良い」を多く選ぶ中、同性同士のきょうだいは男女共に「非常に仲が良い」を選んだ人が多数派となった。この結果から、同性同士のきょうだいは男女混合きょうだいと比べて結びつきが強くなる傾向があるのではないかと考えられる。

表4 きょうだい男女構成 と きょうだい仲 のクロス表 (三人きょうだい以上)

			きょうだい仲			合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	
きょうだい男女構成	男のみ	該当者 (人)	2	2	0	4
		きょうだい男女構成の%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	男女混合	該当者 (人)	17	27	2	46
		きょうだい男女構成の%	37.0%	58.7%	4.3%	100.0%
	女のみ	該当者 (人)	1	5	0	6
		きょうだい男女構成の%	16.7%	83.3%	0.0%	100.0%
合計		該当者 (人)	20	34	2	56
		きょうだい男女構成の%	35.7%	60.7%	3.6%	100.0%

p>0.05

続いて三人きょうだい以上の分析である。事例が少ないため一概には言えないが、女性のみのかきょうだいの「非常に仲が良い」と回答した比率が下がっているのが気になる。人数が増えれば、その分一人一人との結びつきは薄いと感じる人が多くなるということなのだろうか。事例数を増やし、二人きょうだいと同ケース数での分析を行ってその真偽に迫ってみたいものである。

表5 年齢差分類 と きょうだい仲 のクロス表

			きょうだい仲				合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	4 非常に仲が悪い	
年齢差分類	年子	該当者 (人)	16	35	7	1	59
		年齢差分類の%	27.1%	59.3%	11.9%	1.7%	100.0%
	三歳差	該当者 (人)	19	17	6	0	42
		年齢差分類の%	45.2%	40.5%	14.3%	0.0%	100.0%
	四歳差以上	該当者 (人)	25	28	3	2	58
		年齢差分類の%	43.1%	48.3%	5.2%	3.4%	100.0%
合計		該当者 (人)	60	80	16	3	159
		年齢差分類の%	37.7%	50.3%	10.1%	1.9%	100.0%

p>0.05

そして年齢差との分析である。こうして見てみると、年子きょうだいは「非常に仲が良い」と答える割合が他に比べると低く、「どちらかと言えば仲が良い」割合が高くなった。そして四歳差以上のきょうだいは「非常に仲が良い」の割合が増え、「仲が悪い」と答えた割合が少なかった。さらに、三歳差のかきょうだいはどちらの特徴にも影響を受けた結果であるように思える。

また、今回の分析は対象者に一番近い年齢のきょうだいに絞って行ったが、その条件を解いて個別に事例を見ていくと最大で13歳差のきょうだい「非常に仲が良い」と答えており、その他にも9歳差や8歳差のあるきょうだいが「非常に仲が良い」と答えているケースがあった。そして、こう答えた対象者は自分が年下の立場であることが多かった。このことから、立場によっても仲の良さのとらえ方に違いが生まれるのかもしれないと考えられるのではないかと。結果的に、年齢差と仲の良さは全く無関係という訳ではないと言えるのではないだろうか。

3. その他の分析

ここでは、上記の分析の他に「夫婦仲」と「一姫二太郎」にスポットを当てて分析してみる。

① 夫婦仲ときょうだい仲

育ってきた家庭環境は、その人の人格形成や人間関係の構築に大きな影響を与える。では、家庭環境はきょうだい仲にも影響を与えるのだろうか。今回は家庭環境を夫婦仲の良さで考え、きょうだい仲との関連性を探ってみることにする。夫婦仲が良い家庭で育ったきょう代はその仲も良くなるのか。

また、夫婦仲が悪い家庭で育ったきょう代はその仲も悪くなるのか。逆にきょうだい間の団結力が強くなるという結果が出るのか。夫婦仲ときょうだい仲のクロス表を出してみる。

表6 夫婦仲 と きょうだい仲 のクロス表

			きょうだい仲				合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	4 非常に仲が悪い	
夫婦仲	1 非常に仲が良い	該当者 (人)	38	24	2	0	64
		夫婦仲 の %	59.4%	37.5%	3.1%	0.0%	100.0%
	2 どちらかと言えば仲が良い	該当者 (人)	25	70	8	0	103
		夫婦仲 の %	24.3%	68.0%	7.8%	0.0%	100.0%
	3 どちらかと言えば仲が悪い	該当者 (人)	8	9	3	0	20
		夫婦仲 の %	40.0%	45.0%	15.0%	0.0%	100.0%
	4 非常に仲が悪い	該当者 (人)	4	10	1	2	17
		夫婦仲 の %	23.5%	58.8%	5.9%	11.8%	100.0%
合計		該当者 (人)	75	113	14	2	204
		夫婦仲 の %	36.8%	55.4%	6.9%	1.0%	100.0%

p>0.05

これを見ると、夫婦仲が良いほどきょうだい仲が悪くなる比率が低くなっていることが分かる。そして、夫婦仲が「非常に良い」と回答した人の約60%がきょうだい仲も「非常に良い」と回答しており、また夫婦仲が「非常に悪い」と回答した人からしか、きょうだい仲が「非常に悪い」と回答する人は出なかった。

以上の分析結果から、夫婦の仲が良い家庭ほどきょうだい間の仲も良くなる傾向があり、夫婦仲は家族と言う単位において、その空気感を左右し、子どもにも影響を与える重要な要素であることが言えるのではないだろうか。

②一姫二太郎

日本では「一姫二太郎」という言葉が存在する。「子を産み育てるには1人目に女の子、2人目に男の子が生まれるのが理想的だ」という意味であり、この考えは多くの人に知られている。では、本当に「一姫

二太郎」は理想的なきょうだい関係なのだろうか。今回は仲の良さという観点から、「一姫二太郎」の現実を探っていきたいと思う。

まず、「一姫二太郎」の定義付けをしておこうと思う。ここでは「きょうだいの中で一番上にあたる人物が女性」かつ「その下の二番目にあたる人物が男性」であれば「一姫二太郎」の条件を満たすものとする。これらを満たす人物のきょうだいパターンとして、まずは二人きょうだいの姉と弟。そして、三人きょうだい以上の第一子であり、第二子に男の子がいる女の子。同様に三人きょうだい以上の第二子であり、第一子に女の子がいる男の子。さらに、三人きょうだい以上の第三子以下であり、第一子に女の子がおり、第二子に男の子がいる人物。この5パターンにあてはまる人物を「一姫二太郎」を持つきょうだいとして定義する。では、「一姫二太郎」に当てはまるきょうだいはどれほど存在したのか。

表7 一姫二太郎に当てはまるか否か

	該当者（人）	有効パーセント（%）
一姫二太郎にあてはまる	45	20.6
一姫二太郎にあてはまらない	173	79.4
合計	218	100.0

この表をきょうだい間の仲の良さとクロスさせ、「一姫二太郎」のきょうだいは本人たちにとって理想的な関係なのかどうか見ていこうと思う。

表8 一姫二太郎に当てはまるか否か と きょうだい仲 のクロス表

			きょうだい仲				合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	4 非常に仲が悪い	
一姫二太郎か否か	一姫二太郎	該当者（人）	11	29	5	0	45
		一姫二太郎か否かの%	24.4%	64.4%	11.1%	0.0%	100.0%
	一姫二太郎ではない	該当者（人）	69	87	14	3	173
		一姫二太郎か否かの%	39.9%	50.3%	8.1%	1.7%	100.0%
合計		該当者（人）	80	116	19	3	218
		一姫二太郎か否かの%	36.7%	53.2%	8.7%	1.4%	100.0%

p>0.05

これを見ると、一姫二太郎とそうでないきょうだいの仲の良さには差があまりなく、むしろ非常に仲が良いと答えた比率は一姫二太郎のきょうだいの方が低い。このことから、一姫二太郎が理想的であると言われているからといって、仲の良さとの関連性はほとんど無さそうである。

では、夫婦仲との関連性はどうかだろうか。元々、親の目線から見て理想的だという意味で使われている「一姫二太郎」。きょうだい仲よりも、より関連性が強いという結果が出るのではないだろうか。

表 9 一姫二太郎に当てはまるか否か と 夫婦仲 のクロス表

			夫婦仲				合計
			1 非常に仲が良い	2 どちらかと言えば仲が良い	3 どちらかと言えば仲が悪い	4 非常に仲が悪い	
一姫二太郎か否か	一姫二太郎	該当者 (人) 一姫二太郎か否かの %	13 30.2%	25 58.1%	2 4.7%	3 7.0%	43 100.0%
	一姫二太郎ではない	該当者 (人) 一姫二太郎か否かの %	51 31.7%	78 48.4%	18 11.2%	14 8.7%	161 100.0%
合計		該当者 (人) 一姫二太郎か否かの %	64 31.4%	103 50.5%	20 9.8%	17 8.3%	204 100.0%

p>0.05

一姫二太郎ではない夫婦の方が、仲が悪いと回答する割合が高くなったが、サンプル数の差もあるためこの結果だけで関連性を明らかにするのは難しいように思える。よってこれらの分析結果から、「一姫二太郎」が理想的であるという理論を否定するつもりはないが、「一姫二太郎は理想的な組み合わせであるから、きょうだい間の仲や夫婦仲も良いものになる」とは言い切れないことが分かった。

4. まとめ

今回の調査では主にきょうだい間の仲の良さに着目して分析した。その結果分かったのは、きょうだい数や親の仲の良さ、年齢差など様々な要素がきょうだい間の仲の良さに影響を与えている可能性は十分にあるのではないかとということである。仲の良さを判断するのはあくまでも個人の主観的な気持ちであるし、家庭環境や成長の過程は人それぞれ違うのだから、一括りにして述べるのは難しいのではないかと考えていたが、数を集めてみると傾向が少しずつ見えてきたので収穫のある調査だったのではないかと思う。

今後はケース数をさらに増やして調査できれば、もっと傾向がはっきりと表れることが期待できるのではないかと考える。また、今回の調査の反省点はきょうだい関係とお金の関連性を分析できなかった点である。これについて分析する意図で Q28 を加えたのだが、回答結果が偏り、分析には使用できなくなってしまった。ここには何か関連性があると考えているので、毎月の携帯料金とは別の、適当な質問をつくれるかが今後に向けての課題である。

関学生の国勢調査回答実態と「従業地・通学地に関する質問」の考察

家高裕史

序 2015年は5年に一度の国勢調査が行われた。今回の国勢調査はどのように行われ、関学生の世帯がそれにどのように回答したのか、2015年11月調査の結果をもとに詳細な分析を行った。

<2015年国勢調査の特徴—史上初のオンライン調査 >

2015年の国勢調査は、質問の内容自体には前回(2010年)の調査から大きな変化がなかったものの、国勢調査としては史上初のオンライン調査(インターネット調査)が行われた。

今回の国勢調査は以下のような手順で行われた。

9月10日から12日	総務省統計局から各世帯にオンライン回答システムのログインに必要な「調査対象者ID」および「パスワード」の配布。調査対象者はこれらが手元に届き次第、オンラインでの回答が可能となった
9月20日	オンライン回答締め切り
10月1日頃	オンラインで回答しなかった世帯にのみ、紙の調査票の配布
10月20日	紙の調査票での回答締め切り

つまり、手順面での特徴として、

- ・オンラインで回答できたのは10日間のみであり、紙の調査票を用いた調査期間とは重複していない
- ・紙の調査票が配布されたのは、オンラインで回答しなかった世帯のみである

この2点に留意して分析を進めることとする。

<関学生の国勢調査回答実態を調査するための質問文>

オンライン調査実施にも留意し、以下のような質問文を作成した

国勢調査に関する質問文まとめ(2015年11月調査より)

項目	質問番号	内容
国勢調査に対する認識	46	国勢調査に対する認知
	47	調査票の認知
実際の回答実態	48	世帯の中での回答者
	49	回答方法
従業地・通学地に関する質問への回答実態	50	従業に関する質問への回答
	51	従業地・通学地に関する質問への回答
	52	アルバイト実情の確認

※質問文の詳細は巻末の単純集計表を参照

1. 国勢調査に対する認識

Q46,Q47は、関学生が国勢調査の実施を知っていたか、調査票を確認したか、という質問である。

①2015年の国勢調査実施を知っていたか？(Q46)

はい **70.9%(190)** いいえ **27.2%(73)** NA(5)

②調査票には目を通したか？(国勢調査実施を知っていた人のみ回答)(Q47)

1.インターネット調査票のみ **15.8%(30)** 2.紙の調査票のみ **24.2%(46)** 3.両方とも **9.5%(18)**

4.どちらも目を通していないが、調査員が訪問したことは認識している **13.2%(25)**

5.どちらも目を通しておらず、調査員が訪問したことも認識していない **37.4%(71)**

これらは居住形態(実家生 or 下宿生)に大きく影響される。

表1 住形態による国勢調査認知度・調査票認識率の違い (N=268 中、実家生:173 下宿生:90)

	国勢調査実施を知っていた	いずれかの調査票に目を通した
実家生	65.9%(114/173)	31.6%(36/114)
下宿生	85.1%(74/87)	77.0%(57/74)

このように、(ほぼ)一人暮らしの下宿生の方が、国勢調査が実施されたのを認知している人が多く、調査票に実際目を通した人も多い。

2. 実際の回答実態

Q48では、世帯単位の調査である国勢調査に世帯内(家族)の誰が回答したか、またQ49では、今回初めてオンライン調査が行われたことを踏まえ、どのような方法で国勢調査に回答したかを訪ねている。

① 国勢調査には世帯内(家族)の誰が回答したのか？(Q48)

表2 国勢調査回答者(居住形態別)

		国勢調査回答者					合計	
		あなたご自身	同居する父	同居する母	その他の同居人	回答者不明		回答していない
実家生	度数	12	48	68	3	5	36	172
	居住形態の %	7.0%	27.9%	39.5%	1.7%	2.9%	20.9%	100.0%
下宿生	度数	47	2	2	4	4	28	87
	居住形態の %	54.0%	2.3%	2.3%	4.6%	4.6%	32.2%	100.0%
合計	度数	59	50	70	7	9	64	259
	居住形態の %	22.8%	19.3%	27.0%	2.7%	3.5%	24.7%	100.0%

下宿生は「回答していない」の割合が3割を超えている。そして当然ながら、回答している場合は学生自身が回答していることがほとんどである。

一方、実家生は学生自身が答えているケースは稀で、多くは同居する父や母が回答しており、特に母による回答は多くなっている。実家生は国勢調査の認知度が低かったが、「知らぬ間に親が回答してしまう」というのがその大きな理由だろう。また、ここで「回答していない」実家生が全数調査である国勢調査にしては多くなりすぎてしまっている(172人中36人)。Q48の意図としては、「世帯内(家族)の誰も回答していない」ということであったが、「自分(学生自身)が回答していない」と誤解されてしまった可能性がある。この原因については、最後の<質問文の反省>で詳しく述べる。

② 国勢調査にどのような方法(どの調査票)で回答したのか？(Q49)

表3 国勢調査回答方法(居住形態別)

		関学生世帯の国勢調査回答方法			合計
		オンライン	紙調査票	調査員に口頭で	
実家生	度数	59	74	3	136
	居住形態の %	43.4%	54.4%	2.2%	100.0%
下宿生	度数	29	30	0	59
	居住形態の %	49.2%	50.8%	0.0%	100.0%
合計	度数	88	104	3	195
	居住形態の %	45.1%	53.3%	1.5%	100.0%

※回答した人のみ

これは、①の表の「回答していない」人は除外した表である。関学生の世帯でオンライン回答は45%の世帯に用いられた。回答者が大学生、もしくはその親であるため、インターネットを使うことに抵抗の少ない人の多い年齢層であり、オンライン調査は有用なものと言えるだろう。下宿生はもっぱら、若い学生自身が回答しているためか、実家生よりオンラインでの回答率が高い。

また、全国でのオンライン回答の状況は以下ようになっていた。

表 4 全国でのオンライン回答の状況

全体の回答世帯数(a)	オンライン回答世帯数(b)	オンライン回答率(a/b×100%)	スマホ回答世帯数(c)	オンライン回答世帯数のうちのスマホ率(c/b×100%)
53,403,226	19,722,062	36.9%	6,787,545	34.4%

関学生およびその両親には高齢者は少ないため、全国基準と比べると高めのオンライン回答率となった。

③ 国勢調査回答者別の回答方法

表 5 国勢調査回答者別の回答方法（実家生のみ）

回答者		国勢調査回答方法			合計
		オンライン調査票	紙の調査票	調査員に口頭で	
あなたご自身	度数	7	5	0	12
	回答者の%	58.3%	41.7%	0.0%	100.0%
同居する父	度数	24	24	0	48
	回答者の%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
同居する母	度数	26	42	0	68
	回答者の%	38.2%	61.8%	0.0%	100.0%
その他の同居人	度数	2	0	1	3
	回答者の%	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%
合計	度数	59	71	1	131
	回答者の%	45.0%	54.2%	0.8%	100.0%

p<0.05

①、②の結果を踏まえ、国勢調査回答者別の回答方法を見ていく。なおここで扱うのは、同居する家族の回答する可能性の高い実家生のみとする。

「年齢の若い、学生自身が回答する場合は、親が回答する場合よりオンライン回答率が高い」ということは十分想定され、実際その通りの結果にはなっている。しかし、回答者が「親」の場合でも、「父親」と「母親」で差が出ており、「母親」は紙の調査票での回答が多い。この理由は定かではないが、以下のような事例が想定される。

家族一人一人が多忙で、オンライン回答締め切りに間に合わなかった

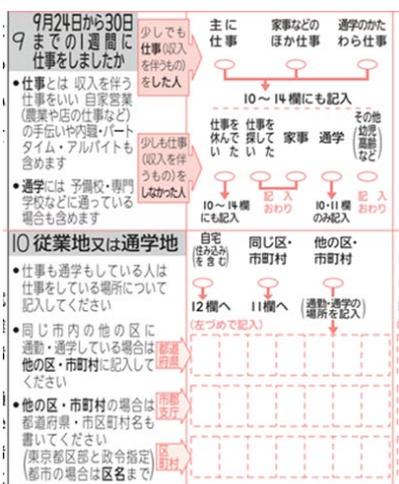
⇒紙の調査票で回答することになった

⇒比較的、在宅時間の長い「母親」が回答することになった。

今回は質問不足でこの仮説の真偽を見出すことはできない。次回の調査への改善点は、最後の「反省」で詳しく語ることにする。

3. 「従業地・通学地に関する質問」への回答実態

画像 1 国勢調査・調査票の従業地・通学地に関する質問部分



※平成 22 年国勢調査の調査票から抜粋。
平成 27 年分はネット未公開

国勢調査では、「昼間人口」「通勤・通学率」の計測という目的で毎回、画像 1 のような「従業地・通学地に関する質問」が行われている。

※これらの質問から計測されるもの

A市からB市への通勤・通学率=A市からB市
への通勤・通学者/A市の就業・通学者

昼間人口=夜間人口（常住人口）－流出人口＋流入人口

これらの数字は、公的機関の「都市圏」の定義に用いられ、政策など様々な場面に登場することになる。

例1：総務省の規定する「都市圏」

国勢調査において定義している統計上の地域区分である。中心市への通勤・通学比率が1.5%以上の周辺自治体を圏域とする。

例2：国土交通省の規定する「都市圏」

交通網整備などの政策に用いられる。基準となる通勤・通学率は5%である。

すなわち、これらの数字が正しく計測できているか否かは、国の政策について考える上で大変重要であると考えられる。

<国勢調査の「従業地および通学地に関する質問」の特徴と問題点>

- ① 「仕事」に「パート」および「アルバイト」を含んでいる。
- ② 画像の質問10に、「仕事も通学もしている人は仕事をしている場所について記入してください」とある。アルバイトをしている学生には、通学地を答えさせず、アルバイト先の所在地を答えさせている。つまり、国勢調査において想定されている「正しい回答」は・・・

アルバイトをしている場合・・・「仕事 or 通学」の質問には「通学のかたわら仕事」
「従業地・通学地」の質問には「アルバイト先のある市町村」

アルバイトをしていない場合・・・「仕事 or 通学」の質問には「通学」
「従業地・通学地」の質問には「学校のある市町村」

例1:関西学院大学（西宮市）に通い大阪市でアルバイトをしている人は「通学のかたわら仕事」「大阪市」

例2:関西学院大学（西宮市）に通いアルバイトをしていない人は「通学」「西宮市」

よって、これらの組み合わせ以外で回答した場合は「誤っている」ということになる。

これらの質問の問題点は・・・

- ①について・・・「パート」「アルバイト」を「仕事」と見なすことに違和感があり、「アルバイトをしている学生」でも「通学」と回答してしまうのではないか
- ②について・・・アルバイトをしているとはいえ、「学生」は「学生」である。本分と言える、通学先の所在地を直感的に回答してしまうケースも多いのではないか？

<従業地・通学地に関する質問に対する回答実態 >

①国勢調査の「調査直前の1週間に仕事をしましたか？」という質問にどう回答したか？（Q50）

1.通学 59.2%(116) 2.通学のかたわら仕事 40.8%(80) NA(5)

②国勢調査の「従業地又は通学地」の項目にどのように回答したか？（Q51）

1.アルバイト先の住所を正確に記入した 23.4%(36)

2.通学地である「西宮市」を回答した 76.6%(118) NA(47)

③国勢調査の直前1週間に実際にアルバイトをしていたか？（Q52）

はい 70.3%(137) いいえ 29.7%(58) NA(6)

2015年11月調査の結果はこのようになった。ここで、先述した「正しい」か「誤っている」かを確かめるために、「Q50の結果とQ52の結果」および「Q51の結果とQ52の結果」のクロス集計を行う。

表 6 国勢調査直前1週間のアルバイト有無と実際の国勢調査への回答①

		「国勢調査直前1週間」は 仕事or通学		合計
		通学	通学のかたわ ら仕事	
国勢調査直 前の1週間に アルバイト	あり	度数 62 46.6%	77 53.4%	133 100.0%
	なし	度数 48 85.7%	8 14.3%	56 100.0%
合計		度数 110 58.2%	79 41.8%	189 100.0%

表 7 国勢調査直前1週間のアルバイト有無と実際の国勢調査への回答②

		「従業地又は通学地」の回答		合計
		バイト先住所	通学地（西宮市）	
国勢調査 直前の1週 間にアル バイト	あり	度数 29 25.9%	83 74.1%	112 100.0%
	なし	度数 7 17.9%	32 82.1%	39 100.0%
合計		度数 36 23.8%	115 76.2%	151 100.0%

従業地・通学地に関する質問に対し、総務省統計局が想定したように「正しく」回答できている人の数は、上の2つの表の太字イタリックになっている部分である。

①に関しては、アルバイトをしていなかった学生の世帯はおおむね「正しく」回答しているが、アルバイトをしていた学生の世帯は半数近くの人が「誤って」回答していることとなる。②に関しては、アルバイトをしていた場合はさらに「誤って」回答している人が多く、実に全体の4分の3が「誤って」回答しているのだ。

表 8 国勢調査質問の正誤組み合わせ・クロス集計表

			「従業地・通学地」の回答		合計
			正	誤	
「国勢調査 直前1週間 は仕事or通 学」の回答	正	度数 51	50	101	
		総和の% 34.2%	33.6%	67.8%	
	誤	度数 10	38	48	
		総和の% 6.7%	25.5%	32.2%	
合計		度数 61	88	149	
		総和の% 40.9%	59.1%	100.0%	

次に、実際の国勢調査への回答①、②が「正しかった」か「誤っていた」かで再度コーディングを行い、クロス集計をした。両方とも「正しかった」人の割合を知るために、この表はあえて行ではなく全体を100%としている。そうすると、両方共「正しく」回答した人は、国勢調査に回答した人全体のわずか**3分の1**ほど（太字イタリックの数字）であることがわかった。

<これらの質問で「昼間人口の計測」というのは果たせているのか？>

以上のように、国勢調査の「従業地・通学地に関する質問」は非常に多くの回答者の誤解を生み、その結果には無視できない誤差が生じていると見てよい。

また、昼間人口の定義に則れば、画像1の質問10「従業地又は通学地」の欄の回答が、回答者が「昼間」に滞在する市区町村ということになる。つまり、大学生の回答者がここでアルバイト先の住所を答えてしまうと、「昼間は大学に行っている」という実態があっても、アルバイト先の市区町村の昼間人口に数えられることになってしまうのだ。このことにも、大きな違和感があると言って良い。

これらのことから、「学生には通学先として学校のある市町村を回答してもらうことで統一するほうがよい」ということはわかった。しかし、本来「西宮市の昼間人口」とされるべき人口（＝西宮市の学校に通う人口）がどれほど他の市町村（アルバイト先）の昼間人口として計上されているのか、ということ进行分析するためには質問文が不足していると言える。

<質問文の反省>

ここでは、質問文作成の段階では判明しなかったが、論文を執筆する過程で初めて気づいた問題点について考えていく。

①非常に多い「回答していない」

表2で、実家生の「(世帯として) 国勢調査に回答していない」率が(下宿生より低いとはいえ)非常に高いもの(20.9%)となってしまうている。参考までに、平成17年国勢調査の未回収率を挙げると、全国で4.4%、政令指定都市の存在する都道府県で5.6%となっている。つまり、20.9%という「回答していない」の割合は異常に高い数字であり、全数調査である国勢調査に対し、このような未回答率を記録することはありえないと言える。なぜこのようなことが起こってしまったのか？

② オンライン調査について細かい分析ができなかった

オンライン調査がどの程度用いられたかはわかったが、今後の展望や、母親のオンライン回答率が低い原因について分析できなかった。

③ 「学生には従業地としてアルバイト先を答えさせるのではなく、通学先として学校の所在地を答えさせるべきだ」という主張には行きついたものの、

①の原因：Q48が結果としてダブルバーレル質問になってしまっていた

そもそも、質問48は何のために作られた質問なのか？

目的1 実家生の世帯での国勢調査回答者を調べるため

目的2 下宿生と実家生の国勢調査回答率の違いを調べるため

このように2つの論点が混在した、いわゆる「ダブルバーレル質問」となってしまっていることが大きな原因だろう。実家生用の質問として「誰が国勢調査に答えたのか」ということのみ注目した質問と、下宿生の「(本人が) 回答したのか否か」ということのみを焦点とする質問とを、別々に作成する必要があったということである。家族が回答する可能性がある実家生世帯と、その可能性のほぼない下宿生世帯の事実を1つの質問で聞こうとしたのが大きな間違いであると言える。

解決策としては、以下の2つの質問に分けるべきであったらう。

・実家生の方にお聞きします。あなたのご世帯では、どなたが国勢調査に回答されましたか？
1.同居する父 2.同居する母 3.同居するその他家族

・下宿生の方にお聞きします。国勢調査には回答されましたか？
1.はい 2.いいえ

②の原因：回答媒体に関する質問を入れなかったこと

今回の調査では、ネット調査で一括して質問をし、回答媒体に関する質問を入れなかったが、今後のオンライン調査の展望を考える上で必要であったように思う。大谷ゼミでは、2014年12月調査で関学生のスマートフォン所持率を、また、2015年12月調査では、両親のスマートフォン所持率を調査している。

その結果、学生は99%が、両親に関しては父・母とも78%がスマートフォンを所持していることがわかっている。今後、スマートフォンは成人層には完全に普及していくことになるだろうが、それとともにオンライン回答率が上昇するかどうかについて考えることができたらう。具体的に言えば、以下のような質問を設けたほうがよかっただらう。

オンラインで回答された方の方に伺います。PCとスマートフォンどちらを用いて回答されましたか？

また、それと関連して、以下のような家族に関することも尋ねるべきであったと思う。

a 学生の両親の年齢

b 両親の在宅時間に関する質問

aに関しては、回答方法に関する年齢層での分布を見ることができただろう。年齢層によってスマートフォン所持率は変わると考えられ、今後のオンライン回答の展望に関して更なる分析が可能になったように思う。

bに関しては、「母親が国勢調査に答えることが多く、また紙の調査票で答える割合が比較的高い」ことの原因を探る上で重要となってきただろう。父親と母親、どちらの在宅時間が長いのかということがわからなければ、詳細な分析ができない。今回は「母親の関学生は裕福な家庭が多く、共働きもさほど多くないかもしれないが、自営業などで父親の在宅時間が長いケースなどは十分想定される。「母親は比較的家に多い」という推測の域を出ない分析を行うはめになってしまったことは反省しなければならない。以下のような質問を設けたほうがよかっただろう

実家生の方にお聞きします。あなたのご両親の平日（仕事のある日）の在宅時間は何時間ですか？
父親・母親についてそれぞれお答えください。 父親（ ）時間 母親（ ）時間

③の原因：国勢調査直前1週間時点でのアルバイト先を訪ねなかったこと

11月の調査時点でのアルバイト先は尋ねているが、国勢調査の対象となる時期のアルバイト先は尋ねていなかった。その部分の情報が欠落し、分析が中途半端なものとなってしまった。

国勢調査直前の1週間にアルバイトをされていた方のみお答えください。そのアルバイト先の最寄り駅はどちらでしたか？複数のアルバイトをされていた方は、その一週間で、最も行く機会の多かったアルバイト先についてお答えください。

結論としては、国勢調査のように「家族」に深く関わる分野に関する調査票を作成する場合は以下の2点に留意する必要がある。

- ・実家生と下宿生の場合分けをしっかりと行うこと
- ・家族の情報をきちんと把握すること

また、アルバイトについて扱う以上、そのアルバイトをしていた場所の情報は大変重要であり、質問すべきであった。

質問文を作成する際には、最終的に必要となる情報を熟慮することが必要であることがわかった。

参考文献

関西学院大学社会学部大谷研究室，2004 『国勢調査の多角的分析-日本最大の全数調査の実態と問題点-』.

総務省統計局，2015，『平成27年国勢調査におけるオンライン調査の実施状況』

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/houdou/pdf/20150925.pdf> ，2015年11月30日にアクセス).

総務省統計局，2006，『平成17年国勢調査の聞き取り調査等の状況及び「国勢調査の実施に関する有識者懇談会」における検討状況』

(<http://www.stat.go.jp/info/kenkyu/kokusei/houdou2.htm> ，2015年12月20日にアクセス).

総務省統計局，2011，『平成22年国勢調査・調査票』

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/pdf/chouhyou.pdf> ，2015年10月28日にアクセス).

国土交通省，2005，『都市・地域レポート2005』

(<http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/04/040726.html> ，2015年11月29日にアクセス).

朝日新聞，2016年2月27日，東京朝刊，『国勢調査：初の人口減 「1億総活躍」重要課題に 自民幹部「妙案ない」』

大学生の生活行動は17年間でいかに変化したか?

山本航平

はじめに

私は、卒論では「部・サークル所属と生活時間」をテーマとしたが、本報告書では17年前の5大学調査と2015年調査の比較を整理してまとめていく。

以下に、5大学調査と今調査で比較可能な質問文の項目を挙げていく。

- ・属性(性別・学年・出身地・自宅・通学時間)
- ・授業関連(出席率・成績(※1))
- ・部・サークル所属状況(加入率、種類別)
- ・バイト実施状況
- ・生活重点
- ・夫婦仲

(※1 成績については、優(A)がどれくらい多かったか、で判断する。)

分析

以下、表中の実数の下の()内は、割合(%)を示す。

① 属性的特徴

	学年						性別		
	1年	2年	3年	4年	その他	計	男	女	計
5大学調査時	0 (0.0)	200 (64.9)	74 (24.0)	34 (11.0)	(該当の選 択肢無し)	309 (100.0)	127 (41.1)	182 (58.9)	309 (100.0)
2015年調査時	125 (46.8)	78 (29.2)	42 (15.7)	20 (7.5)	2 (0.7)	267 (100.0)	113 (42.2)	155 (57.8)	268 (100.0)

	現住都道府県							居住形態			通学 所要 時間
	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	計	自宅	下宿	計	平均 分
5大学調査時	1 (0.3)	7 (2.3)	104 (33.8)	179 (58.1)	15 (4.9)	2 (0.6)	308 (100.0)	200 (64.9)	108 (35.1)	308 (100.0)	63.1
2015年調査時	1 (0.4)	7 (2.6)	77 (28.8)	172 (64.2)	9 (3.4)	1 (0.4)	267 (100.0)	173 (65.8)	90 (34.2)	263 (100.0)	59.7

- ・ほとんどの項目で、15年前と大きな変化はない。
- ・実家については、近畿圏の比重が減り、様々なところからこの大学来るようになったのが分かる。
- ・学年については、5大学調査当時は、調査を行った授業が、1年生は履修不可だった可能性がある。

②授業関連

	授業出席率					成績 (A(優)以上の数)				
	よく出席	ややよく出席	あまり出席せず	ほぼ出席せず	計	ほとんどA(優)以上	A(優)以上が多い	A(優)以上は少ない	ほとんどA(優)以上はない	計
5大学調査時	92 (29.9)	119 (38.6)	65 (21.1)	32 (10.4)	308 (100.0)	17 (29.9)	103 (38.6)	133 (21.1)	55 (10.4)	308 (100.0)
2015年調査時	175 (66.3)	65 (24.6)	20 (7.6)	4 (1.5)	264 (100.0)	49 (18.6)	109 (41.3)	79 (29.9)	27 (10.2)	264 (100.0)

- ・出席率は飛躍的に向上している。所謂「出席点」を与える授業の増加が理由と思われる。
- ・ただし、成績の方は大きな変化はなく、出席率との関係は見られない。

③部・サークル所属状況

	部・サークル加入率			部・サークル種類						活動日数
	している	していない	計	体育系部活	体育系サークル	文化系部活	文化系サークル	学外活動等	計	日数
5大学調査時	185 (59.9)	124 (40.1)	309 (100.0)	40 (21.6)	63 (34.1)	49 (26.5)	33 (17.8)	(該当の選択肢無し)	185 (100.0)	11.6/月
2015年調査時	218 (82.9)	45 (17.1)	263 (100.0)	37 (16.9)	114 (52.1)	25 (11.4)	35 (16.0)	8 (3.7)	219 (100.0)	2.3/週

- ・部・サークルへの所属率は飛躍的に上昇している。理由としては、SNSの普及により、つながりを持つ

	実家都道府県							
	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	その他	計
5大学調査時	3 (1.0)	13 (4.2)	91 (29.6)	89 (29.0)	16 (5.2)	7 (2.3)	88 (28.7)	307 (100.0)
2015年調査時								
	2 (1.2)	5 (3.0)	37 (22.4)	42 (25.4)	3 (1.8)	3 (1.8)	73 (44.2)	165 (100.0)

ことが容易になった反面、孤独への不安が増していることが挙げられる。
・その中でも体育系サークルへの所属率は過半数を占めている。理由としては、スポーツ推薦入試の充実により、スポーツ推薦入試以外の入学者が体育系部活を避けていることが挙げられる。

サークルへの所属率は過半数を占めている。理由としては、スポーツ推薦入試の充実により、スポーツ推薦入試以外の入学者が体育系部活を避けていることが挙げられる。

④バイトについて

	バイト実施率			バイト実施時間
	している	していない	計	週平均時間
5 大学調査時	244 (79.3)	64 (20.7)	308 (100.0)	16.8
2015 年調査時	209 (79.2)	55 (20.8)	264 (100.0)	15.7

・バイトの実施状況について、ほとんど変化はない。

⑤生活重点

大学生活において、どのような活動に重点を置いて行動しているか、を調べた項目である。

	生活重点							
	ゼミ・授業	部・サークル	自分の趣味	アルバイト	恋愛	その他	特にな い	計
5 大学調査時	39 (12.7)	100 (32.6)	66 (21.5)	35 (11.4)	20 (6.5)	14 (4.6)	33 (10.7)	307 (100.0)
2015 年調査時	52 (19.7)	96 (36.4)	43 (16.3)	24 (9.1)	10 (3.8)	12 (4.5)	27 (10.2)	264 (100.0)

・ゼミ・授業が増増加。出席率の上昇と関連して、勉強面を意識する学生が増加したと考えられる。
 ・部・サークルと答える人も増えた。加入率の上昇と関連して、部・サークルによるつながりや活動を求めている人が増加している、と考えられる。

⑥夫婦仲

	夫婦仲				
	非常によ い	どちらかとい えばよい	どちらかといえ ば悪い	非常に悪い	計
5 大学調査時	93 (30.4)	160 (52.3)	42 (13.7)	11 (3.6)	306 (100.0)
2015 年調査時	76 (31.1)	126 (51.6)	24 (9.8)	18 (7.4)	244 (100.0)

・夫婦仲については、ほとんど変化がない。

まとめ

・何かしらに所属する学生が増えた。・学生の授業出席率が向上。
 ・以上の点以外では、17年前の学生から大きな変化はあまりない。
 ここからわかることは、17年前の学生と比較して、今の学生は「大学内」での活動に力を入れて生活を送っていることが挙げられる。また、部活動の加入率が下がり、サークルへの加入率が飛躍的に向上していることから「ゆるく、楽しく」という気持ちを持った学生が多いことが示唆される。

最後に

17年という長い時間で見ても、学生の生活時間、学生像は大きくは変わらない、ということが分かった。一方、SNSの普及による部・サークルへの所属率の向上などから、時代による学生像の変遷を見ることもできた。

今後は、共通する選択肢を増やしたうえで、継続して調査を行うことが必要であると思う。時代の変化を見る、という側面では、どの時代でも使える調査票の作成と共に、時代によって追加した質問や削除した質問などもまとめると、時代の流れを表す資料になりえるのでは、と私は思った。

今後、このテーマでの調査を志す学生に、以上のことを期待して締めくくりたい。

分析のためのアフターコーディングと調査過程について

西岡 賢亮

序

私たちはゼミ全体として、主に「内閣府世論調査」の問題点を指摘し、改善することを目標としてきた。「普遍的」「リアリティ」をキーワードに、大学生を対象にした「2014年12月調査」「2015年7月調査」「2015年11月調査」という三度の調査を実施し、政策立案を後押しするような調査票作成に取り組んできた。

本論文では、調査項目「フェイスシート」について、また全体の調査方法や分析方法、アフターコーディング、今後の課題について論を展開していく。

1 フェイスシートの作成

フェイスシートは、調査対象となる人の性別や年齢といったプロフィール情報を聞くための質問である。私たちは、回収後のデータ整理を容易にし、回答者を特定の属性に分けるため、最寄り駅の場所や通学時間、居住形態などの質問を取り入れた。（調査票の全容は巻末に掲載されてある。）

<ワーディングの重要性>

質問文に回答者の誤解を招くような言葉を使っていないか、知識の有無を前提とした質問をしていないかなど、ワーディング次第で回答結果は変わり得る。

ワーディングの重要性は、どの質問文にも共通して言えることである。だからこそ、ワーディングには十分に気を遣い、吟味を重ねる必要がある。

以下、上記の内容を踏まえた「最寄り駅」についての質問である。

2014年 12月調査

F3. 現在の居住地についてお答えください

(2) 最寄り駅 () 線 () 駅

2015年 7月調査

質問5 現在の居住地の最寄り駅を、「〇〇線〇〇駅」という形でお答えください。

() 線 () 駅

2015年 11月調査

質問6 現在の居住地の最寄り駅の、鉄道会社名と駅名をお答え下さい。

会社名 () () 駅

過去二度の質問では「〇〇線〇〇駅」と聞いていたが、11月調査では、「鉄道会社名と駅名」という聞き方に変更した。集計時に活用する駅コード表（第2章で言及）では、駅を鉄道会社ごとでまとめているため、「〇〇線〇〇駅」という聞き方では、駅名を探すことに時間がかかるという問題があった。これを解消すべく、ワーディングの変更を行った。結果的に、集計の時間は短縮され、作業効率の上昇に繋がった。

2 駅コード表

駅名で答える質問が多かった私たちの調査は、その結果をSPSSに入力する作業にどうしても時間を割かなければならなかった。入力にあたり、私たちは先代の駅コード表を利用することにした。（駅コード表の全容は巻末DVDに掲載されてある。）

<駅コード表の改訂> 次ページ 2014年12月、2015年7月調査 駅コード表一部抜粋。

JR					
相生	あいおい	兵庫県相生市本郷町	JR山陽本線	.01470	.077
相生	あいおい	兵庫県相生市本郷町	JR赤穂線	.01486	.077
相賀	あいが	三重県北牟婁郡海山町字相賀	JR紀勢本線	.01125	.419
相野	あいの	兵庫県三田市下相野	JR宝塚線	.01601	115
藍本	あimoto	兵庫県三田市藍本	JR宝塚線	.01602	115
粟生	あお	兵庫県小野市粟生町	JR加古川線	.01414	.097
青倉	あおくら	兵庫県朝来郡朝来町物部	JR播但線	.01444	.081
青野ヶ原	あおのがはら	兵庫県小野市復井町	JR加古川線	.01416	.097
明石	あかし	兵庫県明石市大明石町1	JR山陽本線	.01456	.079
明石	あかし	兵庫県明石市大明石町1	JR神戸線	.01529	.079
英賀保	あがほ	兵庫県姫路市飾磨区山崎	JR山陽本線	.01467	143
阿漕	あこぎ	三重県津市西阿漕町	JR紀勢本線	.01106	.401
阿漕	あこぎ	三重県津市西阿漕町	JR参宮線	.01150	.401
浅香	あさか	大阪府堺市浅香山町3丁	JR阪和線	.01241	.039
朝霧	あさぎり	兵庫県明石市大蔵谷字狩口	JR神戸線	.01528	.079
朝日	あさひ	三重県三重郡朝日町柿	JR関西本線	.01070	.359
安治川口	あじかわぐち	大阪府大阪市此花区島屋6	JR桜島線	.01448	.005
芦原橋	あしはらばし	大阪府大阪市浪速区浪速町東1	JR大阪環状線	.01338	.013
芦屋	あしや	兵庫県芦屋市松戸町	JR東海道本線	.01034	.082
芦屋	あしや	兵庫県芦屋市松戸町	JR神戸線	.01512	.082
安栖里	あせり	京都府船井郡和知町字安栖里	JR山陰本線	.01360	.208
阿曾	あそ	三重県度会郡大宮町大字阿曾	JR紀勢本線	.01118	.374

駅コード表に記載されている「駅コード」「市町村コード」を SPSS に入力すると、その駅名及び市町村名が入力されるようになっている。この表は今後も集計時に役立つものであり積極的に活用していくべきである。そして今回、集計をさらに円滑にするため以下のように駅コード表を改訂した。

2015年11月調査 駅コード表

JR					
相生	あいおい	兵庫県相生市本郷町	JR山陽本線	.01470	.077
相生	あいおい	兵庫県相生市本郷町	JR赤穂線	.01486	.077
相賀	あいが	三重県北牟婁郡海山町字相賀	JR紀勢本線	.01125	.419
相野	あいの	兵庫県三田市下相野	JR宝塚線	.01601	115
藍本	あimoto	兵庫県三田市藍本	JR宝塚線	.01602	115
粟生	あお	兵庫県小野市粟生町	JR加古川線	.01414	.097
青倉	あおくら	兵庫県朝来郡朝来町物部	JR播但線	.01444	.081
青野ヶ原	あおのがはら	兵庫県小野市復井町	JR加古川線	.01416	.097
明石	あかし	兵庫県明石市大明石町1	JR山陽本線	.01456	.079
明石	あかし	兵庫県明石市大明石町1	JR神戸線	.01529	.079
英賀保	あがほ	兵庫県姫路市飾磨区山崎	JR山陽本線	.01467	143

数ある鉄道会社の中から一つの駅を画面のスクロールのみで探すことは、非常に作業効率が悪いので、鉄道会社ごとにシートを分けた。これにより、駅名を探す時間を短縮でき、作業効率の向上へとつながった。

<駅コード、市町村コードの追加>

先代の駅コード表を使用したため、当時存在しなかった駅（新しく造られた駅）、及び市町村は、当然この表には記載されていなかった。そこで調査から得た回答で、既存の駅コード表に記載されていなかった駅、市町村を追加した。今回追加した駅、市町村は以下の通りである。

追加駅名	駅コード	市町村コード
はりま勝原(JR)	1677	143
桂川(JR)	1678	165

摂津市(阪急)	9098	43
和歌山大学前(南海)	7122	356
学研奈良登美ヶ丘(近鉄)	6339	294
彩都西(大阪モノレール)	34003	,029

追加市町村名	市町村コード
奈良県葛城市	423
兵庫県たつの市	424

<場所を駅で捉える>

質問 41 あなたは大学生になってから以下のアウトレットモールに行かれたことがありますか？(以下、質問 47 まで同様の質問です)
『岸和田カンカンベイサイドモール』
はい いいえ
(2015年7月調査より)

上記のようにイオンモール、アウトレットに関する質問で、私たちは施設名を答えてもらう形をとった。他の質問を駅で聞いているため、施設名の場所を駅に変換できるようにしなければならなかった。そこで、以下のように「場所」を「駅」に変換した表を作成した。(表の全容は巻末 DVD に掲載されている。)

イオンモール	最寄り駅
1 草津	JR「南草津」
2 近江八幡ショッピングセンター	JR「近江八幡」
3 京都五条	阪急「西院」
4 KYOTO	「京都」
.....

アウトレット	最寄り駅
101 三井アウトレットパーク大阪鶴見	大阪市営地下鉄「門真南」
102 りんくうプレミアムアウトレット	南海「りんくうタウン」
103 ATC タウンアウトレット MARE	大阪市交通局「トレードセンター前」
104 三井アウトレットパークマリニピア神戸	JR「垂水」
...

今後、買い物行動の調査を行うことがあれば、ぜひ活用していただきたい表である。そして、より効率的な分析作業に役立ててもらいたい。

3. 通学路パターンのコーディング

2014年12月調査

(2) (1)で「1.電車」と答えられた方は、通学定期券の区間をすべてお答えください。()線 ()駅から()線()駅 ()線()駅から()線()駅 ()線()駅から()線()駅

2015年7月調査

質問12質問11で「1.電車」と答えられた方は、通学定期券の区間を「〇〇線〇〇駅から〇〇線〇〇駅」という形ですべてお答えください。(複数定期券をお持ちの場合や連絡定期券の場合は、経由地のわかるように分けてお答えください)

過去二回の調査で、私たちは通学定期区間を質問してきた。多方面の場所から通学してくるため、当然人により通学経路は変わってくる。そこで、多様な通学経路を網羅的にパターン分けし、回収時のデータ整理の一部として、分析に使えるようなコーディングを試みた。以下、通学路パターンを一部抜粋したものである。(通学路パターンの全容は巻末DVDに掲載されている。)

図1

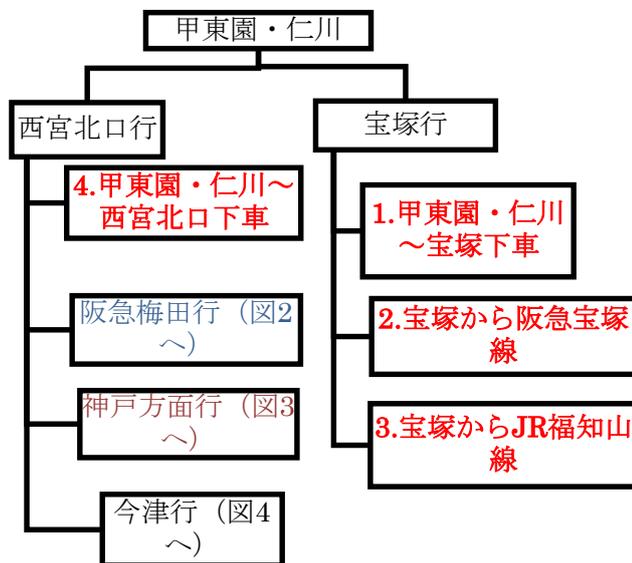
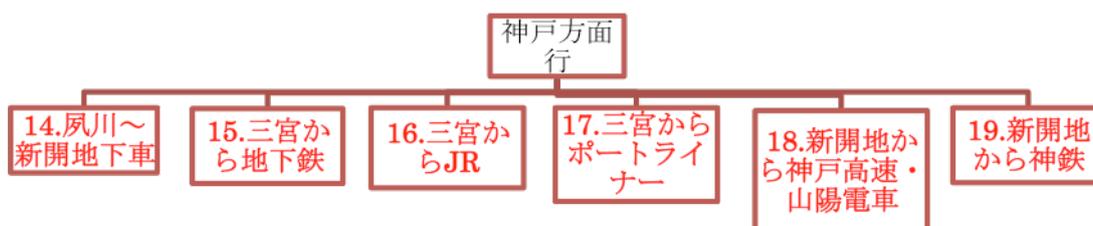


図3



※六甲ライナーは 14 に含む。

(例)

- | |
|---|
| i (阪急神戸) 線 (三宮) 駅から (阪急今津) 線 (甲東園) 駅 |
| ii (JR 神戸) 線 (明石) 駅から (JR 神戸) 線 (三ノ宮) 駅 |

例えば、上記のような通学経路の人がいたとする。まず、i を通学路パターン図 1 に当てはめて考えると、西宮北口行の神戸方面 (図 3 へ) となる。そして ii を図 3 の通学路パターンに当てはめて考えると、「16.三宮から JR」となる。よって、この人の場合の通学路パターンは「16.三宮から JR」である。

<通学路パターン作成にあたっての難点>

関西学院大学における学生の通学経路を網羅的にパターン分けすることに関して、まず「区切りをどうするか」という問題が浮上した。というのも、例えば宝塚線沿線の十三周り・宝塚周りの境界線をどこにするかといったことで吟味しなければならなかったからだ。結果的には、乗り換え時間、乗車時間等を考慮して、宝塚線沿線の十三周り・宝塚周りの境界線は石橋・池田間となった。さらに大阪方面から通学してくる人のパターン分けには苦勞した。複雑で多様な路線をどうパターン分けするか (特に大阪市内から通っている学生のパターン) ということだ。結論としては「梅田から大阪市内 (地下鉄・環状線・東西線経由)」という一括りにして定めた。この選択が最良の方法であったかはわからないが、今後の分析に役立ててもらいたい。そして、より良いものができればと思う。

4. 調査方法と質問文作成

<紙面からネット上の調査へ>

余暇調査、7月調査では調査用紙を用いて回答者に書き込んでもらうという形をとった。しかし、調査票一枚一枚を手作業で SPSS に入力することは多大な労力を要した。そこで 11 月調査は、ネット上での調査を試みることにした。今回の調査では、関学の LUNA のシステムを使い調査を行った。

<LUNA 上での質問文作成>

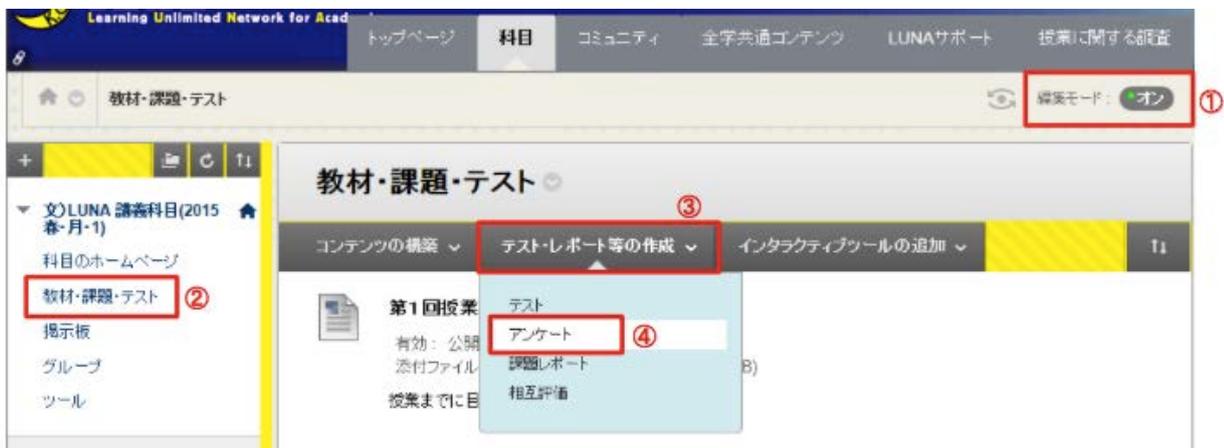
LUNA 上での調査のメリットとして、誰が回答したか分からないことや、集計をスムーズにできるという点がある。反対に、回答者の入力ミスが気付かれずにそのまま反映される可能性があるという危惧もある。システムの向上も求められるが、今後関西学院大学内での調査には LUNA を積極的に活用するべきではないか。今回 LUNA 上での調査を推奨するためマニュアル化を図ることにした。

<質問文作成マニュアル>

手順としては、(1)アンケート用紙を作成(2)アンケート用紙に質問を加える、である。ただし、LUNA の仕様上の制約がいくつかあり、それらの注意点を(3)で述べる。

(1)アンケート用紙を作成

- ① 編集モードをオンであることを確認し、②教材課題テストをクリック。そこから③テスト・レポート等の作成をクリックし、④アンケートを選択。



(2) アンケート用紙に質問を加える

アンケートの作成

アンケートを追加することで、コンテンツエリアにアンケートを導入します。アンケートを導入すると、アンケートオプションを使用して、学生にアンケートを実施できるようになります。 [詳しいヘルプ](#)

取消し 送信

アンケートの追加

[作成]ボタンをクリックして、新しいアンケートを作成します。

新しいアンケートの作成 **作成** ⑤

既存のアンケートの追加 [以下のアンケートを選択](#)

(1)の手順後、⑤新しいアンケートの作成を選択する。

* は必須フィールドを示します。 取消し 送信 ⑨

アンケートの情報

* 名前 ⑥

説明

第1回の授業に関するアンケートを行います。

⑦

パス: p 単語: 1

手順

設問に答えてください。

⑧

⑥アンケート名入力し、⑦⑧注意事項等を記入。

ここまでの、質問文作成の下地、いわゆる土台の部分である。ここから、具体的な質問文を入力することとなる。LUNA で作成できる質問形式は以下の 17 種類である。

2	ファイル応答	11	選択式
3	短答式	12	多肢選択
4	質問文作成	13	評価尺度
5	ホットスポット	14	複数回答
6	マッチング	15	複数穴埋め
7	穴埋め	16	文の並べ替え
8	式計算	17	並べ替え
9	数値計算		

□ 6. 複数穴埋め問題: 現在の居住地の最寄駅をお答えください。 鉄道会社名[x] 駅名[y]

質問 現在の居住地の最寄駅をお答えください。 鉄道会社名[x] 駅名[y]

これは、質問文作成における編集画面の一部である。例えば表の 15.複数穴埋めであれば、上記のように作れば良い。そうすると質問は以下のように表示される。

質問 6

現在の居住地の最寄駅をお答えください。 鉄道会社名 駅名

このように、質問文に合わせた形式を選択し作成すれば、紙を使わずとも容易に調査を行うことが可能である。

(3)LUNA の仕様による注意点

①大問・小問といった、質問の「格差」をつけることができない。そのため、「次の質問を回答する条件に合わない人は Q〇番まで飛ばしてください」という注意書きを質問文に付け足すことになる。

・紙の調査票の場合・・・部活・サークルに関する質問がひとまとめになっているため、「Q〇番まで飛ばしてください」という注意書きは必要ない

Q3. あなたは今年の春学期終了時点で、部活・サークルに加入していましたか？

1. はい () 種類 2. いいえ

(Q3.で「1.はい」と答えた方に伺います)

(1) それは、どのような部活・サークルですか？(加入していたものすべてに○をしてください)

1. 体育会系の部活 2. 文化系の部活 3. 体育会系のサークル

4. 文化系のサークル 5. 学外活動 (ボランティア・他大学のサークル等)

(2) あなたは、加入していたすべての部・サークルの活動にどの程度の時間を費やしていましたか？

今年の春学期中の平均的な週の時間をお答えください。

週 () 日 計 () 時間

(2014年12月調査より)

しかし・・・

・LUNA 調査の場合・・・部活・サークルに関する質問を一つの大問としてひとまとめに

できない。そのため、部活・サークルに加入していなかった人は「Q39へ進むように」という注意書きが必要になる。

Q 35 あなたは春学期終了時点で、部活・サークルに加入していましたか？ (いいえの方は Q 39 へお進みください)
はい いいえ

Q 36 それは、どのような部活・サークルですか？主に活動に参加されていたものを1つだけお答えください。
1. 体育会系の部活 2. 文化系の部活 3. 体育会系のサークル
4. 文化系のサークル 5. 学外活動（ボランティア・他大学のサークル等）

Q37 あなたは、今年の春学期中、一週間のうち平均何日、部・サークル活動に参加されていましたか？加入されていた全ての部・サークルを合計してお答え下さい。(半角数字のみ・小数点可)

Q38 あなたは、今年の春学期中、一週間あたり、トータルで平均何時間、部・サークル活動に参加していましたか？加入されていた全ての部・サークルを合計してお答え下さい。
(2015年11月調査より)

②
LUN

A のシステム上で回答されるため、数字で答える質問の回答は「半角数字」に統一されなければならない。そのための注意書きも必要となる。

Q2 あなたの年齢を、単位をつけずに半角数字のみでお答えください。(以下、数値で答える質問はすべて同様です。「万」「千」なども用いないでください)
(2015年11月調査より)

<LUNA調査の結果をSPSSに入力する手順>

1.はじめに

前提としてまず、エクセルとSPSSと両方にサンプル番号を入力する。単純に上から順番にナンバリングしていくが、その際のナンバリングは手入力で行うこと。

	A	B	C
1	サンプル番号	問題D 1	問題 1
2		1 問題D 1	あなたの
3		2 問題D 1	あなたの
4		3 問題D 1	あなたの
5		4 問題D 1	あなたの
6		5 問題D 1	あなたの
7		6 問題D 1	あなたの
8		7 問題D 1	あなたの
9		8 問題D 1	あなたの
10		9 問題D 1	あなたの
11		10 問題D 1	あなたの

	VAR00001	var
1	1.00	
2	2.00	
3	3.00	
4	4.00	
5	5.00	
6	6.00	
7	7.00	
8	8.00	
9	9.00	
10	10.00	
11	11.00	

次に、変数に名前をつける。

	名前	型	幅	小数桁数
1	VAR00001	数値	8	2
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
..				

名前を「サンプル番号」に変更。

小数桁数もここで変更できる。
(小数桁数が2の場合 1.00,1の場合 1.0 と表示される)

大学生の生活行動に関する調査 (14年12月調査) 単純集計表

2014年12月19日 都市社会学A受講生に実施 **N=191**

※パーセント、および平均値はNA、非該当を除いた数値である

F1. 学年 1. 1年生 **40.1%**(73) 2. 2年生 **36.3%**(66) 3. 3年生 **18.7%**(34) 4. 4年生 **4.4%**(8)
5. その他 **0.5%**(1) **NA**(9)

F2. 性別 1. 男性 **42.8%**(80) 2. 女性 **57.2%**(107) **NA**(4)

F3. 現在の居住地についてお答えください

(1) **現住所** 兵庫県 **66.5%**(127) 大阪府 **30.4%**(58) 京都府 **1.0%**(2) 滋賀県 **0.5%**(1)
奈良県 **1.6%**(3)

(3) 自宅から最寄駅まで(車・自転車・原付・徒歩・バス)で()分程度

交通手段	車	自転車	原付	徒歩	バス	NA	合計
%(票数)	2.2% (4)	30.1% (56)	7.5% (14)	52.2% (97)	8.1% (15)	5	191

所要時間 平均値:**10.0**分 最大値:**30**分 最小値:**0**分 (有効ケース数:180)

(4) 1.自宅(実家) **66.8%**(127) 2.自宅外(下宿) **33.2%**(63) **NA**(1)

(5) で「2.自宅外(下宿)」と答えられた方は、ご実家の住所をお答えください(有効ケース数:63)

兵庫県/広島県/愛媛県 各 **9.5%**(6) 京都府 **7.9%**(5) 和歌山県/愛知県/福岡県 各 **6.3%**(4)

滋賀県/山口県 各 **4.8%**(3) 北海道/静岡県/鳥取県/岡山県/高知県 各 **3.2%**(2)

大阪府/千葉県/東京都/岐阜県/石川県/島根県/香川県/徳島県/佐賀県/長崎県/大分県/宮崎県 各 **1.6%**(1)

F4. 通学手段についてお答えください。

(1) 主な通学手段を**1つだけ**お答えください。

1.電車 **63.7%**(121) 2.バス(甲東園-関西学院前間を除く) **0%**(0) 3.徒歩・自転車 **24.7%**(47)

4.原付・バイク **10.0%**(19) 5.自動車 **1.6%**(3) **NA**(1)

(3) あなたは通学(家から教室まで)にどの程度の時間を見込んでいますか?(片道)()分

平均値:**60.8** 最大値:**150** 最小値:**5** (有効ケース数:163)

Q1. 今年の春学期についてお答えください。

(1) 週何日、何コマ受講されておりましたか? ※コマ数は「18以下」を対象とした (有効ケース数:167)

	平均値	最大値	最小値
週〇日	4.6	6	0
週〇コマ	12.3	15	0

(2) どの程度授業に出席しましたか?

1. よく出席した(75%以上) **73.7%**(140)

2. ややよく出席した(50%~75%) **23.2%**(44)

3. あまり出席していなかった(25~50%) **2.6%**(5)

4. ほとんど出席していなかった(25%以下) **0.5%**(1) **NA**(1)

(3) 学期の総単位数に占めるA (優) 以上の割合はどのくらいですか？

1. ほとんどがA (優) 以上である (75%以上) 19.2%(35)
2. A (優) 以上が多い (50~75%) 38.5%(70)
3. A (優) 以上は少ない (25~50%) 32.4%(59)
4. ほとんどA (優) 以上はない (25%以下) 9.9%(18) NA(9)

Q2. あなたは大学生活においてどのようなことに重点を置いていますか？該当する項目を 1つだけ 選んでください。

1. ゼミや授業に重点をおいた生活 18.3%(34)
2. 部、サークル活動に重点を置いた生活 38.2%(71)
3. 自分の趣味に重点を置いた生活 14.5%(27)
4. アルバイトに重点を置いた生活 12.4%(23)
5. 恋愛関係に重点を置いた生活 0.5%(1)
6. その他の点に重点を置いた生活 2.7%(5)
7. 特に重点は置かない生活 13.4%(25) NA(5)

Q3. あなたは今年の春学期終了時点で、部活・サークルに加入していましたか？

1. はい 79.4%(150) 2. いいえ 20.4%(39) NA(2)

○種類 平均値:1.4 最大値:3 最小値:1 (有効ケース数:111)

(Q3.で「1.はい」と答えた方に伺います)

(1) それは、どのような部活・サークルですか？(加入していたものすべてに○をしてください)

1. 体育会系の部活 23.1%(34) 2. 文化系の部活 15.0%(22) 3. 体育会系のサークル 41.3%(62)
 4. 文化系のサークル 13.3%(20) 5. 学外活動 (ボランティア・他大学のサークル等) 6.0%(9)
- 有効ケース(147) NA(3) ※主と思われるもの一つを分析

(2) あなたは、加入していたすべての部・サークルの活動にどの程度の時間を費やしていましたか？
今年の春学期中の平均的な週の時間をお答えください。

	平均値	最大値	最小値
週○日	2.7	7	0
週○時間	7.8	44	0

(有効ケース数:136)

Q4. あなたは現在アルバイトをしていますか？

1. はい 84.3%(161) 2. いいえ 15.7%(30)

○種類 平均値:1.3 最大値:5 最小値:1 (有効ケース数:127)

(Q4.で「1.はい」と答えた方にお聞きします)

(1) あなたは現在週何日、何時間アルバイトをしていますか？(複数の方は合計で)

	平均値	最大値	最小値
週○日	3.1	6	1
週○時間	15.4	60	2

(有効ケース数:160)

(2) あなたは現在アルバイトで月にどれくらいの収入を得ていますか？(複数の方は合計で)
()万円 平均値:5.4 最大値:11 最小値:1 (有効ケース数:157)

(3) 現在の主たる(複数の方はもっとも収入の多い)アルバイトの職種は以下の分類のいずれかお答えください(有効ケース数:161)

1. Bar/居酒屋 10.6%(17) 2. カフェ 9.3%(15) 3. レストラン等飲食店 24.2%(39)
4. コンビニ 4.3%(7) 5. スーパー 4.3%(7) 6. ドラッグストア 0%(0) 7. 食品販売 6.2%(10)
8. 服飾(洋服・靴など)販売 4.3%(7) 9. 家庭教師 1.9%(3) 10. 塾講師 14.9%(24)
11. 配達(郵便・新聞など) 0.6%(1) 12. 派遣 3.1%(5) 13. 事務 2.5%(4) 14. その他 13.7%(22)

(5) その主たるアルバイト先への通勤手段をお答えください(主なもの一つだけお答えください)

1. 電車 53.8%(86) 2. バス 3.1%(5) 3. 徒歩/自転車 34.4%(55) 4. 原付/バイク 4.4%(7)
5. 自動車 4.4%(7) NA(1)

(6) 現在住んでいるところからそのバイト先までの所要時間をお答えください(片道)()分
平均値:24.6 最大値:120 最小値:0(有効ケース数:155)

Q5. あなたは1日のうちどれくらい寝ていますか?1週間の平日の平均睡眠時間をお答えください
平均値:6時間13分 最大値:10時間 最小値:3時間(有効ケース数:187)

Q6. あなたは1日のうちどれくらいテレビを視聴していますか?1週間の平日の平均視聴時間をお答えください
平均値:1時間39分 最大値:14時間 最小値:0分(有効ケース数:186)

Q7. あなたは以下の機器・端末を持っていますか?

(1) 自分専用のPC (1. 持っている 75.4%(144) 2. 持っていない 24.6%(47))

(2) スマートフォン (1. 持っている 99.0%(189) 2. 持っていない 1.0%(2))

キャリア (1. docomo 30.1%(47) 2. au 40.4%(63) 3. Softbank 28.2%(44)
4. その他 1.1%(2)) 有効ケース(156) NA(33)

(3) ガラケー (1. 持っている 5.4%(10) 2. 持っていない 94.6%(175)) NA(6)

キャリア (1. docomo 50.0%(3) 2. au 16.7%(1) 3. Softbank 0%(0)
4. その他 33.3%(2)) 有効ケース(6) NA(4)

(4) タブレット端末 (1. 持っている 13.1%(25) 2. 持っていない 84.3%(161)) NA(6)

Q8. メール/LINEを除くインターネット利用についてお答えください

(1) あなたは1日のうちインターネットだけを利用している時間はどれくらいですか?
平均値:2時間16分 最大値:14時間 最小値:0分(有効ケース数:183)

(2) PCでインターネットを利用する目的についてお答えください

① ニュースを見る (1. 非常に利用する 2. まあ利用する 3. あまり利用しない 4. まったく利用しない)

(以下、選択肢同様) ② ネットゲーム, ③ SNS利用, ④ 音楽/動画の視聴, ⑤ ネットショッピング, ⑥ 検索

	非常に利用する	まあ利用する	あまり利用しない	全く利用しない	NA	計
ニュース	9.2%(17)	35.1%(65)	34.6%(64)	21.1%(39)	6	191
ネットゲーム	3.3%(6)	9.2%(17)	19.6%(36)	67.9%(125)	7	191
SNS	12.6%(23)	20.8%(38)	29.5%(54)	37.2%(68)	8	191
音楽/動画	39.5%(73)	37.3%(69)	13.0%(24)	10.3%(19)	6	191
ショッピング	8.1%(15)	25.9%(48)	34.1%(63)	31.9%(59)	6	191
検索	47.5%(87)	35.5%(65)	9.3%(17)	7.7%(14)	8	191

① ~⑥のうち、利用頻度の高い順に2つお答えください () ()

	ニュース	ネットゲーム	SNS	音楽/動画	ショッピング	検索	NA	計
1番目	7.7%(13)	1.8%(3)	10.1%(17)	38.7%(65)	5.4%(9)	36.3%(61)	23	191
2番目	10.2%(17)	6.0%(10)	6.0%(11)	29.3%(49)	7.8%(13)	40.7%(68)	24	191

(3) 携帯端末(ガラケー・スマホ等)でインターネットを利用する目的についてお答えください
(この部分は(2)と同様)

	非常に利用する	まあ利用する	あまり利用しない	全く利用しない	NA	計
ニュース	24.3%(44)	41.4%(75)	29.8%(54)	4.4%(8)	10	191
ネットゲーム	18.3%(33)	28.9%(53)	24.4%(45)	28.3%(52)	11	191
SNS	79.4%(143)	13.3%(24)	5.0%(9)	2.2%(4)	11	191
音楽/動画	44.2%(80)	38.7%(70)	12.2%(22)	5.0%(9)	10	191
ショッピング	9.9%(18)	26.0%(47)	31.5%(57)	32.6%(59)	10	191
検索	62.0%(111)	33.5%(60)	2.2%(4)	2.2%(4)	12	191

① ~⑥のうち、利用頻度の高い順に2つお答えください () ()

	ニュース	ネットゲーム	SNS	音楽/動画	ショッピング	検索	NA	計
1番目	7.8%(14)	5.6%(10)	66.1%(119)	9.4%(17)	1.1%(2)	10.0%(18)	11	191
2番目	9.4%(17)	8.3%(15)	11.7%(21)	27.8%(50)	1.1%(2)	41.7%(75)	11	191

Q8. あなたの日頃の買い物行動について伺います

あなたが最もよく行く百貨店はどこですか？

※定期券を持っていない人は除外

() () 店 回答例(阪神百貨店) (梅田本店)

最寄駅 () 線 () 駅

- ・阪急百貨店(梅田) 24.9%(42) ・阪急百貨店(西宮北口) 22.5%(38) ・大丸(神戸) 8.3%(14)
- ・阪神百貨店(梅田) 4.7%(8) ・高島屋(なんば) 4.1%(7) ・大丸(心斎橋) 3.0%(5)
- ・そごう(神戸) /近鉄百貨店(あべの橋/天王寺) 各 2.4%(4) ・京阪百貨店(京橋) 1.2%(2)
- ・その他 26.6%(45) NA(13)

最もよく行く百貨店は・・・定期券内:59.0%(59) 定期券外:41.0%(41) (有効ケース数:100)

Q9. 今年の前期(4月1日~9月30日)のあなたの趣味・娯楽活動について伺います

なお、各質問の「最も多く行った場所」が確定できない場合は「最近行った場所」をお答えください

(1) 映画を見に行きましたか？ (有効ケース数:106)

1.行った 61.4%(113) 2.行かなかった 38.6%(71) NA(7)

○回 平均値:2.6 最大値:10 最小値:1 (有効ケース数:104)

- ・東宝シネマズ(ガーデンズ) 38.7%(41) ・東宝シネマズ(梅田) 17.0%(18)
- ・OSシネマズ(ミント神戸) 13.2%(14) ・オーサカステーションズシネマ 11.3%(12)
- (以下、割愛)

(2) スポーツ観戦に行きましたか？

1.行った 34.1%(62) 2.行かなかった 65.9%(120) NA(9)

○回 平均値:4.6 最大値:30 最小値:1 (有効ケース数:56)

- (3) コンサート・ライブに行きましたか？
 1. 行った **33.7%**(61) 2. 行かなかった **66.3%**(120) NA(10)
 ○回 平均値:**2.8** 最大値:**12** 最小値:**1** (有効ケース数:56)
- (4) カラオケに行きましたか？
 1. 行った **70.5%**(129) 2. 行かなかった **29.5%**(54) NA(8)
 ○回 平均値:**5.6** 最大値:**50** 最小値:**1** (有効ケース数:119)
- (5) ボウリングに行きましたか？
 1. 行った **39.5%**(60) 2. 行かなかった **60.5%**(92) NA(3) ※未入力ケース(36)
 ○回 平均値:**2.6** 最大値:**15** 最小値:**1** (有効ケース数:55)
- (6) テーマパークへ行きましたか？
 1. 行った **56.5%**(108) 2. 行かなかった **41.3%**(76) NA(7)
 ○回 平均値:**2.9** 最大値:**12** 最小値:**1** (有効ケース数:97)
- (7) 単行本 (漫画および雑誌を除く) を読みましたか？
 1. 読んだ **52.2%**(95) 2. 読まなかった **47.8%**(87) NA(9)
 ○冊 平均値:**6.8** 最大値:**60** 最小値:**1** (有効ケース数:83)
- (8) 漫画単行本 (雑誌は除く) を読みましたか？
 1. 読んだ **54.9%**(100) 2. 読まなかった **45.1%**(82)
 ○回 平均値:**30.4** 最大値:**200** 最小値:**1** (有効ケース数:81)

Q.10 夏期休暇中 (7/25～9/25) の旅行についてお答えください

- (1) 国内旅行 (合宿等は除く) に行きましたか？
 1. 行った **56.8%**(104) 2. 行かなかった **43.2%**(79) NA(8)
 平均値:**1.7** 回 計 **3.0** 泊 (有効ケース数:97)
- (2) 海外旅行 (合宿は除く/留学は含む) に行きましたか？ NA(12)
 1. 行った **10.6%**(19) 2. 行かなかった **89.4%**(160)
 平均値:**1.1** 回 計 **9.5** 泊 (有効ケース数:13)
- (3) 帰省しましたか？ ※下宿生のみで算出
 1. した **91.4%**(53) 2. しなかった **8.6%**(5) NA(5)
 平均値:**1.8** 回 計 **8.2** 泊 (有効ケース数:46)
- (4) 部活/サークル合宿に行きましたか？ ※部活/サークル加入者のみで算出
 1. 行った **69.2%**(99) 2. 行かなかった **30.8%**(44) NA(7)
 平均値:**1.5** 回 計 **5.3** 泊 (有効ケース数:65)
- (5) ゼミ合宿に行きましたか？ ※3,4 回生のみで算出
 1. 行った **56.1%**(23) 2. 行かなかった **43.9%**(18) NA(1)
 平均値:**1.1** 回 計 **2.3** 泊 (有効ケース数:12)

Q.11 自動車の利用状況についてお聞きします

- (1) あなたは運転免許証をお持ちですか？
 (1. はい **44.3%**(81) 2. いいえ **55.7%**(102)) NA(8)
- (2) 自動車の所持状況について以下から一つ選んでお答えください
 1. 自分の車を持っている **4.1%**(6) 2. 持っていないが家族の車を借りられる **53.4%**(79)
 3. 持っていない **42.6%**(63) NA(43)
- (3) 今年の4月～9月に日帰りのドライブに行きましたか？
 1. 行った **34.4%**(55) 2. 行かなかった **65.6%**(105) NA(31)
 ○回 平均値:**30.4** 最大値:**200** 最小値:**1** (有効ケース数:81)

Q.12 あなたには現在、恋人がいますか？

1. はい **41.3%**(74) 2. いいえ **58.7%**(105) NA(12)

大学生の生活行動に関する調査 (15年7月調査) 単純集計表

2015年7月15日 LUNA 締切 社会調査論A・都市社会学B受講生

N=387

※パーセントおよび平均値はNA、非該当を除いた数値である

Q1 学年

1.1年生 55.7%(215) 2.2年生 26.2%(101) 3.3年生 13.0%(50) 4.4年生 4.1%(16) 5.その他 1%(4)
NA(1)

Q2 性別

1.男性 43.6(168) 2.女性 56.4(217) NA(2)

Q3 現在の居住地の都道府県名をお答えください

(1) 現住所 兵庫県 63.3%(245) 大阪府 31.8%(123) 奈良県 2.8%(11) 京都府 1.3%(5)
滋賀県 0.5%(2) 鳥取県 0.3%(1)

Q6 ご自宅から最寄駅まで、最もよく使われる移動手段をお答えください。

1.自動車 6.3%(24) 2.自転車 26.1%(100) 3.原付 5.2%(20) 4.徒歩 55.4%(212) 5.バス 7.0%(27)
NA(4)

Q7 質問6で選んだ交通手段で、現在の居住地から最寄り駅までの所要時間は何分ですか？単位をつけずに半角数字のみでお答えください(以下、数値で答える質問はすべて同様です。「万」「千」なども用いないでください。小数点は使用可能です) 所要時間 平均値:10.9分 最大値:60.0分 最小値:1.0分 (有効ケース数:371)

Q8 あなたは実家生ですか、下宿生ですか？(「1.実家生」の方は質問11へお進みください)

1.実家生 70.0%(268) 2.下宿生 30.0%(115) NA(4)

Q9 ご実家の住所の都道府県名をお答えください]

愛知県 10.2%(11) 福岡県 8.7%(10) 岡山県・兵庫県 各 8.3%(9) 愛媛県 7.4%(8) 京都府・広島県
5.6%(6) 静岡県・徳島県 各 3.7%(4) 香川県・大阪府・大分県・長崎県・福井県・和歌山県 各 2.8%(3)
佐賀県・千葉県・東京都・奈良県・富山県 各 1.9%(2) 茨城県・岐阜県・宮城県・熊本県・群馬県・高知県・埼玉
玉県・滋賀県・新潟県・長野県・鳥取県・島根県・栃木県 各 0.9%(1) (有効ケース数:115)

Q11 主な通学手段を1つだけお答えください

1.電車 68.5%(261) 2.バス(甲東園—関西学院前を除く)2.1%(8) 3.徒歩・自転車 20.2%(77)
4.原付・バイク 8.9%(34) 5.自動車 0.3%(1) NA(6)

Q13 あなたは通学(家から教室まで)に片道何分程度の時間を見込んでいますか？(半角数字のみ・小数点可)

所要時間 平均値:59.4分 最大値:150.0分 最小値:2.0分 (有効ケース数:360)

Q14 あなたは今年の春学期、週何日受講されていますか？(半角数字のみ)

平均値: 4.7日 最大値: 6日 最小値: 1日 (有効ケース数:375)

Q15 あなたは今年の春学期、週何コマ(単位数ではありません)受講されていますか？(半角数字のみ)

平均値: 13.1日 最大値: 17日 最小値: 1日 (有効ケース数:363)

Q16 あなたは現在、部活・サークルに加入していますか？(いいえの方は質問 19 へお進みください)
はい 79.8%(304) いいえ 20.2%(77) NA(6)

Q17 あなたは、今年の 4 月から 6 月、一週間のうち平均何日、部・サークル活動に参加されていましたか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 2.4 日 最大値: 7 日 最小値: 0 日 (有効ケース数:280)

Q18 あなたは、今年の 4 月から 6 月、一週間あたりトータルで平均何時間、部・サークル活動に参加されていましたか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 7.2 時間 最大値: 45 時間 最小値: 0 時間 (有効ケース数:286)

Q19 授業のある日の平均睡眠時間は何時間ですか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 6.0 時間 最大値: 8.5 時間 最小値: 3.0 時間 (有効ケース数:378)

Q20 授業のない日(休日など)の平均睡眠時間は何時間ですか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 7.7 時間 最大値: 12 時間 最小値: 3 時間 (有効ケース数:380)

Q21 あなたは授業のある日 1 日のうちインターネットだけを利用している時間は何時間ですか？ただし、メール/LINE は含みません(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 1.8 時間 最大値: 14 時間 最小値: 0.1 時間 (有効ケース数:350)

Q22 同じく、授業のない日(休日等)1 日のうちインターネットだけを利用している時間は何時間ですか？ただし、メール/LINE は含みません(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 2.6 時間 最大値: 14 時間 最小値: 0.1 時間 (有効ケース数:355)

Q23 あなたは現在アルバイトをしていますか？(「いいえ」の方は質問 32 へお進みください)
はい 73.8%(282) いいえ 26.2%(100) NA(5)

Q24 あなたは現在、週何日アルバイトをしていますか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 2.8 日 最大値: 7 日 最小値: 1 日 (有効ケース数:279)

Q25 あなたは一週間あたり合計何時間アルバイトをしていますか？複数されている方は全ての合計をお答えください(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 18.4 時間 最大値: 30 時間 最小値: 2 時間 (有効ケース数:281)

Q26 授業のある日一日の平均アルバイト時間は何時間ですか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 3.8 時間 最大値: 45 時間 最小値: 0 時間 (有効ケース数:281)

Q27 授業のない日一日の平均アルバイト時間は何時間ですか？(半角数字のみ・小数点可)
平均値: 5.5 時間 最大値: 13.5 時間 最小値: 0 時間 (有効ケース数:279)

Q28 現在の主たる(複数の方はもっとも収入の多い)アルバイト先の最寄り駅を「○○線○○駅」の形でお答えください。梅田(阪急・阪神・地下鉄・JR 大阪、北新地を含む) 9.9%(27) 難波(南海・近鉄・阪神・地下鉄) 2.9%(8)
三宮(阪急・阪神・JR) 6.6%(18) 西宮北口 10.7%(29) (有効ケース数:272)

Q29 現在の主たる(複数の方はもっとも収入の多い)アルバイトでの時給をお答えください(半角数字のみ)
平均値: 975.3 円 最大値: 2600 円 最小値: 750 円 (有効ケース数:277)

Q30 現在の主たる(複数の方はもっとも収入の多い)アルバイトの職種は以下の分類のいずれかお答えください。

- 1.Bar・居酒屋 13.9%(39) 2.その他フード 22.1%(62) 3.カフェ 7.9%(22) 4.コンビニエンスストア 3.2%(9)
5.スーパー 5.0%(14) 6.ドラッグストア 1.4%(4) 7.食品販売 5.7%(16) 8.服飾(洋服・靴など)販売 3.6%(10)
9.家庭教師 4.0%(1) 10.塾講師 14.3%(40) 11.配達(郵便・新聞など) 4.0%(1) 12.派遣 3.9%(11)
13.事務 3.2%(9) 14.サービス 6.8%(19) 15.その他 8.2%(23) NA(2)

Q32 今年の5月のアルバイトによる収入を、お答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 33,961円 最大値: 220,000円 最小値: 0円 (有効ケース数:320)

Q33 今年の5月の奨学金による収入を、お答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 19,057円 最大値: 1,000,000円 最小値: 0円 (有効ケース数:339)

Q34 今年の5月のお小遣い(もしくは仕送り)による収入を、お答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 18,803円 最大値: 200,000円 最小値: 0円 (有効ケース数:351)

Q35 今年の5月のその他の収入があれば、その金額をお答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 26,811円 最大値: 200,000円 最小値: 1,300円 (有効ケース数:45)

Q36 今年の5月の収入合計をお答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 64,909円 最大値: 271,731円 最小値: 2,000円 (有効ケース数:321)

Q37 あなたは、4月から6月に「トップス」を購入しましたか?なお、ここでの「トップス」とは「上半身に着る洋服のうち、スーツ・インナー(下着)を除いたもの」とします(以下同様です。「いいえ」の方は質問39へお進みください)はい 64.0%(240) いいえ 36.0%(135) NA(12)

Q38 その「トップス」はおいくらでしたか?直近(一番最近)購入したものの金額をお答えください(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 4,492円 最大値: 50,000円 最小値: 500円 (有効ケース数:235)

Q39 一番最近(3月以前も含む)購入された「トップス」はどちらで購入されましたか?最寄り駅を、「〇〇線〇〇駅」の形でお答えください 梅田(阪急・阪神・地下鉄・JR大阪、北新地を含む) 31.4%(98) 三宮(阪急・阪神・JR) 12.5%(39)心斎橋 3.85%(12) 西宮北口 21.5%(67) (有効ケース数:352)

Q40 あなたが大学生になってから最もよく行かれているファッション街はどこですか?

- 1.大阪キタ(梅田など) 41.9%(158) 2.大阪(なんば・心斎橋など) 10.3%(39) 3.関学周辺(西宮北口など) 19.9%(75) 4.神戸中心部(三ノ宮・元町など) 17.2%(65) 5.京都(四条河原町周辺) 5%(2) 6.その他 10.1%(38) NA(10)

Q41 あなたは大学生になってから以下のアウトレットモールに行かれたことがありますか?(以下、質問47まで同様の質問です)

『岸和田カンカンベイサイドモール』	はい 4.5% (17)	いいえ 95.5% (361)	NA(9)
Q42 『三井アウトレットパーク大阪鶴見』	はい 6.1% (23)	いいえ 93.9% (352)	NA(12)
Q43 『りんくうプレミアム・アウトレット』	はい 19.0% (71)	いいえ 81.0% (302)	NA(14)
Q44 『ATC タウンアウトレット MARE』	はい 1.6% (6)	いいえ 98.4% (364)	NA(17)
Q45 『三井アウトレットパーク マリンピア神戸』	はい 16.2% (60)	いいえ 83.8% (310)	NA(17)
Q46 『神戸三田プレミアム・アウトレット』	はい 34.2% (125)	いいえ 65.8% (241)	NA(21)
Q47 『三井アウトレットパーク 滋賀竜王』	はい 8.8% (33)	いいえ 91.2% (340)	NA(14)

Q48 自宅生もしくはご実家が近畿圏内の方のみお答えください。親御さんが、贈り物(お歳暮・お中元など)を購入するために使われる百貨店はどこですか?(※自宅生のみ分析 有効ケース数:254)

阪急梅田本店 25.2%(64) 大丸神戸店 11.0%(28) あべのハルカス 6.7%(17) 西宮阪急 5.1%(13)
高島屋大阪店 4.7%(12) そごう神戸店 4.3%(11) 阪神梅田本店・川西阪急・宝塚阪急 3.5%(9) 以下割愛

Q49 直近(一番最近)利用した美容院(もしくは理容室)はどこにありますか。その最寄り駅を「○○線○○駅』という形でお答えください 梅田(阪急・阪神・地下鉄・JR 大阪、北新地を含む) 7.5%(26) 三宮(阪急・阪神・JR) 6.1%(21) 西宮北口 7.8%(27) 甲東園 5.5%(19) (有効ケース数:346)

Q50 直近(一番最近)利用した美容院について伺います。その美容院を選んだ理由をお答えください。

1. 値段 33.0%(123) 2. 技術 18.0%(67) 3. 立地 22.0%(82) 4. 居心地 15.5%(58)
5. 美容院の雰囲気 11.5%(43) NA(14)

Q51 直近(一番最近)美容院を利用した時間帯をお答えください

1. 平日の午前 13.2%(49) 2. 平日の午後 43.9%(163) 3. 休日の午前 21.0%(78) 4. 休日の午後 21.8%(81)
NA(16)

Q52 直近(一番最近)利用した美容院のカットのみの値段をお答えください(半角数字のみ・「万」「千」のど不可)
平均値:3,727.8 円 最大値: 40,000 円 最小値:1,000 円 (有効ケース数:362)

Q53 直近(一番最近)利用した美容院の予約形態は以下のうちのどのようなものでしたか?

1. 飛び込み 16.1%(60) 2. 電話 45.8%(171) 3. ネット 34.9%(130) 4. 次回の予約 3.2%(12) NA(14)

Q54 直近(一番最近)利用した美容院への交通手段をお答えください。(※居住地から)

1. 電車 33.4%(125) 2. 自動車 10.2%(38) 3. 自転車 28.3%(106) 4. 原付 5.9%(22) 5. 徒歩 19.5%(73)
6. バス 2.7%(10) NA(13)

Q55 質問 54 で回答された交通手段で、居住地からその美容院への所要時間は何分をお答えください。(半角数字のみ・小数点可) 平均値:19.2 分 最大値: 150.0 分 最小値:1.0 分 (有効ケース数:370)

Q56 平均して何ヶ月に一回、髪を切っていますか?(半角数字のみ・小数点可)

平均値:2.7 回 最大値: 12 回 最小値:0.3 回 (有効ケース数:372)

Q57 現在の髪の長さを、写真を参考にお答えください。(写真省略)

1. 女性ショート 8.4%(32) 2. 女性ミディアム 20.3%(77) 3. 女性セミロング 20.6%(78) 4. 女性ロング 6.9%(26)
5. 男性ボウズ 6. 男性ショート 26.1%(99) 7. 男性ミディアム 11.6%(44) 8. 男性ロング 1.3%(5)
NA(8)

Q58 あなたは一日平均何時間テレビを見ていますか? 授業のある日の平均視聴時間をお答えください。(半角数字のみ・小数点可)

平均値:2.0 時間 最大値: 15.0 時間 最小値:0.3 時間 (有効ケース数:330)

Q59 同じく、授業のない日(休日など)の平均視聴時間をお答えください。(半角数字のみ・小数点可)

平均値:3.0 時間 最大値: 12.0 時間 最小値:0.3 時間 (有効ケース数:351)

Q60 あなたはどのような番組を見ていますか。多い順に2つお答えください。

(一番目・二番目)=(バラエティ・ドラマ) 14.2%(52) (ドラマ・バラエティ) 11.8%(43)
(バラエティ・ニュース・報道) 11.0%(40)

Q61 あなたは以下のテレビドラマを今年の4月から6月までの間に見ましたか？(以下質問78まで同様の質問です)

『まれ』	はい 16.4%(62)	いいえ 83.6%(315)	NA(10)
Q62 『ようこそ我が家へ』	はい 28.3%(106)	いいえ 71.7%(269)	NA(12)
Q63 『Mother game』	はい 21.1%(79)	いいえ 78.9%(296)	NA(12)
Q64 『戦う書店ガール』	はい 9.6%(36)	いいえ 90.4%(338)	NA(13)
Q65 『美女と男子』	はい 2.4%(9)	いいえ 97.6%(366)	NA(12)
Q66 『警視庁捜査一課9係』	はい 2.4%(9)	いいえ 97.6%(364)	NA(14)
Q67 『Dr 倫太郎』	はい 16.3%(61)	いいえ 83.7%(314)	NA(12)
Q68 『心がホキっとね』	はい 11.3%(42)	いいえ 88.7%(331)	NA(14)
Q69 『アイムホーム』	はい 14.4%(54)	いいえ 85.6%(321)	NA(12)
Q70 『ヤメゴク』	はい 6.9%(26)	いいえ 93.1%(350)	NA(11)
Q71 『医師たちの恋愛事情』	はい 8.5%(32)	いいえ 91.5%(346)	NA(9)
Q72 『三匹のおっさん2』	はい 3.2%(12)	いいえ 96.8%(363)	NA(12)
Q73 『アルジャーノンに花束を』	はい 21.0%(79)	いいえ 79.0%(297)	NA(11)
Q74 『天使と悪魔』	はい 1.3%(5)	いいえ 98.7%(369)	NA(13)
Q75 『どS刑事』	はい 13.1%(49)	いいえ 86.9%(325)	NA(13)
Q76 『花燃ゆ』	はい 7.7%(29)	いいえ 92.3%(346)	NA(12)
Q77 『天皇の料理番』	はい 14.9%(56)	いいえ 85.1%(320)	NA(11)
Q78 『ワイルド・ヒーローズ』	はい 13.2%(49)	いいえ 86.8%(322)	NA(16)

Q79 あなたは以下のバラエティ番組を今年の4月から6月までの間に見ましたか？(以下、質問85まで同様の質問です)

『行列のできる法律相談所』	はい 44.0%(165)	いいえ 56.0%(210)	NA(12)
Q80 『世界の果てまでイッテQ』	はい 62.4%(234)	いいえ 37.0%(141)	NA(12)
Q81 『ザ鉄腕DASH!』	はい 40.3%(151)	いいえ 59.7%(224)	NA(12)
Q82 『笑点』	はい 12.9%(48)	いいえ 87.1%(325)	NA(14)
Q83 『爆報THEフライデー』	はい 7.5%(28)	いいえ 92.5%(346)	NA(13)
Q84 『天才！志村どうぶつ園』	はい 23.7%(89)	いいえ 76.3%(287)	NA(11)
Q85 『ザ！世界仰天ニュース』	はい 51.1%(190)	いいえ 48.9%(182)	NA(15)

Q86 あなたは家族や同居している人と一緒にテレビを見ることがありますか？

はい 83.6%(312) いいえ 16.4%(61) NA(14)

Q87 あなたは今年の4月から6月に本を購入されましたか？雑誌は含みます。また、教科書は除きます(「いいえ」の方は質問90へお進みください)

はい 60.1%(226) いいえ 39.9%(150) NA(11)

Q88 あなたは今年の4月から6月に本を何冊購入されましたか？(半角数字のみ)

平均値: 5.9冊 最大値: 120冊 最小値: 1冊 (有効ケース数:221)

Q89 今年の4月から6月に全部で本にいくら使いましたか？(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

平均値: 4,764冊 最大値: 50,000冊 最小値: 300冊 (有効ケース数:220)

Q90 直近(一番最近、3月以前も含む)に購入された本のタイトルをお答えください

Q91 その本のジャンルをお選びください

1. 小説 28.7%(102) 2. マンガ 14.9%(53) 3. 雑誌 25.9%(92) 4. 参考書 13.8%(49) 5. エッセイ 5.6%(20)
6. その他 11.0%(39) NA(32)

Q92 その本をどのように購入しましたか?

1. 本屋 92.3%(324) 2. インターネット 7.4%(26) 3. 電子書籍 0.3%(1) NA(36)

Q93 あなたが最もよく行く本屋はどこですか? その最寄り駅を「○○線○○駅」の形でお答えください。大学生協は除きます

- 梅田(阪急・阪神・地下鉄・JR 大阪、北新地を含む) 17.3%(58) 三宮(阪急・阪神・JR) 6.3%(21)
西宮北口 23.2%(78) (有効ケース数:336)

Q94 今年の4月から6月に映画を見に行きましたか? (「いいえ」の方は質問97へお進みください)

- はい 60.1%(227) いいえ 39.9%(151) NA(9)

Q95 今年の4月から6月に映画を何本見に行きましたか? (半角数字のみ)

- 平均値: 2.4本 最大値: 30本 最小値: 1本 (有効ケース数:224)

Q96 直近(一番最近)見に行った映画のタイトルをお答えください

Q97 あなたが最もよく行く映画館はどこですか? 映画館の最寄り駅を「○○線○○駅」という形でお答えください

- 梅田(阪急・阪神・地下鉄・JR 大阪、北新地を含む) 20.6%(72) 三宮(阪急・阪神・JR) 4.9%(17)
難波(南海・近鉄・阪神・地下鉄) 5.4%(19) 西宮北口 43.1%(151) (有効ケース数:350)

大学生の生活行動に関する調査 (15年11月調査) 調査単純集計表

2015年11月26日 LUNA 締切 都市社会学 A 受講生 N=268

※パーセントおよび平均値はNA、非該当を除いた数値である

Q1 あなたの学年をお答えください。

1.1年生 46.8%(125) 2.2年生 29.2%(78) 3.3年生 15.7%(42) 4.4年生 7.5%(20) 5.その他 0.7%(2) NA(1)

Q2 あなたの年齢を、単位をつけずに半角数字のみでお答えください。(以下、数値で答える質問はすべて同様です。「万」「千」なども用いないでください)

1.18歳 13.2%(35) 2.19歳 38.3%(102) 3.20歳 29.7%(79) 4.21歳 10.5%(28) 5.22歳 6.4%(17)
6.23歳 1.9%(5) NA(2)

Q3 あなたの性別をお答えください。

1.男性 42.2%(113) 2.女性 57.8%(155)

Q4 現在の居住地の都道府県名をお答えください

兵庫県 64.4%(172) 大阪府 28.8%(77) 奈良県 3.4%(9) 京都府 2.6%(7) 滋賀県 0.4%(1)
和歌山県 0.4%(1) NA(1)

Q7 ご自宅から最寄駅まで、最もよく使われる移動手段をお答えください。

1.自動車 4.9%(13) 2.自転車 27.1%(72) 3.原付 4.5%(12) 4.徒歩 54.5%(145) 5.バス 9.0%(24) NA(2)

Q8 質問7で選んだ交通手段で、現在の居住地から最寄駅までの所要時間は何分ですか？単位をつけずに半角数字のみでお答えください

最小値 1分 最大値 40分 平均値 10.8分 (有効ケース数:265)

Q9 あなたは実家生ですか、下宿生ですか？(「1.実家生」の方は質問12へお進みください)

1.実家生 65.8%(173) 2.下宿生 34.2%(90) NA(5)

Q10 ご実家の住所の都道府県名をお答えください(下宿生のみ)

福岡 11.1%(10) 愛知 8.9%(8) 広島 7.8%(7) 福井・兵庫 各 6.7%(6) 岡山・静岡・石川 各 4.4%(4)
愛媛・宮崎・大阪・長崎・徳島・和歌山 各 3.3%(3)
宮城・京都・香川・高知・滋賀 各 2.2%(2) 岐阜・熊本・佐賀・三重・新潟・神奈川・大分・長野・東京・奈良・
富山・福島・北海道 各 1.1%(1)

Q12 全員にうかがいます。主な通学手段を1つだけお答えください

1.電車 63.3%(167) 2.バス(甲東園—関西学院前を除く) 1.9%(5) 3.徒歩・自転車 25.0%(66)
4.原付・バイク 9.1%(24) 5.自動車 0.8%(2) NA(4)

Q13 あなたは通学(家から教室まで)に片道何分程度の時間を見込んでいますか？(半角数字のみ・小数点可)

最小値 3分 最大値 190分 平均値 59.7分

Q14 あなたには兄弟姉妹がいますか？(「2.いない」の方は質問17へお進みください)

1.いる 81.3%(218) 2.いない 17.9%(48) NA(2) (有効ケース数:259)

Q16 兄弟姉妹全体として仲が良いと思いますか。個々の関係ではなく全体としての関係でお答えください

- 1.非常に仲が良い 36.7%(80)
- 2.どちらかと言えば仲が良い 53.2%(116)
- 3.どちらかと言えば仲が悪い 78.7%(19)
- 4.非常に仲が悪い 1.4%(3)

Q17 全員にうかがいます。あなたは、父親と仲が良いですか。

- 1.非常に仲が良い 27.7%(73)
- 2.どちらかと言えば仲が良い 52.3%(138)
- 3.どちらかと言えば仲が悪い 10.6%(28)
- 4.非常に仲が悪い 3.0%(8)
- 5.父親はいない 6.4%(17) NA(4)

Q18 あなたは母親と仲が良いですか。

- 1.非常に仲が良い 49.6%(132)
- 2.どちらかと言えば仲が良い 44.7%(119)
- 3.どちらかと言えば仲が悪い 3.8%(10)
- 4.非常に仲が悪い 0.4%(1)
- 5.母親はいない 1.5%(4) NA(2)

Q19 あなたのご両親の夫婦仲は良いですか。

- 1.非常に仲が良い 28.9%(76)
- 2.どちらかと言えば仲が良い 47.9%(126)
- 3.どちらかと言えば仲が悪い 9.1%(24)
- 4.非常に仲が悪い 6.8%(18)
- 5.該当しない 7.2%(19) NA(5)

Q20 あなたは、今年の10月1日～31日の間に以下のツールを用いて父親と連絡を取りましたか。以下、質問22まで同じ質問です。

電話 はい 55.8%(148) いいえ 44.2%(117) NA(3)

Q21 メール

はい 35.1%(93) いいえ 64.9%(172) NA(3)

Q22 連絡をとる機能をもったアプリケーション (LINE 等)

はい 51.1%(135) いいえ 48.9%(129) NA(4)

Q23 あなたは、今年の10月1日～31日の間に以下のツールを用いて母親と連絡を取りましたか。以下、質問25まで同じ質問です。

電話 はい 83.8%(223) いいえ 16.2%(43) NA(2)

Q24 メール

はい 43.6%(115) いいえ 56.4%(149) NA(4)

Q25 連絡をとる機能をもったアプリケーション (LINE 等)

はい 73.7%(196) いいえ 26.3%(70) NA(2)

Q26 あなたの父親はスマートフォンもしくはガラケーを持っていますか。

- 1.スマートフォンだけを持っている 63.8%(157)
- 2.ガラケーだけを持っている 22.0%(54)
- 3.両方持っている 14.2%(35) 欠損値(22)

Q27 あなたの母親はスマートフォンもしくはガラケーを持っていますか。

- 1.スマートフォンだけを持っている 73.6%(192)
- 2.ガラケーだけを持っている 22.2%(58)
- 3.両方持っている 4.2%(11) 欠損値(7)

Q28 あなたは毎月の携帯電話料金を自分で支払っていますか？

はい16.2%(43) いいえ83.8%(223) NA(2)

Q29 「学内で最も親しいと思っている友人」と「学外で最も親しいと思っている友人」をそれぞれ一人ずつ思い浮かべてください。しいていえば、どちらがよりあなたと親しいといえますか。

- 1.学内の最も親しい友人 38.5%(102)
- 2.学外の最も親しい友人 61.5%(163) NA(3)

Q30 あなたは今年の春学期、週何日受講されていましたか？(半角数字のみ)

最小値 1日 最大値 6日 平均値 4.5日 (有効ケース数:258)

Q31 あなたは今年の春学期、週何コマ(単位数ではありません)受講されていましたか？(半角数字のみ)

最小値 2コマ 最大値 17コマ 平均値 12.4コマ (有効ケース数:246)

Q32 あなたは今年の春学期、どの程度授業に出席しましたか？

1. よく出席した (75%以上) 66.3%(175) (29.9%)
2. ややよく出席した (50%~75%) 24.6%(65) (38.6%)
3. あまり出席していなかった (25%~50%) 7.6%(20) (21.1%)
4. ほとんど出席していなかった (25%以下) 1.5%(4) (10.4%) NA(4)

Q33 あなたの今年の春学期の総単位数に占めるA (優) 以上の割合はどのくらいですか？

1. ほとんどがA (優) 以上である (75%以上) 18.6%(49) (8.9%)
2. A (優) 以上が多い (50%~75%) 41.3%(109) (33.8%)
3. A (優) 以上は少ない (25%~50%) 29.9%(79) (41.1%)
4. ほとんどA (優) 以上はない (25%以下) 10.2%(27) (15.9%) NA(4)

Q34 あなたは大学生活においてどのようなことに重点を置いていますか？該当する項目を1つだけ選んでください。

1. ゼミや授業に重点をおいた生活 19.7%(52) (12.7%)
2. 部、サークル活動に重点を置いた生活 36.4%(96) (32.6%)
3. 自分の趣味に重点を置いた生活 16.3%(43) (21.5%)
4. アルバイトに重点を置いた生活 9.1%(24) (11.4%)
5. 恋愛関係に重点を置いた生活 3.8%(10) (6.5%)
6. その他の点に重点を置いた生活 4.5%(12) (4.6%)
7. 特に重点は置かない生活 10.2%(27) (10.7%) NA(4)

Q35 あなたは春学期終了時点で部活・サークルに加入していましたか？(いいえの方は質問 39 へお進み下さい)

はい 82.9%(218) (59.9%) いいえ 17.1%(45) (40.1%) NA(5)

Q36 それは、どのような部活・サークルですか？主に活動に参加されていたものを1つだけお答え下さい。

1. 体育会系の部活 17.1%(37) (21.6%)
2. 文化系の部活 11.5%(25) (26.5%)
3. 体育会系のサークル 52.5%(114) (34.1%)
4. 文化系のサークル 15.7%(35) (17.8%)
5. 学外活動 (ボランティア・他大学のサークル等) 3.2%(7) NA(1)

Q37 あなたは、今年の春学期中、一週間のうち平均何日、部・サークル活動に参加されていましたか？加入されていた全ての部・サークルを合計してお答え下さい。(半角数字のみ・小数点可)

最小値 0.2日 最大値 7.0日 平均値 2.3日 (有効ケース数:204)

Q38 あなたは、今年の春学期中、一週間あたり、トータルで平均何時間、部・サークル活動に参加されていましたか？加入されていた全ての部・サークルを合計してお答え下さい。(半角数字のみ・小数点可)

最小値 0.3時間 最大値 60.0時間 平均値 6.9時間 (有効ケース数:203)

Q39 全員にうかがいます。平日の平均睡眠時間は何時間ですか？(半角数字のみ・小数点可)

最小値 4.0時間 最大値 10.0時間 平均値 6.2時間 (有効ケース数:262)

Q40 平日 1 日のうちインターネットだけを利用している時間は何時間ですか？ただし、メール/LINE は含みません
(半角数字のみ・小数点可)

最小値 0 時間 最大値 12.0 時間 平均値 2.1 時間 (有効ケース数:261)

Q41 あなたは現在アルバイトをしていますか？(「いいえ」の方は質問 46 へお進みください)

はい **79.2%(209)** (79.3%) いいえ **20.8%(55)** (20.7%) NA(4)

Q42 あなたは現在、週何日アルバイトをしていますか？(半角数字のみ)

最小値 1 日 最大値 6 時間 平均値 3.0 日 (有効ケース数:209)

Q43 あなたは一週間あたり合計何時間アルバイトをしていますか？複数されている方は全ての合計をお答えください(半角数字のみ・小数点可)

最小値 2.0 時間 最大値 50.0 時間 平均値 15.68 時間 (18.8 時間) (有効ケース数:208)

Q44 現在の主たる(複数の方はもっとも収入の多い)アルバイト先の最寄駅の鉄道会社名と駅名をお答えください。
※駅のある繁華街で示しています

大阪キタ **13.1%(27)** 大阪ミナミ **2.4%(5)** 神戸市中心部 **4.9%(10)** 西宮北口 **10.7%(22)**
その他 **68.4%(141)**

Q45 アルバイトによる収入を、4月から9月の間の1か月平均でお答えください(半角数字のみ・「万」「千」等不可)

最小値 6000 円 最大値 110000 円 平均値 48212 円 (有効ケース数:126)

Q46 全員にうかがいます。以下は、今年行われた国勢調査に関する質問です。別紙「国勢調査の従業地・通学地に関する質問について」をよく読んでお答えください。あなたは、今年の9月から10月にかけて国勢調査が行われたことを知っていましたか？(いいえの方は質問 48 へお進みください)

はい **70.9%(190)** いいえ **27.2%(73)** NA(5)

Q47 あなたは、国勢調査の調査票には目を通されましたか？以下のうちから当てはまるものをお答えください。なお、実際に回答したかどうかは問わないものとします。

- 1.インターネット調査票のみ目を通した **15.8%(30)**
- 2.紙の調査票のみ目を通した **24.2%(46)**
- 3.両方とも目を通した **9.5%(18)**
- 4.どちらも目を通していないが、調査員が訪問したことは認識している **13.2%(25)**
- 5.どちらも目を通しておらず、調査員が訪問したことも認識していない **37.4%(71)**

Q48 あなたのご世帯では、今回の国勢調査にどなたが回答されましたか？あなたご自身が回答されなかった場合は、同居するご家族に確認し、以下のうち当てはまるものをお答えください。なお、国勢調査は世帯単位での調査のため、下宿生の方は「1」「4」「5」のうちどれか該当するものをお答えください。
(「5.回答していない」の方は質問 53 へお進みください)

- 1.あなたご自身 **22.5%(59)**
- 2.同居する父 **19.1%(50)**
- 3.同居する母 **27.5%(72)**
- 4.その他の同居人 **2.7%(7)**
- 5.回答していない **23.6%(62)**

※回答者不明(「5」を選択、もしくはNAでも質問 49,50,51 に回答しているケース) **4.9%(13)** NA(5)

Q49 どのような方法で国勢調査に回答されましたか？以下のうち該当するものをお選びください。あなたご自身で回答されなかった場合は、実際に回答されたご家族に確認し、お答えください。

1. インターネット調査票 **45.2%(90)**
 2. 紙の調査票 **53.3%(106)**
 3. 調査員に対する口頭での回答 **1.5%(3)**
- NA(2)

Q50 国勢調査の質問 10「国勢調査直前の一週間に仕事をしましたか？」という質問に対し、どう回答されましたか？あなたご自身で回答されなかった場合は、実際に回答されたご家族に確認し、お答えください。（「1.通学」の方は質問 51 へお進みください）

1.通学 **59.2%(116)** 2.通学のかたわら仕事 **40.8%(80)** NA(5)

Q51 国勢調査の質問 11「従業地又は通学地」の項目に、どのようにお答えになりましたか？あなたご自身で回答されなかった場合は、実際に回答されたご家族に確認し、お答えください。

1.アルバイト先の住所を正確に記入した **23.4%(36)** 2.通学地である「西宮市」を回答した **76.6%(118)**
NA(47)

Q52 あなたは、国勢調査直前の一週間にアルバイトをされていたか？なお、ここで言う「国勢調査直前の一週間」とは、紙の調査票での回答であれば「9月24日から30日」、インターネット調査票での回答であれば、「回答日直前の一週間」を指します。

はい **70.3%(137)** いいえ **29.7%(58)** NA(6)

Q53 全員にうかがいます。あなたは、4月1日から9月30日の間に「トップス」を購入しましたか？なお、ここでの「トップス」とは「上半身に着る洋服のうち、コート・スーツ・インナー（下着）を除いたもの」とします（以下同様です。「いいえ」の方は質問 56 へお進みください。）

はい **73.4%(193)** いいえ **26.6%(70)** NA(5)

Q54 その4月1日から9月30日の間に購入した「トップス」のなかで直近（一番最近）購入したものの金額をお答えください。（半角数字のみ・「万」「千」など不可）

最小値 **580円** 最大値 **97200円** 平均値 **6070円**

Q55 その「トップス」はどちらで購入されましたか？最寄駅の鉄道会社名と駅名をお答えください。なお、アウトレットモールなど郊外のショッピング施設は駅名の欄に施設名をお書きください。※駅のある繁華街で示しています

大阪キタ **32.4%(61)** 大阪ミナミ **5.9%(11)** 神戸市中心部 **10.1%(19)** 京都市中心部 **0.5%(1)**
西宮北口 **17.6%(33)** その他 **33.5%(63)**

Q56 全員にうかがいます。大学生になってから最もよく行かれているファッション街はどこですか？

1.大阪キタ（梅田周辺） **55.6%(145)** 2.大阪ミナミ（なんば・心斎橋周辺） **8.8%(23)**
3.神戸市中心部（三宮・元町周辺） **19.2%(50)**
4.京都市中心部（四条河原町周辺） **1.9%(5)** 5.その他 **14.6%(38)** NA(7)

Q57 自宅生のみお答えください。親御さんが、贈り物（お歳暮・お中元など）を購入するために使われる百貨店はどこですか？

阪急うめだ本店 **25.5%(42)** 大丸神戸店 **8.5%(14)** 西宮阪急 **7.9%(13)** そごう神戸店 **6.1%(10)**
以下割愛（有効ケース数:165）

Q58 全員にうかがいます。あなたは美容院（もしくは理容室）を利用する時、最も重視しているものはどれですか。該当するものを1つだけお選びください。

1.値段 **35.4%(95)** 2.技術力 **29.5%(79)** 3.店員の人の柄（コミュニケーション・慣れ・親しみやすさ等） **23.1%(62)**
4.雰囲気（外観・内装・おしゃれさ等） **9.3%(25)**

Q59 あなたは美容院(もしくは理容室)を定期的にご利用していますか。該当するものを1つだけお選びください。

1. 1ヶ月に1回 15.3%(40) 2. 2ヶ月に1回 42.4%(111) 3. 3ヶ月に1回 24.4%(64)
4. 4ヶ月に1回 4.2%(11) 5. 5ヶ月に1回 3.4%(9) 6. 6ヶ月に1回 1.5%(4)
7. 6ヶ月以上に1回 1.5%(4) 8. 定期的にご利用すると決めていない 7.3%(19) NA(6)

Q60 「同じ美容院(もしくは理容室)を利用する」あるいは「利用する美容院(もしくは理容室)を変える」ということに関して、あなたの考えに最も近いものを1つだけお選びください。

- A. できるだけ同じ美容院に通いたいと思う
B. 値段や立地等の条件に応じて美容院を変えることをいとわない

1. Aに近い 60.3%(158) 2. どちらかと言えばAに近い 13.0%(34)
3. どちらかと言えばBに近い 14.1%(37) 4. Bに近い 12.6%(33) NA(6)

Q61 直近(一番最近)利用した美容院(もしくは理容室)はどこにありますか。その最寄駅の鉄道会社名と駅名をお答えください。

- 大阪キタ 6.9%(18) 大阪ミナミ 3.5%(9) 神戸市中心部 4.6%(12) 京都 1.2%(3) 西宮北口 12.7%(33)
その他 71%(188)

Q62 直近(一番最近)利用した美容院(もしくは理容室)のカットのみの値段をお答えください。(半角数字のみ・「万」「千」など不可)

最小値 1000 円 最大値 10000 円 平均値 3655 円 (有効ケース数:250)

Q63 あなたは今年の4月1日から9月30日の間に小説を購入されましたか?

(「いいえ」の方は質問66へお進みください)

はい 34.6%(90) いいえ 65.4%(170) NA(8)

Q64 あなたは今年の4月1日から9月30日の間に小説を何冊購入されましたか? (半角数字のみ)

最小値 1 冊 最大値 30 冊 平均値 4.0 冊 (有効ケース数:88)

Q65 あなたは今年の4月1日から9月30日の間に全部で小説にいくら使いましたか? (半角数字のみ・「万」「千」など不可)

最小値 600 円 最大値 35000 円 平均値 3106 円 (有効ケース数 87)

Q66 全員にうかがいます。あなたは今年の4月1日から9月30日の間に小説を読みましたか? (借りた本も含みます) (「いいえ」の方は質問71へお進みください)

はい 44.5%(113) いいえ 55.5%(141) NA(14)

Q67 あなたは今年の4月1日から9月30日の間に小説を何冊読みましたか? (半角数字のみ・借りた本も含みます)

最小値 1 冊 最大値 60 冊 平均値 5.9 冊 (有効ケース数:113)

Q69 芥川賞を受賞した又吉直樹の『火花』を読みましたか?

はい 20%(22) いいえ 80%(88) NA(3)

Q70 芥川賞を受賞した羽田圭介の『スクラップアンドビルド』を読みましたか?

はい 3.6%(4) いいえ 96.4%(108) NA(1)

Q71 全員にうかがいます。あなたが小説を買う際に最もよく行く本屋はどこですか？その最寄り駅の鉄道会社名と駅名をお答えください。(大学生協は除きます)

大阪キタ 15.6%(40) 大阪ミナミ 2.3%(6) 神戸市中心部 5.4%(14) 西宮北口 28.4%(73) その他 48.2%(124)

Q72 今年の4月1日から9月30日の間に映画館に映画を観に行きましたか(自宅観賞は含まない)。「いいえ」の方は質問77へお進みください

はい68.0%(176) いいえ32.0%(83) NA(9)

Q73 今年の4月1日から9月30日の間に映画館に何回映画を観に行きましたか。(半角数字のみ)

最小値 1回 最大値 60回 平均値 3.5回 (有効ケース数:176)

Q75 その映画は誰と見ましたか。選択肢から一つお選びください。

1.一人 10.3%(18) 2.学内の友人・知人 47.4%(83) 3.学外の友人・知人23.4%(41)
4.家族・親戚 6.3%(11) 5.恋人 12.6%(20) NA(1)

Q76 その映画を見た映画館の最寄駅の鉄道会社名と駅名をお答えください。

大阪キタ 23.4%(41) 大阪ミナミ 4.6%(8) 神戸市中心部 7.4%(13) 京都 1.7%(3) 西宮北口 46.3%(81)
その他 16.6%(29)

Q77 全員にうかがいます。国内旅行についてお聞きします。これより以下の国内旅行についての質問は、「出かけ先での活動内容に関わらず、非日常場所に「自宅以外(車中泊含む)で一泊以上」すること。」とお考えください。あなたは今年の4月1日から9月30日の間で国内旅行に行きましたか。「いいえ」の方は質問82へお進みください

はい 61.2%(158) いいえ 38.8%(100) NA(10)

最小値 1回 最大値 10回 平均値 2.4回 (有効ケース:158)

Q79 あなたが直近で行った国内旅行の場所はどこですか。あなたが行った場所の中心となる都道府県を選択肢の中から一つお選びください。

東京 18.4%(9) 沖縄 10.1%(16) 兵庫 7.6%(12) 三重 7.0%(11) (以下割愛) (有効ケース数:158)

Q81 あなたが直近で行った国内旅行は誰と行きましたか。選択肢から一つお選びください。

① 一人で8.2%(13) ②学内の友人・知人 46.8%(74) ③学外の友人・知人 20.9%(33) ④ 家族・親戚 14.6%(23)
⑤ 恋人 9.5%(15)

Q82 全員にうかがいます。平日の平均テレビ視聴時間は何時間ですか。録画したものを見る時間も含まず。(半角数字のみ・小数点可)

最小値 0.25時間 最大値 7.0時間 平均値 2.1時間 (有効ケース数:247)

Q83 11月9日から15日の一週間でテレビ番組を録画しましたか。

(「いいえ」を選んだ人はここで質問終了です)

はい 46.5%(120) いいえ 53.5%(138) NA(10)

Q84 一週間でテレビ番組を何本録画しましたか。

最小値 1本 最大値 29本 平均値 4.2本 (有効ケース数:115)

Q86 録画した時間は合計何時間ですか。(半角数字のみ・小数点可)

最小値 0.5時間 最大値 50.0時間 平均値 5.6時間 (有効ケース数:113)

活動記録

徳島合宿

徳島大学矢部ゼミ・関西学院大学大谷ゼミ合同ゼミ

開催日 2014年7月30日

当日のタイムスケジュール

o. あいさつ

1. 鳴門市企画総務部 梶原さんによる鳴門市の紹介(11:05.....11:30)

2. 昼休み (11:30-12:30)

3. フィールドワーク (12:30-14:30)

予定:ドイツ館 ~ 一番札所霊山寺 ~ 鳴門スカイライン ~ 渦の道

4. ワールドカフェ(14:30-16:30)

7月29日 (合宿1日目)

三ノ宮駅から鳴門へと向かうバスに乗り、揺られること3時間、到着直前に車窓から見える鳴門海峡に興奮しながらも鳴門に到着。到着後は鳴門市企画総務部の方々と合流し、海水浴場までの道のりで鳴門市内を案内してもらいました。

海水浴場に着くと、海に入って波に向かったり、砂遊びをしたり、野球をしたりなど、様々なことをして楽しい時間を過ごしました。民宿に到着後、大谷先生も合流し、鳴門の海の幸に舌鼓を打ち、花火やお酒を楽しみながら夜は過ぎていきました。

男子野球と小さな仲間



7月30日 (合宿2日目)

徳島合宿2日目。民宿を出発し、鳴門市役所へ向かい徳島大学の矢部ゼミのみなさんとの合同ゼミがスタート。鳴門市企画総務部の梶原さんより鳴門市の概要について説明を受け、昼食の後フィールドワークを行いました。ドイツ館 ~ 一番札所霊山寺 ~ 鳴門スカイライン ~ 渦の道のルートで行い、鳴門市の観光資源を肌で感じる事ができました。市役所に帰った後は矢部ゼミのみなさんとワールドカフェ形式で2時間議論をしました。



鳴門スカイラインの風景



ドイツ館での集合写真

合同ゼミが終わった後、徳島市に移動して、「よし乃」にチェックインを済ませ、徳島駅の近くにある居酒屋で矢部ゼミのみなさんと合流し合同コンパがスタート。大谷先生の過去の武勇伝が飛び出すなど、大いに飲み、大いに語り合い、ゼミの垣根、年齢を超えた一夜となりました。



合同ゼミの様子が2014年7月31日の徳島新聞に掲載されました。

7月31日（合宿3日目）

合宿最終日である3日目は再び場所を鳴門に移し、出発までの時間を鳴門観光に費やしました。最初に行ったのは大谷焼体験です。ここではみんな無心で自分の作品に向き合っていましたが、ゼミ生の一人が師範の方の手によって、作品をやり直すように命じられたとき、その周りも笑っていました。

大谷焼完成後の集合写真



その後、梶原さんの案内で名物の徳島ラーメンを食し、鳴門海峡へ向かい、渦潮船に乗りました。前日に渦の道で見た渦潮がさらに近くで見られるうえに、渦の流れを体で感じることができ、大興奮でした。



渦潮船にて

そんな興奮冷めやらぬうちに三ノ宮へと戻るバスに乗り込み、無事3日間にわたる合宿は終了しました。

合宿を終えて

今回の徳島合宿で、先生の人脈によってさまざまな人に出会うことができました。合同ゼミも含め貴重な時間を過ごすことができました。最後にこの場をお借りしまして、徳島大学矢部ゼミの皆様、鳴門市企画総務部の皆様へ私たちにこのような機会を作っていただいたことに対し、お礼申し上げます。

「内閣府の景気ウォッチャー調査」に関する講演会

日時： 2015年5月19日（火） 3限・4限（13：00～16：40）

場所： 社会学部棟 3階 セミナールーム

講師： 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（地域担当）廣瀬 健司さん

内容： 政府の政策立案過程における統計調査、社会調査の役割に関する講演とディスカッション。内閣府の世論調査や景気ウォッチャー調査の実際の実施過程や昨年の消費税増税が延期となった背景等について具体的に話していただく。

2015年5月19日のゼミ活動の時間に内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（地域担当）廣瀬健司さんを招き、「内閣府の景気ウォッチャー調査」に関する講演会を開催しました。まず、学生が参考文献などをもとに景気ウォッチャー調査についてまとめたレジュメを使って発表したのち、廣瀬氏より補足の説明を受けました。そこから、学生が景気ウォッチャー調査に関する質問をし、答えていただいたことをベースに議論を進めていきました。

この時間を通して、これまでは、統計調査をベースに政策立案を行ってきたが社会情勢の変化と数字にずれが生じていることがわかり、統計調査が限界を迎えてしまっていること、それによって社会調査のような人の声に着目する必要があるという考えに至り、この景気ウォッチャー調査が生まれたということがわかるなど景気ウォッチャー調査や社会調査についての知識を深めることができました。

私たち学生は最初こそ緊張していましたが、学生の質問の一つ一つに対して丁寧に答えていただいたことで緊張がほぐれ、時間が進むにつれて積極的に意見をぶつけていくようになり、白熱した議論が展開されました。

その後、夜は西宮北口にて交流会を行いました。交流会では、ディスカッションよりも近い距離で交流することで、さらに深い議論や就職活動中であった4回生の悩み相談などに答えていただくなど、楽しいひと時になりました。

この場をお借りしまして、廣瀬さんには、貴重なお時間を我々に費やしていただいたことに御礼を申し上げます。ありがとうございます。



香港・深セン旅行

日程 2016年2月27日～29日

大谷ゼミ4回生有志と先生で、院生の肖さんの地元である中国へ。

参加メンバー:松永・山崎・小山・栄永・半田・京極・中村・大谷先生・肖さん

2月27日(1日目)

早朝から関西国際空港で集合し、直行便でいざ香港へ。元々格安旅行のプランであったため、それぞれが離ればなれの席になりながら、約4時間かけて空港に到着。ホテルまでは二階建てのバスで、異国の不気味な建築物を見ながら移動。なんだか大谷先生は終始楽しそうでした。



異国情緒あふれる香港の町並み

しかしバスを降りたあと、栄永がパスポート、財布等すべて入ったバッグをバスに置いていってしまい大ピンチ！ 皆の笑顔が消えてしまいますが、その後、現地ホテルマンの対応で奇跡的に見付き、ひと安心することができました。

夕食は尖沙咀で中華料理。その後、香港島の夜景ライトアップを観賞して1日目は終了。



100万ドルの夜景

2月28日(2日目)

2日目は香港から深センへ移動。地下鉄で繋がっているためアクセスはしやすかったです。肖さんと福田口岸駅で合流し、深センを観光。偽物ばかり売っている屋台街もあれば、あべのハルカスよりもはるかに高い高層ビルもあり、深センはとても雑多な都市でした。世界の窓というレジャー施設はミニチュアで世界が徒歩圏内に……。大谷先生は急流川下りコースターで大満足。最後に肖さんのお母さんが経営している中華料理店でディナー。スイートルームで超豪華な広東料理にゼミ生はタジタジであった。どれもとても美味しい料理ばかりで最高でした。



突如現れた凱旋門



こんな先生初めてです(笑)

2月29日(3日目)

朝食にお粥を食べて、その後香港島へ。高層ビルが立ち並び、大都市を感じることができました。あまり時間がなかったため、その後すぐに空港へ戻り、帰国の途へ……。



いつかまた……

旅行を終えて

香港と深センの人々の暮らしを間近で見ることができて色々今後の勉強になりました。
トラブルは多い旅でしたが、毎日中華料理を嗜み、終始楽しい旅行になって大満足！
最後に、肖さんと肖さんのご家族の皆様、本当にお世話になりました。謝謝！！



肖さんご一家と先生

16期生紹介 男子11人 女子8人 (順不同)

上田一誠

出身地：滋賀県
好きな食べ物：麻婆豆腐 嫌いな食べ物：貝類
ひとこと「183cm」

栄永千琴

出身地：大阪府
好きな食べ物：フライドポテト・筍 趣味・特技：ダラダラ過ごすこと

遠藤大貴

出身地：東京都
好きな食べ物：イカ飯 趣味・特技：ギターとか・炭酸飲料一気飲み
ひとこと「地元国分寺から早実が甲子園出場！激アツ！応援！！」

大野孝郎

出身地：大分県
好きな食べ物：魚 趣味・特技：柔道・釣り・麻雀
ひとこと「筋肉担当」

大村和也

出身地：千葉県
好きな食べ物：焼き鳥 趣味・特技：プロレス観戦・ギャンブル
ひとこと「ギャンブルに勝つとは言ってない」

川上桃子

出身地：鳥取県
好きな食べ物：リプトン 趣味・特技：まちあるき

京極周子

出身地：大阪府
好きな食べ物：抹茶スイーツ・和食 趣味・特技：書道・ピアノ・LIVE

小山源太

出身地：兵庫県
好きな食べ物：刺身 趣味・特技：教育・読書
ひとこと「ふくらはぎの筋力だけは絶対負けん」

下林拓躍

出身地：愛知県
留学中！

田代千賀

出身地：大阪府
好きな食べ物：米・アイス
趣味・特技：ロードバイク・バレーボール・陸上・（腕の）関節を反対に曲げること
アピールポイント「ストイック」

谷 瞳

出身地：兵庫県

好きな食べ物：ヨーグルト 趣味・特技：音楽鑑賞

中村美冴

出身地：大阪府

好きな食べ物：オムライス 趣味・特技：クラシックバレエ

西岡賢亮

出身地：香川県

好きな食べ物：たんろん 趣味・特技：アンガールズ

ひとこと「一緒に頑張ろう」

半田咲

出身地：広島県

好きな食べ物：アイスとお鍋 趣味・特技：多ステ・太鼓の達人

ひとこと「宴会隊長！」

藤田朱音

出身地：大阪府

好きな食べ物：ラーメン・エビチリ 趣味・特技：旅行・カメラ・水泳

ひとこと「よろしくおねがいます (^O^)」

松永篤史

出身地：神奈川県

好きな食べ物：ラーメン・牛丼 趣味・特技：歌うこと・DeNA観戦

ひとこと「宴会隊長！」

家高裕史

出身地：京都府

好きな食べ物：ラーメン・寿司 趣味・特技：麻雀・引きこもり

ひとこと「大谷ゼミ3年目突入決定」

山崎周平

出身地：兵庫県

好きな食べ物：カツオのたたき 趣味・特技：麻雀・アーセナルサポ・競馬・麻雀

ひとこと「ギャンブル入門講座やってます」

やんも (ニックネーム)

出身地：どこなんでしょう

好きな食べ物：アイスクリーム 趣味・特技：カードゲーム アニメ鑑賞

ひとこと「ペンデュラム召喚」

DVD目次

- 1章 大学生の生活時間について 社会生活基本調査概要
NHK生活時間調査概要
- 2章 大学生の消費行動について
- 3章 大学生の人間関係について 家計調査概要
- 4章 大学生の家族関係について 社会生活基本調査フェイスシート
国民選好度調査
- 5章 国勢調査過去調査との比較 国勢調査概要
1999年5大学調査. sav
- 資料編 駅コード一覧
通学路パターン早見表
2014年12月調査. sav
2015年7月調査. sav
2015年11月調査. sav
- 活動記録 景気ウォッチャー調査講演会資料

編集後記

2014年4月、大谷ゼミ16期生の活動が始まりました。そしてこれまでの2年間、学生の生活行動を把握するという研究をしてきました。その研究の過程で、就職活動の日程の影響により、作業が滞るなど研究を進めていくことに大変苦勞しました。また、自分たちの未熟さ故に先生のアドバイスを理解出来ず、何度も悔しい思いもしてきました。

それでも、決して心を折ることなく仲間と議論を重ね、時には励まし合い、たくさんの悔しさを乗り越えた結果、ようやく報告書として自分たちの研究を形にすることができました。

ここまで辿り着くまで、徳島大学の矢部先生、内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（地域担当）廣瀬さんをはじめとして、様々な方のご協力がありました。16期生を代表してこの場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりましたが、大谷先生には本当にお世話になりました。未熟者であった私たちを決して見捨てず、叱咤激励をしていただきました。16期生一同、この2年間の経験で得たものを胸に次のステージへ進んでいきます。

本当にありがとうございました。

大谷ゼミ 16期生一同



発行日 2016年3月3日

発行 関西学院大学社会学部 大谷研究室
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798 (54) 6378